

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2018 **看護学部** 授業
計画
看護学科

看 護 学 部

(学部略号：N)

Faculty of Nursing

看護学科

(学科略号：N)

Department of Nursing

◎教育研究上の目的

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観、心豊かな人間性と看護実践能力を備えた人材を育成し、地域社会における保健・医療・福祉の向上、看護の発展に貢献できる看護職者を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（看護学）の学位を授与します。

■知識・理解

[DP1] 心豊かな人間性と人や社会を理解するための幅広い教養を身につけている。
(基礎的教養)

[DP2] 対象理解や看護実践に繋がる看護や薬に関する専門的知識を身につけている。
(専門的知識)

■思考・判断

[DP3] 広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、問題を解決できる能力を身につけている。(問題解決力)

■関心・意欲・態度

[DP4] 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観をもって看護を実践できる力を身につけている。(倫理観)

[DP5] 保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し意欲的に他者と協働関係を築く力を身につけている。(チームワーク)

[DP6] 地域社会と看護の発展に貢献する意思をもち、看護職として自己研鑽の姿勢を身につけている。(学習意欲・態度)

■技能・表現

[DP7] 科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけている。(実践力)

[DP8] 多様な人々と信頼関係を築くことができるコミュニケーション力を身につけている。(コミュニケーション力)

[DP9] 学習や社会活動に必要な読解力・数理能力をもとに、自らの考えを表現する力を身につけている。(情報リテラシー)

◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

①心豊かな人間性を涵養し、広範な教養と幅広い視野を身につけるための基礎・教養科目を配置する。また、人間や人間を取り巻く社会への理解を深めるための教養科目を配置

する。

- ②身体を系統立てて理解し、健康・疾病に基づいた観察力、判断能力を養うための専門基礎科目群を配置するとともに、看護を実践するうえで必要となる知識を身につける各看護学専門領域科目群を配置する。

■思考・判断

- ③物事を探求する研究的思考を持ち続け、広く多角的に情報を収集する能力を身につけるための専門科目およびキャリア形成科目を配置する。各看護学専門領域科目群は、講義・演習・実習の授業形態により、知識、技術、態度が体系的に思考でき、確実な問題解決能力が養われるよう専門科目に「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」と看護と統合の実践科目群を段階的に配置する。

■関心・意欲・態度

- ④1～4年次まで、段階に応じた倫理観を養う「看護倫理」、「看護学概論」、「看護学実習」、「看護研究」などの専門科目を配置する。
- ⑤1～4年次まで、薬学部との協働学習によるチームワークを涵養するキャリア形成科目を配置する。また、保健医療チームの一員として協働関係を築く力を養う「看護学実習」を配置する。
- ⑥地域社会と看護の発展に貢献する「看護研究」、「統合看護学実習」などの専門科目を配置する。また、目指す看護職像を意識したうえでキャリア設計し、将来ビジョンを明確にしていく力を育むキャリア形成科目や「看護学実習」の専門科目を配置する。

■技能・表現

- ⑦科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけるために、講義・演習・実習の授業形態による専門科目「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」を段階的に配置する。
- ⑧多様な人々との信頼関係構築に必要なコミュニケーション力を身につけるために、キャリア形成科目に「患者コミュニケーション」、専門科目に「カウンセリング論」、「看護対人関係論」、「看護学援助論」、「看護学実習」などを配置する。
- ⑨自らの考えを表現するための情報リテラシーを身につける「情報リテラシー」、「統計の基礎」、「保健統計学」、「看護研究」、「看護学援助論」、「看護学実習」などを配置する。

◎アドミッション・ポリシー(AP:入学受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

- ①国語および外国語の文章を読み解き、かつ自分の考えを論理的に文章として書くことのできる基礎的な知識を有している。
- ②看護の基礎となる生命現象に対する数学、理科（生物・化学）に関する基礎的な知識を有している。

■思考・判断

③自然科学の現象について自ら調べ、論理的に考えることができる力を有している。

■関心・意欲・態度

④倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度を有している。

⑤主体的に課外活動やボランティア活動に参加し、他者と相互理解しようとする姿勢を有している。

⑥人や看護に関心があり、将来、看護職として地域社会に貢献したいと考え、主体的に学び続ける態度や柔軟な創造力を有している。

■技能・表現

⑦人と良好な関係を築き、他者の意見に耳を傾け、自分の考えも適切に相手に伝える力を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
イ		
医療英会話	ニール カー	145
医療経済論	田井 義人	9
エ		
英語Ⅰ	中道 英美子	146
英語Ⅰ	ヘドリックⅢ ロイ	147
英語Ⅰ	多田 さおり	148
英語Ⅱ	中道 英美子	149
英語Ⅱ	ヘドリックⅢ ロイ	150
英語Ⅱ	多田 さおり	151
英語Ⅲ	木村 理恵子	153
英語Ⅲ	天野 貴史	154
英語Ⅲ	ヘドリックⅢ ロイ	155
英語Ⅳ	大塚 正人	203
疫学	小堀 栄子	11
カ		
海外医療セミナー	富永 真己	13
カウンセリング論	吉田 幸平	14
家族関係論	石田 拓也	15
家族看護学	富永 真己	16
看護学概論	田中 結華	18
看護関係法規	松本 葉子	20
看護管理学	撫養 真紀子	22
看護教育学	中山 由美	24
韓国語Ⅰ	北島 由紀子	156
韓国語Ⅰ	北島 由紀子	157
韓国語Ⅱ	北島 由紀子	158
韓国語Ⅱ	北島 由紀子	159
看護研究Ⅰ	小堀 栄子	26
看護研究Ⅱ	鎌田 佳奈美	28
看護対人関係論	田中 結華	29
看護倫理	鎌田 佳奈美	31
患者安全	辻 琢己	267
患者安全	辻 琢己	270
患者コミュニケーション	田中 結華	273
患者コミュニケーション	田中 結華	275
感染と防御	伊藤 潔	32
キ		
基礎看護学実習Ⅰ	佐久間 夕美子	34
基礎看護学実習Ⅱ	中山 由美	35
基礎看護技術Ⅰ	佐久間 夕美子	36
基礎看護技術Ⅰ	佐久間 夕美子	39
基礎看護技術Ⅱ	中山 由美	42
基礎看護技術Ⅱ	中山 由美	44
基礎看護技術Ⅲ	佐久間 夕美子	46
基礎看護技術Ⅲ	佐久間 夕美子	48
基礎看護技術Ⅳ	中山 由美	50
北河内を知る	荻田 喜代一	205

科目名	担当者	ページ
キャリアデザイン	西 鶴 智 香	277
キャリア入門	松 田 千登勢	279
教育学	朝 日 素 明	207
ケ		
経済学	佐 藤 純 恵	208
コ		
公衆衛生学	小 堀 栄 子	52
コミュニケーション論	櫻 井 清 華	209
サ		
災害看護論	中 山 由 美	53
在宅看護学援助論Ⅰ	田 中 結 華	55
在宅看護学援助論Ⅱ	山 本 十三代	57
在宅看護学概論	後 閑 容 子	59
在宅看護学実習	田 中 結 華	61
シ		
疾病・治療論Ⅰ	小 崎 篤 志	62
疾病・治療論Ⅱ	小 崎 篤 志	63
疾病・治療論Ⅲ	小 崎 篤 志	64
疾病・治療論Ⅳ	大 橋 敦	65
疾病・治療論Ⅴ	西 村 史 朋	66
疾病・治療論Ⅵ	小笠原 一 能	68
周産期医学	西 村 史 朋	69
小児看護学援助論Ⅰ	鎌 田 佳 奈 美	70
小児看護学援助論Ⅱ	池 田 友 美	72
小児看護学概論	鎌 田 佳 奈 美	74
小児看護学実習	鎌 田 佳 奈 美	75
情報リテラシー	小 堀 栄 子	160
情報リテラシー	小 堀 栄 子	161
情報リテラシーⅠ	小 堀 栄 子	162
情報リテラシーⅠ	小 堀 栄 子	163
助産学概論	泉 川 孝 子	76
助産学実習	泉 川 孝 子	78
助産管理論	泉 川 孝 子	79
助産技術学演習	宮 本 雅 子	80
助産診断・技術学Ⅰ	宮 本 雅 子	82
助産診断・技術学Ⅱ	西 頭 知 子	84
助産診断・技術学Ⅲ	宮 本 雅 子	86
女性学	荒 木 菜 穂	210
女性学	荒 木 菜 穂	212
人体の構造と機能Ⅰ	吉 田 侑 矢	88
人体の構造と機能Ⅱ	岩 崎 綾 乃	90
人体の構造と機能Ⅲ	久 家 貴 寿	92
人体の構造と機能Ⅳ	山 口 太 郎	93
心理学	樋 口 隆 弘	214
ス		
スポーツ科学	藤 林 真 美	164
スポーツ科学	藤 林 真 美	165

科目名	担当者	ページ
スポーツ科学 I	藤 林 真 美	166
スポーツ科学 I	藤 林 真 美	167
セ		
精神看護学援助論 I	真 野 祥 子	94
成人看護学援助論 I	竹 下 裕 子	96
精神看護学援助論 II	山 本 智 津 子	98
成人看護学援助論 II	森 谷 利 香	99
成人看護学援助論 III	森 谷 利 香	101
精神看護学概論	真 野 祥 子	103
成人看護学概論	森 谷 利 香	104
精神看護学実習	真 野 祥 子	106
成人看護学実習 I	稲 垣 美 紀	107
成人看護学実習 II	松 本 葉 子	108
成人病態看護論	稲 垣 美 紀	109
生物・化学の基礎	真 島 崇	216
生命倫理	赤 塚 京 子	218
摂南大学 PBL プロジェクト I	橋 本 正 治	220
摂南大学 PBL プロジェクト I	石 田 裕 子	221
摂南大学 PBL プロジェクト I	浅 野 英 一	222
摂南大学 PBL プロジェクト I	久 保 貞 也	223
摂南大学 PBL プロジェクト I	鶴 坂 貴 恵	224
摂南大学 PBL プロジェクト I	尾 山 廣	225
摂南大学 PBL プロジェクト I	居 場 嘉 教	226
摂南大学 PBL プロジェクト I	一 色 美 博	227
摂南大学 PBL プロジェクト I	大 田 住 吉	228
摂南大学 PBL プロジェクト I	栢 木 紀 哉	229
摂南大学 PBL プロジェクト I	石 井 信 輝	230
摂南大学 PBL プロジェクト I	水 野 武	231
摂南大学 PBL プロジェクト I	上野山 裕 士	232
摂南大学 PBL プロジェクト I	吉 田 佐 治 子	233
摂南大学 PBL プロジェクト I	藤 林 真 美	234
摂南大学 PBL プロジェクト II	橋 本 正 治	235
摂南大学 PBL プロジェクト II	石 田 裕 子	236
摂南大学 PBL プロジェクト II	浅 野 英 一	237
摂南大学 PBL プロジェクト II	久 保 貞 也	238
摂南大学 PBL プロジェクト II	鶴 坂 貴 恵	239
摂南大学 PBL プロジェクト II	尾 山 廣	240
摂南大学 PBL プロジェクト II	居 場 嘉 教	241
摂南大学 PBL プロジェクト II	一 色 美 博	242
摂南大学 PBL プロジェクト II	大 田 住 吉	243
摂南大学 PBL プロジェクト II	栢 木 紀 哉	244
摂南大学 PBL プロジェクト II	石 井 信 輝	245
摂南大学 PBL プロジェクト II	水 野 武	246
摂南大学 PBL プロジェクト II	上野山 裕 士	247
摂南大学 PBL プロジェクト II	吉 田 佐 治 子	248
摂南大学 PBL プロジェクト II	藤 林 真 美	249
専門日本語 F I	佐々木 成 美	168
専門日本語 F II	門 脇 薫	169
専門日本語 R	佐々木 成 美	170

科目名	担当者	ページ
ソ		
総合看護学演習	鎌 田 佳 奈 美	110
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	250
タ		
代謝栄養学	竹 内 健 治	111
チ		
地域看護学	富 永 真 己	112
地域貢献実践演習	鶴 坂 貴 恵	252
地域と私	鶴 坂 貴 恵	253
中国語 I	宋 東 平	171
中国語 I	宋 東 平	172
中国語 II	宋 東 平	173
中国語 II	宋 東 平	175
テ		
哲学	森 本 誠 一	255
ト		
統計の基礎	小 堀 栄 子	177
統計の基礎	小 堀 栄 子	178
総合看護学実習	鎌 田 佳 奈 美	114
ニ		
日本語会話 F I	藤 原 京 佳	179
日本語会話 F II	藤 原 京 佳	180
日本語会話 R	藤 原 京 佳	181
日本国憲法	小 宮 山 直 子	258
日本語総合 F I	古 川 由 理 子	182
日本語総合 F II	古 川 由 理 子	183
日本語総合 R	古 川 由 理 子	184
日本語読解 F I	佐々木 成 美	185
日本語読解 F II	佐々木 成 美	186
日本語読解 R	佐々木 成 美	187
日本語表現作文 F I	佐々木 成 美	188
日本語表現作文 F II	佐々木 成 美	189
日本語表現作文 R	佐々木 成 美	190
日本語表現法	南 谷 静 香	191
日本語表現法	南 谷 静 香	192
日本語文法 F I	佐々木 成 美	193
日本語文法 F II	佐々木 成 美	194
日本語文法 R	佐々木 成 美	195
日本事情 F I	梅 野 将 之	196
日本事情 F II	門 脇 薫	197
日本事情 R I	梅 野 将 之	198
日本事情 R II	門 脇 薫	199
ヒ		
病院薬学演習	菊 田 真 穂	115
病理学総論	小 崎 篤 志	117

科目名	担当者	ページ
-----	-----	-----

フ

文学	大橋直義	259
文化人類学	西垣有	260

ホ

法学入門	安藤由香里	261
保健医療福祉行政論	富永真己	119
母性看護学援助論Ⅰ	泉川孝子	121
母性看護学援助論Ⅱ	名草みどり	123
母性看護学概論	泉川孝子	125
母性看護学実習	泉川孝子	126
ボランティア活動論	森本誠一	262

ヤ

薬物治療学	田中雅幸	128
薬理学総論	荻田喜代一	129

リ

臨床医療演習Ⅰ	松本葉子	281
臨床医療演習Ⅱ	松本葉子	283
臨床看護学演習Ⅰ	松本葉子	130
臨床看護学演習Ⅱ	松本葉子	132

ロ

老年看護学援助論Ⅰ	小川宣子	134
老年看護学援助論Ⅱ	小川宣子	136
老年看護学概論	松田千登勢	138
老年看護学実習Ⅰ	松田千登勢	139
老年看護学実習Ⅱ	松田千登勢	140
老年看護学実習Ⅲ	松田千登勢	141

專 門 科 目

科目名	医療経済論	科目名(英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。 看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。 動画によって米国の医療制度について考察し、日本における皆保険制度についての理解を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。 医療における財・サービスの交換システムの特異性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。 後半は、看護職の管理的立場の職種である看護部長において求められる考え方について講義する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。 経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	経済学からみた看護サービス	経済活動と医療経済との違いについて講義する。		第I章
2	社会経済環境の変化と看護師雇用の現状	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。		第II章
3	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師が他職種の業務を担うメカニズムについて講義する。		第III章
4	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。		第IV章
5	看護師の労働供給	看護師の労働力提供の体系について説明する。その主な原因である結婚と出産・育児について講義する。		第V章
6	看護師の労働需要と市場構造	労働市場における搾取と労働力不足について講義する。		第VI章
7	人的資本論から検証する労働条件格差	看護師間で生じている賃金格差の状況を確認した上で、その格差を、教育やトレーニングにより養成される技能の差異をもって説明する「人的資産」の視点から講義する。		第VII章
8	市場の階層性が生み出す賃金格差	日本における看護師の労働市場構造において、人的投資の機会費用をはじめとして看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。		第VIII章
9	職務価値からみた賃金格差	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。		第IX章
10	看護師の雇用政策とインパクト	看護師の労働市場にどのような影響を及ぼしそして雇用にどう影響を与えたのかについて講義する。		第X章
11	よりよい看護を実現するために	看護師の働きが、そして技能が正当に評価され、消費者である患者に対してよりよい看護サービスを生産し、それをどのように提供していくかについて講義する。		第XI章
12	診療報酬および経済政策のポイント理解と習熟度確認試験。(予定)	診療報酬制度および看護職が直面する経済政策のポイントを説明し、その後論述形式での中間試験を行う。		これまでの配布資料、教科書および直筆ノートのみ持込可。
13	看護管理職の備えるべき視点1	「看護部長の基本事務、変化への対応力、看護部長の組織管理、マネジメント技法への関心度、専門看護職と組織改革、看護部門の組織文化」について講義する。		配布資料
14	看護管理職の備えるべき視点2	「変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力、情報マネジメント、コミュニケーション、看護業務の変化、苦情対応のマネジメント、組織フレームワークの再検討」について講義する。		配布資料
15	看護管理職の備えるべき視点3	「コスト意識と金銭感覚、看護情報提供と看護連携、看護業務の電子化、病院統治力」について講義する。		配布資料

関連科目 労働経済学、ミクロ経済学、経営学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。 ・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識(経済学等の社会科学科目)も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。 			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階 田井准教授室(経済学部)			
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から必要な項目を説明する。			

科目名	疫学	科目名(英文)	Epidemiology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	授業では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的な考え方を学ぶ。まず、疾病とそのリスク要因の関係に注目した説明変数と結果変数という考え方、因果関係と関連の違い、各研究デザインの利点と限界、そして誤差・バイアスについて学ぶ。最後に、スクリーニングについての基本事項と、人を対象とする医学研究についての倫理について取り上げる。
到達目標	疫学および保健統計を含む統計学の基本を学び、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果(資格)	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	
2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
3	疫学研究デザイン(1)	因果推論、介入研究(1)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
4	疫学研究デザイン(2)	介入研究(2)、観察研究(1)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
5	疫学研究デザイン(3)	観察研究(2)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
6	誤差とバイアス(1)	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
7	誤差とバイアス(2)	情報バイアス、選択バイアス、交絡、交絡の調整	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
8	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・わからない点を解決すること(適宜)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	統計の基礎
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために	片平 潤彦	桐書房

	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 8 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、疫学・保健統計を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。 			
担当者の 研究室等	7号館3階24			
備考	なし			

科目名	海外医療セミナー	科目名(英文)	International Health Care Seminar
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6◎		

授業概要・目的	実際に海外の臨床現場を訪れ、そこで行われている看護の実践について学ぶ。現地では病院見学・講義等を行い、看護・保健・医療をめぐる事情について学習する。日本とは異なる社会環境の中で実践されている臨床現場での学習を通して、日本の看護とそのあり方についてもう一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について考える機会とする。																																																																		
到達目標																																																																			
授業方法と留意点	事前研修、海外研修、報告会をおこなう。																																																																		
科目学習の効果(資格)	-																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設を見学し、また現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。</td> <td>-</td> </tr> <tr><td>2</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>3</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>4</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>5</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>6</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>7</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>8</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>9</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>10</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>11</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>12</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>13</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>14</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>15</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設を見学し、また現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-	2	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	5	-	-	-	6	-	-	-	7	-	-	-	8	-	-	-	9	-	-	-	10	-	-	-	11	-	-	-	12	-	-	-	13	-	-	-	14	-	-	-	15	-	-	-
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設を見学し、また現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-																																																																
2	-	-	-																																																																
3	-	-	-																																																																
4	-	-	-																																																																
5	-	-	-																																																																
6	-	-	-																																																																
7	-	-	-																																																																
8	-	-	-																																																																
9	-	-	-																																																																
10	-	-	-																																																																
11	-	-	-																																																																
12	-	-	-																																																																
13	-	-	-																																																																
14	-	-	-																																																																
15	-	-	-																																																																
関連科目	国際看護学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	事前学習、海外研修、報告会																																																																		
学生へのメッセージ	事前学習課題を行い、現地での体験を学びにつなげられるようにすること。 海外研修では自己の考えを表現し、研修内容を深まりのあるものにできるよう自ら働きかけること。 報告会ではディスカッションにより、他者との意見交換を行い、自己の学びを意味づけること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階研究室7(富永研究室)																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	カウンセリング論	科目名(英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田 幸平
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP8○		

授業概要・目的	<p>対人援助職が臨床現場で求められる能力は多岐にわたるが、その中に「コミュニケーションの技術」が含まれる。臨床現場で生じるコミュニケーションは日常で用いられるコミュニケーションとは異なるものであり、専門的な知識と訓練及び経験を要する。カウンセリング論では、臨床心理学の理論を学習し、ロールプレイングで実践することでコミュニケーションの技術を獲得することを目標とする。また、講師の実際のケースを紹介することで治療的コミュニケーションを学ぶ機会を提供する。</p>																																																																		
到達目標	<p>本授業を通して、受容・共感といった対人援助職に必要な職業的姿勢に加え、臨床場面におけるコミュニケーションの技術を学ぶことができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>本授業は集中講義の形式を採り、講義に加え、グループワークなどの演習を中心に授業を進める。その性質上、遅刻や欠席はグループワークの進行を困難にするため、やむを得ない場合を除き原則として遅刻・欠席は認めない。 授業日の最後の時間に、毎回レポートを課す。本授業はレポート及びグループワークへの積極的参加を評価対象とするため、必ず提出を求める。もし提出が困難な場合は、速やかに講師に相談すること。 授業日の最初の講義で質疑応答の時間を作る。学生は前回の講義やグループワークで疑問に感じたことなどをレポートに記載し、講師がそれに対しフィードバックを行う。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>心理療法総論 看護と心理療法の相違 ロールプレイ①</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>治療場面での関係性</td> <td>コミュニケーションとは 治療場面における信頼関係の意義 信頼関係の構築のプロセス</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>カウンセリングにおける質問法</td> <td>質問の性質と効用 アセスメントにおける質問 グループディスカッション①</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>カウンセリングの実践</td> <td>ロールプレイ②</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>症例提示①</td> <td>講師によるカウンセリングの症例発表① レポート①</td> <td>講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>来談者中心療法と構成論的心理療法</td> <td>カウンセリングにおける治療者の姿勢 システム論的ものの見方 グループディスカッション②</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>構成主義的心理療法①</td> <td>システム論的コミュニケーション ロールプレイ③</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>構成主義的心理療法②</td> <td>“問題志向”と“解決志向” システム論的介入法</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>カウンセリングの実践</td> <td>ロールプレイ④</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>症例提示②</td> <td>講師によるカウンセリングの症例発表② レポート②</td> <td>講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>治療場面におけるアセスメント</td> <td>Bio/Psycho/Socialの視点 家族構造 グループディスカッション③</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>カウンセリングの実践</td> <td>ロールプレイ⑤</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>治療者の心理</td> <td>転移と逆転移、治療者の“枠組み” 「巻き込まれ」と「燃え尽き」</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>カウンセリングの実践</td> <td>ロールプレイ⑥</td> <td>積極的にグループワークに参加しましょう。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>振り返り</td> <td>講義内容の総括 レポート③</td> <td>講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	心理療法総論 看護と心理療法の相違 ロールプレイ①	積極的にグループワークに参加しましょう。	2	治療場面での関係性	コミュニケーションとは 治療場面における信頼関係の意義 信頼関係の構築のプロセス	積極的にグループワークに参加しましょう。	3	カウンセリングにおける質問法	質問の性質と効用 アセスメントにおける質問 グループディスカッション①	積極的にグループワークに参加しましょう。	4	カウンセリングの実践	ロールプレイ②	積極的にグループワークに参加しましょう。	5	症例提示①	講師によるカウンセリングの症例発表① レポート①	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。	6	来談者中心療法と構成論的心理療法	カウンセリングにおける治療者の姿勢 システム論的ものの見方 グループディスカッション②	積極的にグループワークに参加しましょう。	7	構成主義的心理療法①	システム論的コミュニケーション ロールプレイ③	積極的にグループワークに参加しましょう。	8	構成主義的心理療法②	“問題志向”と“解決志向” システム論的介入法	積極的にグループワークに参加しましょう。	9	カウンセリングの実践	ロールプレイ④	積極的にグループワークに参加しましょう。	10	症例提示②	講師によるカウンセリングの症例発表② レポート②	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。	11	治療場面におけるアセスメント	Bio/Psycho/Socialの視点 家族構造 グループディスカッション③	積極的にグループワークに参加しましょう。	12	カウンセリングの実践	ロールプレイ⑤	積極的にグループワークに参加しましょう。	13	治療者の心理	転移と逆転移、治療者の“枠組み” 「巻き込まれ」と「燃え尽き」	積極的にグループワークに参加しましょう。	14	カウンセリングの実践	ロールプレイ⑥	積極的にグループワークに参加しましょう。	15	振り返り	講義内容の総括 レポート③	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	心理療法総論 看護と心理療法の相違 ロールプレイ①	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
2	治療場面での関係性	コミュニケーションとは 治療場面における信頼関係の意義 信頼関係の構築のプロセス	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
3	カウンセリングにおける質問法	質問の性質と効用 アセスメントにおける質問 グループディスカッション①	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
4	カウンセリングの実践	ロールプレイ②	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
5	症例提示①	講師によるカウンセリングの症例発表① レポート①	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。																																																																
6	来談者中心療法と構成論的心理療法	カウンセリングにおける治療者の姿勢 システム論的ものの見方 グループディスカッション②	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
7	構成主義的心理療法①	システム論的コミュニケーション ロールプレイ③	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
8	構成主義的心理療法②	“問題志向”と“解決志向” システム論的介入法	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
9	カウンセリングの実践	ロールプレイ④	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
10	症例提示②	講師によるカウンセリングの症例発表② レポート②	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。																																																																
11	治療場面におけるアセスメント	Bio/Psycho/Socialの視点 家族構造 グループディスカッション③	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
12	カウンセリングの実践	ロールプレイ⑤	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
13	治療者の心理	転移と逆転移、治療者の“枠組み” 「巻き込まれ」と「燃え尽き」	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
14	カウンセリングの実践	ロールプレイ⑥	積極的にグループワークに参加しましょう。																																																																
15	振り返り	講義内容の総括 レポート③	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。																																																																
関連科目	臨床心理学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート70%、授業への積極的な関与30%																																																																		
学生へのメッセージ	<p>この授業では、講義はもちろんのこと、ロールプレイなどの実践形式の演習を中心に進めていきます。それは、実際に臨床場面に出て、その場で患者さんに接する際に役立つコミュニケーション能力を学習してもらうことが重要と考えているためです。楽しみながら、実際のカウンセリングの内容を学習していきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	授業時間外の質問に対しては、授業当日に連絡先を提示します。																																																																		

科目名	家族関係論	科目名(英文)	Family Relationship
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田 拓也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	本科目では、家族を構成する個人の資質と、その関係性の結果として表れるシステムという視点をもとに講義を行う。授業計画の前半では臨床心理学の知見から家族に関する基礎的な知識を深める。後半では、さまざまな臨床場面を想定した講義を行う。具体的には、身体的、心理的な問題にかかわらず、困難を抱える個人、あるいは家族について、アセスメントを行うための知識を獲得する。そして、そのアセスメントを根拠とした介入方法を考えることができるようになることを目指す。
到達目標	自身の経験にとらわれず、臨床心理学的な客観性に基づき、個人、家族の困難についてアセスメントできるようになる。また困難への介入方法について、自由に考えることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	講義が中心となるが、時に映像教材をもとにディスカッションを行う。質疑の時間も講義時間内に取り予定である。
科目学習の効果(資格)	援助専門職として、患者、患者の家族に関わる際の心理的援助の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	家族とは何か	オリエンテーション。	事前学習：なし 事後学習：なし
2	システムとしての家族	家族心理学、家族療法の基礎について、システムの視点から学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
3	夫婦関係	新たな家族を構成する基礎となる夫婦関係について、また対象選択に影響する心理について学習する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
4	子どもの誕生と家族	家族に新たなメンバーを迎え入れる際の心理について。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
5	子どもと親①	子どもの発達と、それを抱える環境としての親について学習する。①では特に、乳幼児期に焦点を当てる。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
6	子どもと親②	子どもの発達と、それを抱える環境としての親について学習する。②では特に、児童期以降について学習する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
7	子どもと親③	親子関係に関する映像教材を使用し、ディスカッションを行う。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
8	対象喪失と家族①	家族成員を失ってしまう際の心理について、様々な状況を想定して学習する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
9	対象喪失と家族②	模擬事例などを使用し、ディスカッションを行う。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
10	障害と家族①	障害を抱える家族、特に親が障害を抱えている子どものケアについて学習する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
11	障害と家族②	模擬事例などを使用し、ディスカッションを行う。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
12	家族を支える社会資源	家族、その支援者が使用できる社会資源、また使用する際の留意点について。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
13	治療における家族①	患者家族の心理について、またより良い治療を実現するための家族への接し方について学習する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
14	治療における家族②	患者家族の心理について、またより良い治療を実現するための家族への接し方について学習する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
15	まとめ	講義の総括を行う。	事前学習：なし 事後学習：全体的な講義内容の整理

関連科目	臨床心理学・カウンセリング論・心理学
------	--------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(100%)によって評価する。
----------	---------------------

学生へのメッセージ	どのような形であれ、人間だれしも家族から離れることはできません。自身の経験を振り返りながら、家族についての新たな視点を持てるようになってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	参考図書は随時、講義内で紹介する。
----	-------------------

科目名	家族看護学	科目名(英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3○, DP6○		

授業概要・目的	<p>家族看護学の理論の基礎的学習をし、家族看護における看護職の役割を理解する。家族は、家族員の疾病予防や疾病回復、健康管理において、お互いに重要な役割を担う。特に疾病をもつ家族がいる場合、それぞれの家族の関係性や役割、家族としての力関係などの変化があり、さらなる問題を克服する家族の力が問われる。本授業では、まず、家族看護学において用いられる理論を理解し、実践的の場で活用するアセスメント方法を学ぶ。そのうえで、家族のセルフケア力の向上を目指して、看護職としての家族への支援のあり方を具体的事例を用いて、考察する。</p>			
到達目標	<p>1. 家族看護学の目的、家族の定義について理解する。 2. 家族看護に用いる理論を学ぶ。 1) 家族発達理論、2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論 3. 家族看護過程の理解と、家族アセスメントモデルの理解 4. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢 5. 看護の専門領域における家族看護について学ぶ 1) 小児看護学における家族看護、2) 母性看護学における家族看護、3) 成人看護学(急性期)における家族看護、4) 成人看護学(慢性期)における家族看護、5) 老年看護学における家族看護、6) 精神看護学における家族看護、7) 在宅看護学における家族看護</p>			
授業方法と留意点	<p>講義およびグループ学習を用いた参加型授業をとりいれて積極的に学べるようにする。 講義のいは、既学習における学びを復習しつつ、看護の対象としての家族への理解を深めるようにする。 途中で、課題をもとにグループ学習を取り入れ、学生の講義への参加を促す。</p>			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	家族看護学とは何か 看護学における家族の理解	家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められていること 我が国の家族の現状と課題(看護の視点から)、家族と健康	テキスト1章を予習する 厚生省の指標の人口構成の章を確認する 事後学習は世帯構成と家族の変化、家族の役割について考察する。
	2	家族を理解するための理論1	1. 家族発達理論 2. 家族システム理論	テキストの該当部分を予習
	3	家族を理解するための理論2	3. 家族ストレス対処理論 1) ジェットコースター 2) ABCX, 二重ABCX 3) マッカバン MA によるモデルへの適応	テキストの該当部分を予習
	4	家族看護の過程、 家族アセスメントとは何か	家族看護過程の概要 家族のセルフケア機能	テキストの該当部分を予習
	5	家族アセスメントモデル	カルガリーアセスメントモデル ジェノグラム、エコマップの学習	テキストの該当部分を予習
	6	家族アセスメントモデル	フリードマン家族アセスメントモデル 家族生活力量モデル、家族エンパワーメントモデル	テキストの該当部分を予習
	7	家族看護における基本的な考え方と看護者の役割	1. 家族成員に対する援助 2. 家族の関係性に働きかける 3. 家族単位の社会性に働きかける	テキストの該当部分を予習
	8	家族看護における看護者の基本姿勢 今までのまとめ	1. 家族との関係のあり方 2. 看護者の基本的な姿勢 3. 学習のまとめ	テキストの該当部分を予習
	9	小児看護学における家族看護	小児看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	10	母性看護学における家族看護	母性看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	11	成人看護学(急性期)における家族看護	成人(急性期)看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	12	成人看護学(慢性期)における家族看護	成人(慢性期)看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	13	老年看護学における家族看護	老年看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	14	精神看護学における家族看護	精神看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	15	在宅看護学における家族看護	在宅看護学における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。事例を用いて学習する。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
関連科目	家族関係論ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学、理論と実践 第4版	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末試験、グループ学習、レポートなどを総合的に評価する。授業への欠席が多い場合は期末試験を受けることはできない。 評価は期末試験80%、グループ学習への参加状況とレポートの評価を20%として評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>予習復習を行い、授業への積極的参加を期待する。</p>			
担当者の 研究室等	<p>教員研究室は枚方キャンパス7号館3階。</p>			
備考				

科目名	看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		

授業概要・目的	初學者か?看護学を学ぶ?導入とし、基礎となる看護の基本的概念を学ぶ?、その後の看護学を発展させる基盤を形成する。看護の歴史を振り返り、看護の本質を探究し、保健医療システムとチーム医療における看護の役割を学ぶ?。看護の倫理と法的責任を知ること?、看護職者に必要な態度や社会的責任について考える。看護の現場と看護の機能を知ることを通して、看護の対象?ある人々への健康支援へのアフ?ローチの概略を学ぶ?。また、様々な看護理論を理解すること?、自身の看護観を発展させる基礎的能力を培う。
到達目標	下記の授業計画に沿って講義を行う。新入生を看護学の世界へ導き、今後の学習を動機づけるため、多くの写真、新聞記事や、闘病記など?の患者の手記、現場のエピソード?を活用して具体的なイメージを提示する。授業で?は教科書を用いるか?、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料も適宜追加する。授業で?はハ?ワーホ?イント等を用い、液晶フ?ロシ?ェクターで?投影しなか?ら講義を行うか?、要点やホ?イントを自分で?把握し、ノートやメモをとることも必ず?行うこと。また、毎回学生の意見を求めたいと考えている。積極的に発言し、大学生として学ぶ?態度で?授業に参加していた?きたい。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。新入生を看護学の世界に導き、今後の学習を動機づけるため、視聴覚教材や闘病記、現場のエピソードなどを活用し、具体的なイメージを提示する。授業では毎回教科書を持参すること。毎回の配付資料は、きちんとファイリングし、整理すること。授業ではパワーポイント等を用いて、講義を行うが、要点やポイントを自分で把握し、ノートやメモをとること。また、毎回学生の意見を求めたいと考えている。積極的に発言し、大学生として学ぶ?態度で授業に参加すること。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業か?イタ?ンス、看護とは何か	授業か?イタ?ンスで?授業計画、評価方法等の詳細について説明する。看護及び?看護学とは何かについて概観する。	事前課題:テキストの目次にと?のような項目か?あるかを確認してきて下さい。事後課題:テキストの第1章を復習して下さい。
2	看護の基本的概念(1):人間および?環境	看護における基本的概念のうち、人間および?環境を理解する。	事前課題:テキストの第3章を読んでください。事後課題:授業で提示した、「人間」や「環境」を理解するための主要概念について整理しておくこと。	
3	看護の基本的概念(2):健康	看護における基本概念のうち、健康について理解する。	事前課題:テキストの第3章を読んでください。事後課題:授業で学んだ健康の概念、諸指標、看護との関係を整理しておくこと。	
4	看護の資格と教育システム	看護職の様々な資格、およびその教育システムについて理解する。	事前課題:日本看護協会HPの、「キラリ!看護のシゴト」を視聴すること。事後課題:テキスト第8章を復習しておくこと。	
5	看護の歴史に見る看護の本質	世界と日本における看護の歴史的発展を理解し、その看護の本質を捉える	事前課題:テキストの第2章を読んでください。事後課題:看護の本質が歴史とともにどのように変化したかを整理しておくこと。	
6	保健・医療・福祉システムとチーム医療における看護の役割	社会における保健・医療・福祉のシステム、およびチーム医療による様々な活動と看護の果たすべき役割について解説する。	事前課題:テキストの第4章を読んでください。事後課題:授業中に提示した用語、関連する法律や制度について、整理しておくこと。	
7	看護の倫理と法的責任	看護実践における倫理と患者の権利について考え、社会に対する看護の法的責任について検討する。	事前課題:テキストの第6章を読んでください。事後課題:巻末資料の看護職の倫理綱領、ヘルシキ宣言、患者の権利を読み、授業内容を整理しておくこと。	
8	看護の現場と看護の機能(1)	看護の現場の実際と、看護の機能、看護実践の方法、看護過程について知る。	事前課題:テキスト第4、5章を読んでください。事後課題:授業で提示した法や制度、用語について整理しておくこと。	
9	看護の現場と看護の機能(2)	看護実践を支える、看護管理、医療安全について学ぶ。	事前課題:テキストの第7章、第9章を読んでください。事後課題:授業内容を整理しておくこと。	
10	看護理論の発展(1)	ナイチンゲール、パブロウ、ヘンダーソンの理論を紹介する。	事前課題:テキストの第1章の該当部分を読んでください。事後課題:各理論の特長を整理しておくこと。	
11	看護理論の発展(2)	オレム、およびワトソンの理論を紹介する。	事前課題:テキストの第1章の該当部分を読んでください。事後課題:各理論の特長を整理しておくこと。	
12	看護理論の発展(3)	ワトソンの理論を紹介するとともに、看護理論を様々な看護実践へ応用することを考える。	事前課題:テキストの第1章の該当部分を読んでください。事後課題:各理論の特長を整理しておくこと。	
13	グローバル社会と看護	グローバル社会における看護のありかた、災害における看護について学ぶ	事前課題:第10章を読んでください。事後課題:授業内容を整理しておくこと。	
14	まとめ(1)	今までの学びをまとめ、グループワークを行う。看護への理解を発展させる。	事前課題:グループで取り上げるテーマを各自考えてくること。事後課題:グループで発表の準備をしておくこと。	
15	まとめ(2)	グループワークでまとめた内容を発表する。	事前課題:グループで発表の準備をしておくこと。事後課題:テスト範囲等を示すので、授業全体を復習しておくこと。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書基礎看護学①看護学概論	宮脇美保子編	メヂカルフレンド社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケアの本質、生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ	ゆみる出版
	2	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
	3	看護覚え書：看護であること・看護でないこと	F. ナイチンゲール	現代社
評価方法 (基準)	定期試験およびレポート、グループワーク等の内容を総合して判定する。評価割合はレポートとグループワーク等（30%）、定期試験（70%）。なお、授業態度が不良の場合、20%を限度に減点する場合がある。			
学生への メッセージ	看護学部によろこそ！人間を見つめ、その健康を支えることのできる看護学について皆さんと概観します。大学での講義スタイルになれ、適切にノートをとることも練習しましょう。また、大学では自分の意見や考えを持ち、それを言葉にして他者と話し合い、発展させることが求められます。積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階研究室9（田中）			
備考				

科目名	看護関係法規	科目名(英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	(概要) ・看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する。 ・チーム医療の中で看護職がどのような役割を担い、職務を遂行する必要があるのか理解するために、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ、保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を学ぶ必要がある。 ・看護職として職務を遂行するための根拠や判断基準が修得できるよう学ぶ。
到達目標	・保健師助産師看護師法の目的を説明できるようになる。 ・「ヒヤリ・ハット」、「医療事故」および「医療過誤」の区別を理解する。 ・医療従事者の行政責任、民事責任および刑事責任の内容を正しく理解する。 ・保健師助産師看護師法および周辺の医事法、医薬品医療機器等法、環境衛生法、社会保険法、労働法の重要事項を理解する。
授業方法及び留意点	ミニレクチャーと事前課題に基づいたディスカッション形式で行う。 必要に応じてレジュメを配布する。
科目学習の効果(資格)	看護専門職業人として必要な看護に関する法規の基本的事項を学び、職務を遂行するための根拠や判断基準の知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法の概念	・講義概要の説明 ・厚生行政のしくみ	・教科書の入手 ・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
2	看護法(1)	・保健師助産師看護師法	・事前：教科書該当箇所の精読 看護学概論で学んだ内容を復習しておく ・事後：要点をノートに整理
3	看護法(2)	・看護師等の人材確保の促進に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
4	医事法と看護(1)	・医療法	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
5	医事法と看護(2)	・医師法等医療関係職種に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
6	保健衛生法と看護(1)	・共通保健法 ・分野別保健法	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
7	保健衛生法と看護(2)	・感染症に関する法律 ・食品に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
8	薬務法と看護	・薬事一般に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
9	労働法と看護	・労務法 ・社会基盤整備	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
10	看護事故の法的責任(1)	・患者の人権と患者の権利 ・患者の自己決定権	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
11	看護事故の法的責任(2)	・医療過誤 ・刑事上の責任 ・民事上の責任 ・行政上の責任	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
12	看護職と介護職の協働	・介護職の資格制度と教育 目的・定義・免許・業務	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
13	看護学生の臨地実習と法の 関係	・臨地実習における事故の法的責任	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
14	時事的な医療関連の法律	医療関連法律のトピックス	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
15	全体のふりかえりとまとめ		・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理

関連科目 法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 70%、課題・グループワーク 30%
学生への メッセージ	看護職に関係する法律へ関心をもち、テレビ・新聞・インターネットなどから情報を得て、身の回りで体験している事象と関連付けて学んでいきましょう。実習とも関係があります。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室28 松本
備考	

科目名	看護管理学	科目名(英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	安田 照美、伊藤 恵子、撫養 真紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	<p>看護管理の視点から、組織・人材、社会・行政、情報、経済・経営、安全などに関する基本的な知識を学び、医療・看護の質の向上に向けた効果的で効率的な看護管理のあり方を検討する。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学習する。さらに、看護管理の目的は、看護活動によって人々の健康と幸福に貢献することであり、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全を患者・家族と協働し組織として取り組む方法などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>1回/ 安田 照美</p> <p>2回/ 伊藤 恵子</p> <p>5回/ 撫養真紀子</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関する制度・政策から組織のあり方と病棟管理までをシステムとして理解することができる。 2. 看護管理に関する諸理論と看護実践のあり方を説明できる。 3. 医療・看護の質向上において、看護管理のあり方や重要性が理解できる。 4. 看護専門職としてキャリア形成に向けて必要なことが考察できる。
授業方法と留意点	事前事後学習課題の欄に各回の内容に該当するテキストページを書いているので、テキストを読み予習をして授業に参加する。また、少人数でのグループ討議を行い学びを深める。
科目学習の効果(資格)	看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。看護師国家試験受験のための必須科目でもある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	看護管理の基本となるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理とは、ディスカッション ・看護管理の基盤となる知識 ・看護管理のプロセス 	<p>事前課題:教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p28-62)。統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。</p> <p>事後課題:講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。</p>
	2	看護活動ととりまく法律・制度	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理に関する法律 ・保健医療福祉政策と最近の動向 ・看護と専門機関・職能団体 	<p>事前学習:教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p198-220)。特に、保健師助産師看護師法を調べておく。</p> <p>事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。</p>
	3	病院における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスと経済のしくみ ・看護サービスマネジメント ・人的資源の確保と開発 ・労務管理 	<p>事前学習:本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。</p> <p>事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。</p>
	4	病院のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・医療機関の組織と機能 ・医療事故と安全管理 ・災害対応 ・病院機能評価 	<p>事前学習:本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。</p> <p>事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。</p>
	5	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理のスキル ・組織の理解 ・経営 	<p>事前学習:臨地実習で学修した管理について振り返っておく。</p> <p>事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。</p>
	6	看護職とキャリア	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人になる ・看護の教育体系 ・看護職としてのキャリア 	<p>事前学習:教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p168-186)。冒頭でキャリアについて小グループでの演習を行うので、自らのキャリアについて考えてくる。</p> <p>事後学習:自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。</p>
	7	看護の質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理と倫理 ・医療安全 ・医療・看護の質と評価 	<p>事前課題:教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p 110-136)。医療安全については授業の冒頭で質問をする。</p> <p>事後課題:臨地実習で実践していた医療安全を想起し学びを整理する。</p>
	8	看護管理に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメント ・人とかかわるためのスキル ・集団に働きかけるスキル ・グループワーク、ディスカッション 	<p>事前学習:教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書 p138-165)。人・集団に関わるために必要なスキルを考えてくる。</p> <p>事後学習:本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要なスキルについて考え整理する。</p>
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
関連科目	保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナース・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 第4版	吉田千文他	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 60%、課題・グループワーク 40%			
学生への メッセージ	看護管理は管理者だけが行うものではない。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待する。			
担当者の 研究室等				
備考	質問等があれば、メールアドレス (makiko_muya@cnas.u-hyogo.ac.jp) に連絡をしてください。 オフィスアワーは授業実施後です。 試験・レポートは後日、返却します。			

科目名	看護教育学	科目名(英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期後半	授業担当者	中山 由美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	看護教育制度の歴史の変遷や現状を理解できる。また継続教育について理解し、教育方法や教育評価について理解することができる。具体的には、看護教育制度、看護教育課程、看護継続教育、看護学教育における倫理的基盤、看護教育方法、および教育目標・計画等の立案、また看護教育評価等に関する基礎的知識を学び、看護師への継続的な教育の必要性や看護職の役割について理解を深める。
到達目標	1. 看護教育について自己の考えを述べることができる。 2. 看護教育制度の歴史の変遷を理解することができる。 3. 看護学教育における倫理について自己の考えを述べることができる。 4. 看護教育目標・計画立案・教育評価の立案の仕方を理解することができる。 5. 成人教育における教育者としての役割について述べるができる。 6. 今後の自己の学習姿勢について考えることができる。
授業方法と留意点	教科書および配布資料にて授業を行っていく。 教育者と学習者への倫理的配慮について、また成人教育の視点から講義および演習時の関わり方をグループワークまたは個人課題を通して自己の考えを明確にしクラスで共有する。
科目学習の効果(資格)	自己のキャリア形成にも関連し、また職場で教育的立場に立った時に役立つ基礎的知識を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護教育制度	看護教育の歴史の変遷について	事後学習：看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理し、看護教育の歴史の変遷をまとめる。
2	看護教育課程	指定規則と看護教育課程、カリキュラム構成について	事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について著書を読んでくる。 事後学習：本学のカリキュラム構成と指定規則との関係を考えてみる。また大学のアドミッションポリシーやカリキュラムポリシーとカリキュラムとの関連を考る。
3	生涯教育と看護継続教育	生涯学習と看護継続教育の意味を理解し、看護職者のキャリアデザインを検討する	事前学習：生涯学習と看護継続教育の意味を調べてくる。 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを検討する。
4	成人教育における学習理論	ペダゴジー (Pedagogy) とアンドラゴジー (Andragogy) の違いについて	事前学習：ペタゴジー (Pedagogy) とアンドラゴジー (Andragogy) について調べてくる。 事後学習：8回目の授業の発表資料を準備する。今まで受けてきた授業を一つ取り出し、どのような授業方法を実施すると学生が自主的に授業参加するか検討する。
5	看護教育学における倫理的基盤	看護学の学習過程で関連してくる倫理的視点を検討する。また教育現場で生じる倫理的視点を検討する	事前学習：自己の実習を振り返り、倫理的な課題を検討してくる。また教育者として配慮しないといけない倫理的視点とはどのようなものか検討してくる。 事後学習：6回目の授業でまとめた内容を発表できるように資料を作成する。
6	看護教育学における倫理的基盤	5回目の授業内容をグループで発表する	事前学習：発表資料を作成する。 事後学習：クラスで共有した看護教育における倫理的配慮について復習する。
7	看護教育目標・計画立案・教育評価	看護教育課程や養成所のアドミッションポリシーなどを踏まえた授業目標や授業計画を検討する視点を学ぶ	事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。 事後学習：大学のアドミッションポリシーやカリキュラムポリシーと科目の目標などとの関連を検討する。
8	成人教育における学習理論	基礎看護技術Ⅳの授業において成人教育における学習理論を活用した授業方法を検討しグループ発表する	事前学習：発表資料を作成する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレグ美鈴/池西悦子	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	筆記試験および課題やグループワークの資料などを総合して評価する。 定期試験 50%、課題やグループワーク等 50%。
学生への メッセージ	将来、どのような職場で働くとしても、指導的立場に立つ時期があると思います。そのような時に学習者に効果的な関わりや教育が実施できるひとになって欲しいと思っています。
担当者の 研究室等	7号館・3階 研究室2 (中山由美)
備考	

科目名	看護研究 I	科目名 (英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP7△		

授業概要・目的	授業では、卒業研究を行うにあたり、研究とは何か、関心のあるテーマをどのように絞り込むのか、研究目的をどのように立てるのか、データは何をどのように収集するのか、集めたデータをどのように分析・解釈するのか、研究倫理とは何かなど、研究の基本的事項を身につけ、研究計画書を作成する。前半10コマは授業・演習形式で、後半5コマは各領域に分かれてゼミ形式で行う。
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究の基礎を習得する。研究計画書が書けるようになる。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を理解する。
授業方法と留意点	講義と実習、ゼミ形式を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	研究の具体的プロセスと各段階で何をすればよいかわかるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	研究とは何か	研究の概要と研究テーマ	・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
2	研究テーマを決める	概念図を描く	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
3	研究の倫理	研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
4	文献の検索方法	主な文献検索ソフトの使い方	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
5	量的研究 (1)	研究論文の構成と内容	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
6	量的研究 (2)	文献の読み方、論文の書き方	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
7	量的研究 (3)	質問票の作り方	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
8	質的研究 (1)	研究論文の構成と内容	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
9	質的研究 (2)	インタビューガイドとデータ分析	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
10	研究計画書の書き方	演習	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
11	各領域でゼミ形式の授業 (1)	各領域による	各領域による
12	各領域でゼミ形式の授業 (2)	各領域による	各領域による
13	各領域でゼミ形式の授業 (3)	各領域による	各領域による

	14	各領域でゼミ形式の授業(4)	各領域による	各領域による
	15	各領域でゼミ形式の授業(5)	各領域による	各領域による
関連科目	疫学、統計の基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽しくなる看護研究	上野栄一 出口洋二 ノノ山隆司	メヂカルフレンド社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての看護研究 計画書の書き方編	メディカ出版	及川慶浩
	2			
	3			
評価方法 (基準)	前半10コマは、科目成績全体の70%、後半5コマ(ゼミ形式)の成績は、科目生成全体の30%とし、合計は延滞の60%以上を号が句点とする。全15回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、研究入門を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い 			
担当者の 研究室等	7号館3階24			
備考	なし			

科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP6◎, DP7◎		

授業概要・目的	「研究入門」「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を習得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表を行う。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。 4. テーマに沿った研究への取り組みができる。 5. 研究成果を論文にすることができる。 6. 研究成果を発表できる。 																		
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項(ポータル、掲示)を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指示を受け研究をすすめる。 ・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受ける。 ・研究計画書を作成する。 ・研究計画書に沿って研究を実施する。 ・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。 ・倫理審査を受けるため、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。 ・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。 ・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。 																		
関連科目	「看護研究Ⅰ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	成果物およびプレゼンテーションなどルーブリック指標を用いて評価を行う																		
学生へのメッセージ	自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。																		
担当者の研究室等	各担当教員研究室																		
備考	看護研究Ⅰ・Ⅱは、原則として同じ講師以上の教員が担当する。																		

科目名	看護対人関係論	科目名(英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△, DP8◎		

授業概要・目的	看護の場における対人関係についての基本的概念・技法の理解と修得を目指す。患者－看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、看護場面のロールプレイ等を用いた学生同士のグループ学習を通して修得する。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。
到達目標	1. 患者・看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションの際に必要な基本的技法について説明できる。 3. 看護場面のロールプレイを、コミュニケーションの基本的技法を用いて学生同士で行うことができる。 4. ロールプレイを通して、自分自身と他者のコミュニケーションの振り返りを行うことができる。
授業方法と留意点	講義で理論を説明し、その中で重要なコミュニケーション技法については小グループを編成し演習を行う。グループで協力して学ぶことが必要である。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に参加する態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。授業では、名札をつけて出席すること。またテキストを毎回持参すること。
科目学習の効果(資格)	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる力を付けます。また、全ての実習科目を行う上で、この科目での学びが重要です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返り学習することの重要性、グループの協力について説明する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
2	患者－看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
3	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていない場合は何も伝わらない。相手の気持ちを受けとめる会話による「受容」と「傾聴」について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
4	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(2)	「受容」と「傾聴」についてグループで練習し、相手の気持ちを受けとめる会話について、体験を通じた学びを行う。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
5	患者との会話を練習しよう(1)	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめることを目的にロールプレイを行う。学生同士で互いに協力して、役割を変えながら繰り返し練習する。観察役がフィードバックし、よりよいコミュニケーションになるよう練習する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
6	患者との会話を練習しよう(2)	前回の続きを行う。会話を通して、患者のことに耳を傾け、その気持ちを受けとめる関わりが、「共感」につながり、看護の重要なスキルであることを体験的に理解する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
7	現場での学び、チーム医療の人間関係	現場で学ぶことについて、視覚教材を用いて、実習に必要なマナーについて考える。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションする人間関係について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
8	まとめ	グループに分かれ、看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について話し合い、発表する。	事前課題：特になし。 事後課題：指示したテストの出題範囲について復習しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 看護学概論、各看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で現場で学ぶ際に基本となる科目です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業の参加度とレポート (60%)、筆記試験 (40%) により総合評価する。
学生への メッセージ	対人関係能力は看護実践に必須の基本的能力です。人と話し、「相手の立場にたって考える」姿勢をもつことが看護の基本です。また、どんな会話だったかという「事実」と、そのときの「気持ち・考え」を分けて話し合うことが重要です。コミュニケーションに失敗はありません。また、逆に100%の成功ありません。果敢に挑戦する行動を評価します。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室9 (田中)
備考	

科目名	看護倫理	科目名(英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。			
到達目標	1. 倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 2. 倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 3. あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける			
授業方法と留意点	統合実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出す。1事例を選択し、各グループで課題の整理および倫理課題のアプローチ方法に基づき、倫理的課題の整理および検討を行う。各グループで検討した内容のプレゼンテーションを行い、学びを共有する。			
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	倫理的課題の抽出	統合実習で各学生が体験した倫理場面についてグループで話し合い、課題を見出す	グループ検討
	2	倫理的課題の抽出	統合実習で各学生が体験した倫理場面についてグループで話し合い、課題を見出す	グループ検討
	3	看護倫理とは倫理課題へのアプローチ	看護における倫理倫理原則に基づくアプローチ法について	看護倫理における概念を調べておく 講義内容をまとめる
	4	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	課題についてグループワーク
	5	倫理課題へのアプローチの実際	・各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する ・プロダクトを作成し発表の準備を行う	課題についてグループワーク
	6	患者の権利尊重と倫理問題(基礎)	患者の権利擁護にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	7	老年患者の権利尊重と倫理問題(老年)	高齢者、認知症患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	8	慢性期成人患者の権利尊重と倫理問題(成人慢性)	慢性期にある成人患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	9	精神患者の権利尊重と倫理問題(精神)	精神疾患患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	10	生命の尊重と倫理問題(母性)	母体保護、出産をめぐる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	11	子どもと家族の権利尊重と倫理問題(小児)	子どもと家族にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	12	急性期成人患者の権利尊重と倫理問題(成人急性)	急性期にある成人患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	13	分娩・出産にまつわる倫理問題(助産)	遺伝子、生殖補助医療の現状と生命倫理の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	14	在宅療養者の権利尊重と倫理問題(在宅)	在宅療養者と家族にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
	15	まとめ	看護者としての倫理的態度、看護観を明確にする	授業内に指示する
関連科目	生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各領域から指示する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	9領域のからの課題が各10%、小テスト10%			
学生へのメッセージ	統合実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。また、皆さんが体験した倫理場面に応じて検討、プレゼンテーションがなされるため、シラバス内容および順番が変更する可能性があります。			
担当者の研究室等	7号館3階 鎌田研究室17、各実習担当教員他			
備考	・グループワーク課題内容については、統合実習担当教員からフィードバックする ・事前事後学習の総時間15時間程度			

科目名	感染と防御	科目名(英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 潔
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて練習問題や課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめたプリントを配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書とプリントの内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。
科目学習の効果(資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生学的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション(講義の概要について) 感染症とは何か?病原体とは何か?免疫とは何か?	講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習:教科書 p.43~p.56 を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
2	病原体の概要と分類	病原体(プリオン・ウイルス・細菌・真菌・原虫・寄生虫)の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習:教科書 p.4~p.9 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
3	免疫の概念	免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習:教科書 p.56~p.61 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
4	免疫系のネットワーク	自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習:教科書 p.62~p.66、p.70~p.71 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
5	免疫による感染防御と、免疫に基づく疾患	正常な免疫系が関与する疾患と、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習:教科書 p.66~p.70 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
6	微生物検査法・滅菌と消毒	病原微生物の存在や特性を知る方法と、それらを除去する方法について解説する。	事前学習:教科書 p.74~82、p.102~p.107 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
7	滅菌と消毒・化学療法・感染症の予防	病原体を除去したり殺滅する方法と、感染症の予防や治療について解説する。	事前学習:教科書 p.74~p.100 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
8	プリオンとウイルスのアウトライン	プリオンの特徴やプリオン感染症と、ウイルスの特徴・構造・分類・増殖などについて解説する。	事前学習:教科書 p.28~p.36、p.189 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
9	代表的なウイルス感染症-1	ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習:教科書 p.159~p.183 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
10	代表的なウイルス感染症-2	ウイルス感染症の例として、後天性免疫不全症候群(AIDS)を中心に解説する。	事前学習:教科書 p.184~p.190 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
11	細菌のアウトライン	細菌の形態・構造・遺伝子などについて解説する。	事前学習:教科書 p.12~p.25 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
12	代表的な細菌感染症-1	グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核	事前学習:教科書 p.111~p.126 とプリントの該当部分を熟読する。

			などについて解説する。	事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
	13	代表的な細菌感染症－2	グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 128～p. 158 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
	14	真菌・原虫・寄生虫のアウトライン	真菌・原虫・寄生虫の特徴や分類について解説する。	事前学習：教科書 p. 37～p. 41 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
	15	代表的な真菌・原虫・寄生虫感染症	真菌・原虫・寄生虫感染症の例として、マラリアや住血吸虫症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 191～p. 197 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジュアル微生物学	小田 紘	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかる、身につく病原体・感染・免疫	藤本 秀士	南山堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(100点満点中60点以上で合格)により総合評価する。			
学生への メッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。			
担当者の 研究室等	1号館5階 微生物学研究室			
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが要求される。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧める。			

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。 [実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。 また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。																
到達目標	1) 看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2) 看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3) 看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。																
授業方法と留意点	原則として実習病棟への学生配置は1グループ4～6人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 実習時期 9月上旬 2. 事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 3. 病院実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院内見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○病棟実習：看護場面を見学する。 入院患者とのコミュニケーションを通して、対象者の健康状態、生活状態や思いについて知る。 4. 学内実習 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。																
関連科目	看護学概論、対人関係論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	看護学生として初めての病院実習です。体調を整えて実習に臨みましょう。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室4 (佐久間)、共同研究室1 (北村、舟木、今井)																
備考	実習病院 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院																

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中山 由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>[実習目的] 看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護を導き出すための思考を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p> <p>[概要] 医療の場で療養生活を送る対象者を受け持ち、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開する。 既習の知識・技術を統合して、対象者が必要としている看護を実践する。 具体的には、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い、情報の分析から看護問題を抽出にする。対象者に即した援助の必要性を検討し、看護計画を立案・実施する。また看護計画や実践の評価方法を理解する。これらの実践過程を通して、自己の看護観について考えを深める。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。 2. 看護の場面への参加（日常生活援助・診療の補助など）を通して、対象者が必要としている支援に気づく。 3. 対象者の状態を理解するため集めた情報を関連図に記載する。 4. 気づいたことに着目して情報を集め、継続的に日々の看護計画を考える。 5. 立案した日々の看護計画を指導のもと、実施することができる。 6. 日々の看護問題、看護目標、看護計画および実施した看護について、評価、修正する方法を理解することができる。 7. 収集した情報をヘンダーソンの14のノードの枠組みで整理・統合・分析し、対象者の全体像を把握することができる。 8. 看護の支援が必要な問題を明確にし、日々の看護目標・看護計画を立案、実施・評価する。 9. 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。 10. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。 5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。 6. 原則として、入院中の患者を1名受持ち、対象者に適した看護過程の展開を段階的に行う。 7. 病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。 8. カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 9. 実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 10. 各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。 2. 病院実習 1月～3月に、以下の内容で8日間の実習を行う。 1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。 2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。 3) 収集した情報を整理して分析し、対象者の全体像を把握する。 4) 全体像から日常生活援助の必要性を導きだし、日々の看護上の問題を明確化する。 5) 得られた問題に対する日々の看護目標および実習目標を適切に設定する。 6) 日々の看護目標を達成するための看護計画を立案する。 7) 対象者が必要としている看護技術について気づき、対象者に応じた方法を検討する。 8) 立案した日々の計画を、指導の下で実施する。 9) 看護計画および実施した看護について、指導教員の指導のもと、評価・修正する。 10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。 11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術を復習して実習の準備をする。 12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。 13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。 14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。 15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。 16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。 																
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、薬物治療学など																
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書・なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書・なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教科書・なし																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>参考書・必要に応じて適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。 原則、全日休まず実習に参加していること。																
学生へのメッセージ	看護の対象者への関わりを通して支援の必要性を見出し、個性性を考慮した看護を考え実践できるようになりましょう。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室4 (佐久間)、共同研究室1 (北村、今井、舟木)																
備考	[実習場所] 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院																

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示しながら実施する。教員は少人数グループを担当し、個別に指導を行う。また、看護師及び患者役割の体験から援助技術に関するグループワークや発表等を行い、クラス全体での学びを深める。
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目。 基礎看護技術 II の履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整 (1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	療養環境の調整 (2)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	療養環境の調整 (3)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	療養環境の調整 (4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	療養環境の調整 (5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	体位の整え (1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	体位の整え (2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	体位の整え (3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	移動・移送の援助 (1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

			ること。
11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	身体の清潔(2)	清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の全身清拭を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を

			視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
25	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
26	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
27	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
28	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
29	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
30	学びのまとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎看護技術	阿曾洋子	医学書院
	2			
	3			

評価方法 (基準) 筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。
筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10%
筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。

学生へのメッセージ 基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキルを活用して下さい。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室4(佐久間)、研究室2(中山)、共同研究室1(北村、舟木、今井)

備考 技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。

科目名	基礎看護技術Ⅰ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示しながら実施する。教員は少人数グループを担当し、個別に指導を行う。また、看護師及び患者役割の体験から援助技術に関するグループワークや発表等を行い、クラス全体での学びを深める。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱの履修にかかわる科目。 基礎看護技術Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整(1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	療養環境の調整(2)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	療養環境の調整(3)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	療養環境の調整(4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	療養環境の調整(5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	体位の整え(1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	体位の整え(2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	体位の整え(3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	移動・移送の援助(1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

			ること。
11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	身体の清潔(2)	清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の全身清拭を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を

			視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
25	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
26	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
27	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
28	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
29	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
30	学びのまとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
関連科目	基礎看護技術Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎看護技術	阿曾洋子	医学書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。			
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキルを活用して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室4(佐久間)、研究室2(中山)、共同研究室1(北村、舟木、今井)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山 由美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を述べることができる。 診療に伴う看護技術を実践することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。 総合トレーニングでは、事例患者への援助方法をグループで検討後、実践方法を発表することでクラス全体で学びを深める。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。

				【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
16	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
19	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン洗腸、導尿法について理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い等を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
22	創傷管理	ガーゼ交換などの創傷処置と包帯法・三角巾法を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
23	導尿	膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
24	導尿	導尿・膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
25	栄養障害の看護 (栄養)	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
28	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や電法など体温の恒常性への援助方法について理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
29	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。		【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。
30	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。		【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (50%)、技術到達度チェック (20%)、課題レポートの提出状況と内容 (20%)、授業態度 (10%) 筆記試験、実技試験の受験資格は、原則、全ての授業および演習に出席していること。			
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。 適宜、自己学習において、ナーシング・スキルを活用するように。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室4 (佐久間)、共同研究室1 (北村、今井、舟木)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山 由美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を述べるができる。 診療に伴う看護技術を実践することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。 総合トレーニングでは、事例患者への援助方法をグループで検討後、実践方法を発表することでクラス全体で学びを深める。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。

				【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
16	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
19	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン洗腸、導尿法について理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い等を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
22	創傷管理	ガーゼ交換などの創傷処置と包帯法・三角巾法を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
23	導尿	膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
24	導尿	導尿・膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
25	栄養障害の看護 (栄養)	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
28	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や電法など体温の恒常性への援助方法について理解する。		【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。												
29	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。		【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。												
30	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。		【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。												
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。															
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名													
1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社													
2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社													
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎看護技術</td> <td>阿曾洋子他</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院				
番号	書籍名	著者名	出版社名													
1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院													
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (50%)、技術到達度チェック (20%)、課題レポートの提出状況と内容 (20%)、授業態度 (10%) 筆記試験、実技試験の受験資格は、原則、全ての授業および演習に出席していること。															
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。 適宜、自己学習において、ナーシング・スキルを活用するように。															
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室4 (佐久間)、共同研究室1 (北村、今井、舟木)															
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。															

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントと配慮について振り返る。また、アセスメントの思考過程をレポートにまとめ、その内容を元にグループワークやディスカッション、発表等を行い、学びを共有する。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			【事前課題】	【事後課題】
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	<p>筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 50%、実技課題 20%、課題レポートの提出状況及びアセスメントの思考過程 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。</p>			
学生への メッセージ	<p>「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室4(佐久間)、研究室2(中山)、共同研究室1(北村、舟木、今井)			
備考	技術演習時の身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントと配慮について振り返る。また、アセスメントの思考過程をレポートにまとめ、その内容を元にグループワークやディスカッション、発表等を行い、学びを共有する。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			【事前課題】	【事後課題】
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	<p>筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 50%、実技課題 20%、課題レポートの提出状況及びアセスメントの思考過程 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。</p>			
学生への メッセージ	<p>「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室4 (佐久間)、研究室2 (中山)、共同研究室1 (北村、舟木、今井)			
備考	技術演習時の身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中山 由美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP6○, DP7◎		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。
到達目標	授業および演習を通して、看護過程の展開方法を理解できる。 具体的には、事例を活用し、情報整理、情報の分析、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価方法、看護実践時の記録の記載方法および振り返り方法などを理解できるようになる。
授業方法と留意点	教科書を基本とし、適宜、配布資料を用い説明する。また看護過程の展開方法をイメージできるように視聴覚教材やパワーポイントを使用する。看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。 アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表を行ない、クラス全体で学びを共有する。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	看護過程の展開(1)	看護理論と看護過程の展開について、またヘンダーソンの理論と14の基本的ニードなどについて理解する。
2		看護過程の展開(2)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3		看護過程の展開(3)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4		看護過程の展開(4)	事例の全体像の把握、看護問題、看護目標の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5		看護過程の展開(5)	事例を通して、看護計画の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6		看護過程の演習(1)	グループワークにて、事例の情報分類を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
7		看護過程の演習(2)(3)	グループワークにて、事例の情報についてアセスメントを行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
8		看護過程の演習(4)(5)	グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。 また担当教員から指導を受け、情報整理・アセスメント内容をまとめる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
9		看護過程の演習(6)(7)	グループにて、関連図の検討を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
10		看護過程の演習(8)(9)	グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。 また担当教員から指導を受け、関連図をまとめる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
11		看護過程の演習(10)(11)	グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
12		看護過程の演習(12)	グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画の内容と実践を発表する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
13		看護過程の演習(13)	担当教員から指導を受け、看護計画をまとめる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14		看護過程の展開(6)	看護問題、看護目標、看護計画、看護実践内容などの評価方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15		看護過程の展開(7)	ケアの実践方法、患者の反応を記録に記載し、考察する方法が理解できる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。 提示された課題を期日までに行ってくること。

関連科目	基礎看護技術Ⅲおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
	2	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子	ヌーヴェルヒロカワ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポートおよびグループワークでの課題達成状況や授業参加度、授業態度などで評価する。 グループ課題達成状況 10%、グループワーク参加状況等 30%、個人レポート等 50%、小テスト 10%。 単位を取得するためには、原則、全ての授業および演習に出席していること。			
学生への メッセージ	基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。課題を達成していけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室2(中山)、研究室4(佐久間)、共同研究室1(北村、今井、舟木)			
備考	授業で行った内容については、小テストを行うので、その都度、配布資料と教科書を読み直すこと。 グループワーク時の課題については、適宜、指示をしますので次回期日までに行ってくること。			

科目名	公衆衛生学	科目名(英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響についても取り上げる。																																																																		
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心。視聴覚教材も用いる。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生とは</td> <td>公衆衛生の歴史と概要</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の人口</td> <td>日本の人口の現在と将来について</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>健康指標</td> <td>健康を測る</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>疾病予防と健康管理</td> <td>予防医学の考え方</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>感染症と予防</td> <td>感染症の疫学と予防</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>慢性疾患と予防</td> <td>慢性疾患の疫学と予防</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>環境保健</td> <td>環境が健康に及ぼす影響</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国際保健</td> <td>世界の健康・日本の健康</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	2	日本の人口	日本の人口の現在と将来について	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	3	健康指標	健康を測る	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	4	疾病予防と健康管理	予防医学の考え方	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	5	感染症と予防	感染症の疫学と予防	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	6	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	7	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	8	国際保健	世界の健康・日本の健康	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
2	日本の人口	日本の人口の現在と将来について	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
3	健康指標	健康を測る	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
4	疾病予防と健康管理	予防医学の考え方	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
5	感染症と予防	感染症の疫学と予防	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
6	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
7	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
8	国際保健	世界の健康・日本の健康	授業の復習を徹底して行うこと。関連のある最新ニュースに留意すること。																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	疫学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シンプル衛生公衆衛生学 2018</td> <td>鈴木庄亮</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民衛生の動向 2018/2019</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2018	鈴木庄亮	南江堂	2	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	シンプル衛生公衆衛生学 2018	鈴木庄亮	南江堂																																																																
2	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	試験 60%以上で合格。授業全 8 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い。 																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	災害看護論	科目名(英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山 由美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP7○		

授業概要・目的	災害を体験した対象者の心身の健康問題について理解するとともに、災害時の看護職(看護師、保健師等)の役割、トリアージ方法、救命救急時の看護について学ぶ。具体的には、災害に対応できる看護の知識を養うために、災害の概念、災害看護の定義および被災者のメンタルヘルス、各期における様々な活動の場での支援などについて学習する。また救命救急時の実際として、一次救命処置、二次救命処置、災害時のトリアージ方法について講義、演習を通して学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解することができる。 2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について述べることができる。 3. 災害サイクルに応じた看護支援活動と看護職の果たす役割を述べることができる。 4. 心のケア、トリアージおよび救急救命等を理解することができる。 5. 個人の備えと地域防災を理解し、具体的な備えを検討できる。 6. 国際的視野での看護活動を理解することができる。
授業方法と留意点	講義や演習において、配布資料、教科書、ビデオなどを用いる。本講義は、具体的に災害看護を実践できる基礎知識を養うためにグループでの救護活動や課題別グループワークなどをおこないますので、積極的に参加してください。
科目学習の効果(資格)	講義、演習およびグループワークを通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	災害発生時の校内における救護活動について	防災訓練時の救護法について、実際に学ぶ。(演習) 中山由美	教員からポータルより事前アナウンスを行います。
3	災害看護論の授業概要、災害看護に関する基礎知識 災害および災害看護に関する基礎知識	災害看護学を学ぶ意味、災害看護のあゆみ、災害看護について学ぶ。健康危機管理、災害の種類と各期などについて学ぶ。 中山由美	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
4	災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動 様々な活動の場の看護活動	病院、避難所、仮設住宅における看護師、保健師、訪問看護師などの活動について学ぶ。 松田千登勢	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
5	災害時に必要な技術(トリアージの概念・方法・課題)	トリアージについて学ぶ。事例での振り分けを行い学びを深める。(グループワークや演習を含む) 中山由美、今井秀人、舟木友美	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
6	災害時に必要な技術(トリアージの概念・方法・課題)	トリアージについて学ぶ。事例での振り分けを行い学びを深める。(グループワークや演習を含む) 中山由美、今井秀人、舟木友美	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
7	災被災者の心理のプロセスとこころのケア等	被災者の精神的援助について学ぶ。 松田千登勢	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
8	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。(グループワーク) 松田千登勢	課題別学習したことをまとめておくこと。
9	災害の取り組みについて	グループワークの結果を発表する。 松田千登勢	課題別学習した内容を発表し学びを共有する。
10	災害の取り組みについて	グループワークの結果を発表する。 松田千登勢	課題別学習した内容を発表し学びを共有する。
11	国際災害看護活動	海外での災害看護活動の実際と課題について概説する。 京極歌多子	授業内容について復習すること。
12	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。(演習) 中山由美、今井秀人、舟木友美	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
13	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。(演習) 中山由美、今井秀人、舟木友美	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
14	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。(演習) 中山由美、今井秀人、舟木友美	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
15	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の救護活動などについての実際を学ぶ。(演習) 中山由美、今井秀人、舟木友美	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。

関連科目 救急看護、臨床心理学、公衆衛生学および公衆衛生看護学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	災害看護学・国際看護学	日本赤十字社 事業局看護部 浦川喜久子他	医学書院
2				

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	災害看護一心得ておきたい基本的な知識	小原真理子監修／酒井明子監修	南山堂
	2	災害救護	勝見 敦・小原真理子編集	廣川書店
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験 50%、演習時のレポートや発表作成資料など 50%で評価する。			
学生への メッセージ	災害が頻繁に起こっており、看護職に期待される役割があると考えますので、災害への関心を持ってもらい、積極的に課題に取り組んで欲しいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館研究室2(中山由美)、研究室6(松田千登勢)、共同研究室1(今井秀人、舟木友美)			
備考				

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華・富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、および QOL の維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。 また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワークにより授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。各回にフィードバックカードの提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論Ⅱでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場に必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。 <事後課題>講義後のノート整理を行うこと
2	在宅看護の場に必要な面接技術 (2) ?	在宅看護に必要な面接技術についてグループで演習課題に取り組む。	<事前学習>第1回授業の内容を復習すること。 <事後課題>グループワークの課題提出
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例を用いてグループで取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に必要な看護技術について予習すること。詳細は授業時に指示する。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を分担し、各自が行う。
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	前回に引き続きグループで検討する。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること。
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	グループでの検討をまとめ発表準備をする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術: グループ発表と討議 (1) ??	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>次回発表できるように準備すること。
7	在宅看護に必要な日常生活援助技術: グループ発表と討議 (2)	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>他のグループの取り上げた日常生活援助技術についてテキストで予習しておくこと <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (1)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>テキストで各技術を予習しておくこと。 <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
9	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (2)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>テキストで各技術を予習しておくこと。 <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
10	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、専門看護師大杉花先生 (拓海会訪問看護ステーション) による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
11	COPD をもつ在宅療養者の看護	COPD をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。

			理、看取りについても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生（わたぼうし訪問看護ステーション）による講義と討議を行う。	<事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。
	15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	<事前学習>ノート、資料を整理しておくこと。 <事後課題> 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座統合分野在宅看護論	河原加代子他	医学書院
	2	ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術	臺有桂他	メディカ出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義・演習への参加態度 40% (フィードバックカード、グループワーク、レポート、発表、ピア評価も含める) 筆記試験 60%			
学生への メッセージ	在宅看護では、患者のことを「患者」とは言いません。「療養者」あるいは訪問看護を利用する「利用者さん」と呼称します。在宅援助方法の原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本 十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本 結美子 7号館 3階 共同研究室1			
備考				

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者への援助方法および家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ。 在宅における看護過程の展開の特徴と訪問看護の役割を述べるができる。 在宅で提供する援助技術が安全、安楽に実施できるための方法論、および系統的チームアプローチの実践について学ぶ。
到達目標	1. 在宅における看護過程の展開を理解できる 1) 事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 2) 対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 3) 療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 4) 計画内容の実践シミュレーションを計画できる(援助計画) 5) シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる 6) 看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる 2. 既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で、療養者、家族の身体的、精神的状況に応じて創意工夫して考えることができる。 3. 系統的チームアプローチについて理解できる。
授業方法と留意点	この授業は、演習科目です。以下のことを留意して受講してください。 ・事前学習、課題を通して講義内容の理解ができるようにしてください。 ・家族看護学で学んだジェノグラム、エコマップ、家族看護理論については理解しておくこと。 ・共同学習、グループ学習の場面が多くあります。個人の意見をもって参加できること、また、他者の意見に耳を傾けることが大切になる授業展開になります。
科目学習の効果(資格)	在宅看護学実習及び他領域実習に必要な「知識・技術・態度」を学ぶことができる。看護師国家試験学習のために知識の獲得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義: 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れを示す	看護過程の構成要素について復讐をしておくこと 事例については、提示した課題について自己学習して参加する
2	同上	同上 次回から検討する事例とグループと担当教員について発表する。 グループのリーダー、サブリーダーを決める。	事後学習課題について説明する。
3	演習: グループワーク(1) 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化	脳梗塞事例:6グループ×6人 ALS事例:12グループ×6人 教員(3人)別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、グループで情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	個人学習を必ずして参加する。 個人学習は授業終了後提出
4	演習: グループワーク(2) 同上	同上	同上
5	演習: グループワーク(3) 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、グループで看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	個人学習を必ずして参加する。 個人学習は授業終了後提出
6	演習: グループワーク(4) 同上	同上	同上
7	演習: 中間発表 具体的な援助内容の決定と計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容についてグループ内で打ち合わせを行い実演へ向けて準備する。	発表運営は、学生が行う。 グループの援助計画を担当教員に提出
8	実演: 援助技術の改善と訪問看護の実際	前半、後半グループに分かれる。在宅、成人の実習室で援助計画に沿って、援助を実演し、グループ間で創意工夫をして、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。 実演をしていないグループは情報処理演習室で発表資料の作成を行う。	援助計画については、頭に入れて参加する。 準備や片付けは全員で行う。 グループで準備する物品は忘れないこと。
9	同上	同上	同上
10	演習: グループワーク(5) グループ発表「実演内容と評価」の準備	実演の評価を行う。 発表運営、発表時の役割について決定する。 情報処理演習室で発表資料をパワーポイントで作成する。	発表資料を担当教員に1部提出

	11	演習: グループ発表「実演内容と評価」	担当教員ごとのグループ内で発表し意見交換する(1グループ10分程度)	発表は学生が運営する。時間厳守で行う。																
	12	演習: グループワーク(6) チームアプローチの実際 サービス担当者会議	同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について討議し、発表する。	ジェノグラム・エコマップについて復習しておくこと。 在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を持参すること。																
	13	演習: 個人ワーク(1) ロールプレイング(サービス担当者会議)の準備	社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。	レポートは授業終了後提出																
	14	演習: ロールプレイング サービス担当者会議	在宅・成人の実習室に分かれ、各グループ内で関係職種になり切り、サービス担当者会議に出席する。問題解決につながるようすすめる(30分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60分)。	レポートは授業終了後提出																
	15	在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-	在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ	ロールプレイングでの感想や自分なりの意見を持って講義に参加する。 演習後のレポート課題について説明する。																
関連科目	家族関係学、家族看護学、地域看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>根拠のわかる在宅援助技術</td> <td>正野逸子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版 在宅看護論</td> <td>木下由美子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社	2	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社																	
2	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>写真でわかる訪問看護</td> <td>押川眞喜子</td> <td>インターメディカ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる在宅看護</td> <td>角田直枝</td> <td>GaKKen</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>継続看護マネジメント</td> <td>長江弘子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ	2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen	3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ																	
2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen																	
3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版																	
評価方法(基準)	グループでの学習成果(提出物)や個人課題の提出物、演習への参加姿勢(ピア評価)、演習を終えての課題レポートを含めた点数評価;70点 定期試験;30点 全授業回数の2/3以上出席がない場合は、定期試験を受けられない。																			
学生へのメッセージ	演習中心(GW)に学習を進めていきます。 グループ学習は、個人の参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅で療養する人に必要な看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケアに必要な支援方法について学習しましょう。																			
担当者の研究室等	田中結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本結美子 7号館 3階 共同研究室1																			
備考	演習内容によっては、2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。																			

科目名	在宅看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	後閑 容子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴の理解ができる。 2. 在宅看護を支える制度と在宅看護の変遷について理解ができる。 3. 在宅看護に関わる社会資源とその活用方法、連携、看護職の役割を理解する 4. 在宅療養者の家族を支援する必要性を理解する 5. 在宅看護における倫理について理解する 6. 地域包括ケアシステムについて理解し在宅療養生活に必要な支援を知る 7. 在宅看護における倫理について理解する
授業方法及び留意点	授業計画に沿って講義を中心に進めていく予定である。教科書を用い、資料も配付する。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、DVDの活用、事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、次講義時間を活用する、あるいは教員の研究室の方に来るなど、その時の学びを大切に、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。
科目学習の効果(資格)	患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけではなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を持つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病院などの施設内看護と訪問看護(在宅看護)との連携: 切れ目のない看護を目指して	施設内看護と在宅看護を比較しながら、在宅看護の特性について、継続看護、在宅における医行為、チーム医療について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
3	在宅看護の法的基盤	介護保険、医療保険等、在宅看護の法的基盤や関連する制度について学ぶ。 講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携	在宅看護を支える多様な社会資源と、その活用について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
5	在宅看護と倫理	在宅看護における倫理、特に療養者と家族の意志決定を支える看護について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
6	在宅療養者と家族への看護	療養者、および家族と看護介護家族の状況(家族の介護負担とその軽減)、家族に関する理論などから学ぶ。 講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
7	地域包括ケアにおける在宅看護の役割、看護職の役割	地域包括ケア、および継続看護、チーム医療における看護職の役割を考える。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
8	訪問看護ステーションの看護	訪問看護ステーションの経営、看護管理、地域における役割について、ゲストスピーカーの講義によって学ぶ。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	家族関係論 地域看護学 専門科目の概論のすべて
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版
3			

評価方法(基準)	小テスト・レポート(10%) 定期試験(90%)を総合的に判断する。
----------	------------------------------------

学生への メッセージ	現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。病院看護との違いは、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(予習・復習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。15コマを通して在宅看護の理解に達します。欠席をしないように受講することが求められます。
担当者の 研究室等	7号館 3階 第8研究室 後閑容子、第9研究室 田中結華
備考	不定期に、小テスト、レポートを行う。授業での発言や課題・討議等に取り組む姿勢も評価の対象とする。参考書は大いに参照すること。文献等は授業でも紹介する。

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>実習目的 在宅で看護を必要としているあらゆるライフステージにある人々やその家族の生活の実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>到達目標 1) 訪問看護ステーションの組織・機構の概要について述べられる。 2) 地域看護における訪問看護の特性について述べられる 3) 対象の健康上の問題について述べられる 4) 対象に対する医療・福祉活動の実際について述べられる 5) 対象およびその家族の生活の実際について記述できる 6) 対象およびその家族に対する看護活動の実際について記述できる 7) 対象およびその家族の尊厳と権利を尊重した態度、行動をとることができる</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. 看護学臨地実習要項をよく読み理解した上で、在宅実習要項で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実践を見学/体験をする。 5. 実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 訪問看護ステーションで2週間(学内演習3日間、臨地実習7日間)の実習。 2. 実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3. 初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4. 訪問は1日2ケース(2ケース×7日のうち1ケースを継続訪問する)。 5. 2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6. 継続訪問の利用者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7. 他機関、他職種との協働の場面もあるので事前学習は確実にしておく。 8. 実習施設の最終日には、指導者を交えたカンファレンスの実施。 9. 学内最終日は、各施設ごとのプレゼンテーションを行い情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2, 3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2, 3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2, 3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>実習目標の達成度や実習態度を含めて評価する。 (実習への出席率によって目標の達成が困難な場合は確認・指導します)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本結美子 7号館 3階 共同研究室1</p>																		
備考	<p>体調管理に留意すること。</p>																		

科目名	疾病・治療論Ⅰ	科目名(英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾病・治療論(呼吸器2)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸機能検査などについて学習する	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(呼吸器3)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸器感染症などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(呼吸器4)	講義にて呼吸器疾患、主に免疫・アレルギー性肺疾患および間質性肺疾患の原因、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(呼吸器5)	講義にて呼吸器疾患、主に閉塞性肺疾患などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(呼吸器6)	講義にて呼吸器疾患、主に肺腫瘍の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(呼吸器7)	講義にて呼吸器疾患、主に肺循環異常・換気障害などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(循環器1)	講義にて循環器疾患、主に循環器の解剖生理、診察法等について学習する	教科書内授業部分の復習
9	疾病・治療論(循環器2)	講義にて循環器疾患、主に循環器の検査法等について学習する	教科書内授業部分の復習
10	疾病・治療論(循環器3)	講義にて循環器疾患、主にショックや心不全の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
11	疾病・治療論(循環器4)	講義にて循環器疾患、主に虚血性心疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
12	疾病・治療論(循環器5)	講義にて循環器疾患、主に不整脈疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
13	疾病・治療論(循環器6)	講義にて循環器疾患、主に心臓弁膜症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
14	疾病・治療論(循環器7)	講義にて循環器疾患、主に心筋・心膜疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
15	疾病・治療論(循環器8)	講義にて循環器疾患、主に血管疾患および高血圧疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習

関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
-----------	--------------------

担当者の研究室等	7号館3階 研究室23
----------	-------------

備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。
----	--

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に血液・膠原病・腎および泌尿器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(麻酔学)	講義で配布するプリントにて、麻酔学について学習する	配布プリントの復習
2	疾病・治療論(血液1)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(血液2)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(血液3)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(血液4)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(免疫・膠原病1)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(免疫・膠原病2)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(感染症1)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
9	疾病・治療論(感染症2)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
10	疾病・治療論(感染症3)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
11	疾病・治療論(感染症4)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(4)	教科書内授業部分の復習
12	疾病・治療論(腎泌尿器1)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
13	疾病・治療論(腎泌尿器2)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
14	疾病・治療論(腎泌尿器3)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
15	疾病・治療論(腎泌尿器4)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習

関連科目 病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準) 合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。

学生へのメッセージ 第2回以降、講義には指定教科書を持参して下さい。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室23

備考 病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疾病・治療論Ⅲ	科目名(英文)	Clinical Medicine III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に脳神経および骨関節疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心にプロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには解剖学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾病・治療論(脳神経2)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(脳神経3)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(脳神経4)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患(3)および水頭症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(脳神経5)	講義にて脳神経疾患、主に脱髄疾患および神経変性疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(脳神経6)	講義にて脳神経疾患、主に筋疾患および神経筋接合部疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(脳神経7)	講義にて脳神経疾患、主に認知症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(骨疾患など)	講義にて骨疾患、主に骨折や骨粗鬆症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	プリントの復習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.7 脳・神経		メディックメディア
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。

学生へのメッセージ 授業には指定教科書を持参して下さい。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室23

備考 病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疾病・治療論Ⅳ	科目名(英文)	Clinical Medicine IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大橋 敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	子ども特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。資料を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、解剖生理についての基礎的な知識が必要となる。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
3	小児の循環器疾患について	小児の循環生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
4	小児の血液疾患・悪性腫瘍について	小児に多い血液疾患、悪性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
5	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
6	小児の神経疾患について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常症、発達障害について理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
7	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、成長障害、代謝性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
8	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、小児看護学概論
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
3	ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学②	中野綾美 編集	メディカ出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児科学 第2版	金子一成 編集	金芳堂
2	小児の疾患と看護 小児看護③	中野綾美 編集	メディカ出版
3	小児臨床看護学各論 小児看護学②	奈良間美穂 他	医学書院

評価方法(基準)	合否判定は定期試験で判定する。筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	疾病・治療論Ⅳでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶にとどまらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論V	科目名(英文)	Clinical Medicine V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	西村 史朋
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	<p>《概要》 次世代を担う母性準備期(思春期)、母性が最も発揮する時期(成熟期)、母性継承期(更年期・老年期)にある女性の、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患(子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。(全8回)</p>
到達目標	<p>1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 婦人科疾患(月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について理解する。</p>
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD鑑賞・課題などの方法で学ぶ
科目学習の効果(資格)	母性看護学援助論Ⅰ、Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	婦人科疾患の診断と治療	遺伝と出生前診断、不妊治療について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
2	婦人科疾患の診断と治療	月経困難症と子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮がんについて学ぶ。エストロゲン欠乏が関連する疾患(更年期障害・尿失禁・骨粗鬆症)等	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
3	妊娠の経過と異常	妊娠の成立と全身の変化。妊娠期：妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価と IUGR、IUGR と将来の生活習慣病、胎盤機能の異常と IUGR、羊水の機能と生理	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
4	妊娠期の異常	ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常：妊娠初期の異常(妊娠悪阻、流産、異所性妊娠)、 妊娠中期(多胎妊娠、早期産、切迫早産)、 妊娠後期(前置胎盤、常位胎盤早期剥離) 妊娠期の感染症(母子感染について、麻疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、C型肝炎、成人T細胞性白血病、バルボウイルス B19 感染症、B群溶血性レンサ球菌感染症、梅毒、性器クラミジア、淋菌感染症、エイズ)	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
5	分娩の経過と異常	分娩期：陣痛発来について、胎位について、娩出力について、分娩監視装置について 分娩期：児頭の下降、フリードマン曲線 異常：産道の異常、微弱陣痛、過強陣痛、胎位の異常	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
6	分娩期の異常	胎児機能不全の診断について、吸引分娩、鉗子分娩、会陰部切開、帝王切開について、子癇、HELLP 症候群 *無痛分娩	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
7	産褥・新生児の異常	産褥期：産褥熱、精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について、産褥血栓症	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
8	産褥・新生児の異常	新生児の異常：新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム分娩時外傷、高ビリルビン血症、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症等	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院
2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気が見える vol10 産科		メディックメディア
2	病気が見える vol9 婦人科、乳腺外来		メディックメディア
3	成人看護学⑨女性生殖器	末岡 浩他	医学書院

評価方法 (基準)	定期試験 80%、レポート課題等 20%、授業参加度等を見て総合的に評価する。
学生への メッセージ	婦人科疾患（性・生殖機能障害など）、妊娠・分娩に関する健康障害について理解を深め、身体面だけでなく心理面、社会的側面に及ぼす影響について考える機会とするなどのたくさんの問いを持って、真摯に学んで下さい。
担当者の 研究室等	連絡担当：泉川孝子（研究室 15）
備考	授業担当は非常勤講師のため、授業時間外での質問等に対する応対方法は授業開始時に知らせる。

科目名	疾病・治療論VI	科目名(英文)	Clinical Medicine VI
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小笠原 一能
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	精神科医療における診断と治療の概念、主な精神疾患の病因、症状、診断、回復過程、治療について学ぶ。一部、現代の精神保健に関する事項についても触れる。
到達目標	各精神疾患の病因・症状・診断・回復過程・治療、現代の精神保健上の問題について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、適宜質問を受け付け、質問に対する答えや意見・感想を求めて授業への積極的参加を促す。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病(双極性障害)・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連について理解する	事前:教科書「第2章III、IV」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。?
3	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害(精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など)の病因、症状、治療法について理解する	事前:教科書「第1章II」「第2章?、?」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。?
4	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害(不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状症)、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前:教科書「第2章I、II、13」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。?
5	精神科的治療Ⅰ ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法(支持的精神療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど)について理解する。漢方薬も概説する	事前:教科書「第3章I、II」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。?
6	精神科的治療Ⅱ てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法(催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど)について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前:教科書「第2章IX、14」「第3章III」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。?
7	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前:教科書「第2章VIII」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。?
8	性関連障害、ストレス	性同一性障害(性別違和)、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事後:授業内容を整理しておいてください。?
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験84%、講義ごとのワークシート16%
----------	------------------------

学生へのメッセージ	質問は歓迎します。 社会に流布している「偏見・差別意識」「過剰なロマン的・文学的見方」の両方にとらわれない、科学的・合理的かつ(本当の意味で)人道的な精神科患者さんへの見方を考えてもらいたいと思います。
担当者の研究室等	担当教員不在の時の質問は、他の精神看護学領域の教員を経由して質問してください。

備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 日程(日程変更を含む)は追って連絡するので、注意深く掲示板の確認をすること。
----	--

科目名	周産期医学	科目名(英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	西村 史朋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ
到達目標	1. 周産期医療で必須の知識を修得する。 2. 異常に対する診断および治療法を理解する。 3. 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 4. 演習では縫合術と新生児蘇生(NCPR)を習得する。
授業方法及び留意点	産科：集中講義の形での授業になるため、知識や技能の修得や定着のために時間を割くことが難しい。事前の学習が必須であるため、かならず事前課題の確認を行うこと。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるために、知識ならびに手技・手法を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	周産期医学とは	産婦人科から見た周産期についての概略と歴史、母子手帳の変遷と妊婦の健診について	別紙
2	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候	事前：なし 事後：講義の復習
3	妊娠による母体の変化と異常-1	妊娠による母体の変化と異常(初期：悪阻、切迫流産、流産、異所性妊娠、胎状奇胎)実技：縫合練習	別紙
4	新生児蘇生	新生児蘇生について、演習含む	事前：なし 事後：講義の復習
5	新生児の疾患-1	呼吸器疾患、分娩外傷、感染症など	事前：なし 事後：講義の復習
6	妊娠による母体の変化と異常-2	妊娠による母体の変化と異常(中期：切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、後期：子宮内胎児発育制限、血液型不適合、感染症)実技：縫合練習	別紙
7	分娩の生理と異常-1	分娩の生理と異常(分娩の三要素とそれらの異常、対処方法…胎位異常、微弱陣痛、遷延分娩、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、肩甲難産)	別紙
8	分娩の生理と異常-2	分娩の生理と異常(産科救急：分娩時出血、妊娠合併症、アナフィラキシー、意識消失)	別紙
9	新生児疾患-2	循環器疾患、消化器疾患、血液疾患など	事前：なし 事後：講義の復習
10	周産期を取り巻く状況について	産科合併症や社会的な問題に助産師が対処してゆくために必要な知識と問題点について。	別紙
11	ハイリスク新生児とその対応	ハイリスク新生児とその対応(低出生体重児・早産児を含む)	事前：なし 事後：講義の復習
12	産褥期の異常-1	産褥期の異常-1(子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、産科的異常出血)実技：縫合実習	別紙
13	妊娠合併症	妊娠合併症(妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、浮腫、マイナートラブル)	別紙
14	合併症妊娠	合併症妊娠(感染症：HIV、HTLV、GBS、クラミジア、麻疹、ムンプス、リンゴ病。心疾患、腎疾患、免疫疾患)	別紙
15	周産期の話題	周産期の話題とこれからの助産師のありかた	別紙

関連科目 助産学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	目でみる妊娠と出産 (Visual series)	馬場 一憲	文光堂
2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト2015改訂版	細野 茂春	メジカルビュー社
3	新生児学入門第4版	仁志田 博司	医学書院

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 産科：事前課題の提出、授業への参加、および試験
新生児科：講義内で行う小テスト等、および演習への参加意欲などにより評価します。

学生へのメッセージ 産科：集中講義と演習になりますので、密度の高いものにするために事前の準備や知識の整理が必要です。事前課題に取り組む中、あるいは、今までの実習などを通して抱いた疑問をしっかりとって講義に参加してください。
新生児科：正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践するために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、子どもの健康上の問題を理解するために、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どもの疾病の原因や検査や治療法の理解を深め、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。
到達目標	1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識を活用を促す。小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	健康問題や入院が子どもに及ぼす影響について 健康問題が入院が家族に及ぼす影響について 子どもと家族にとって適切な外来および入院環境について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関する自己学習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	子どもの発達段階に応じた日常生活と看護Ⅰ	食べる機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた食援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	子どもの発達段階に応じた日常生活と看護Ⅱ	睡眠の機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた睡眠援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護Ⅲ	排泄の機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた排泄援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護Ⅳ	身だしなみを整えるの機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた身だしなみを整える援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護Ⅴ	遊びの機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた遊びの援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
8	子どもによく見られる症状と看護	啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれん、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
9	子どもによくみられる症状と看護	呼吸困難、痛み、意識障害、浮腫、掻痒感など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
10	小児看護技術(日常生活援助)	定額していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
11	小児看護技術(日常生活援助)	定額していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
12	健康問題のある子どもをもつ家族の理解	障害のある子どもを出産し、育てている母親をゲストスピーカーに招き、心理過程や体験を理解することで看護のあり方を考える	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
13	子どものヘルスアセスメント	子どもとのコミュニケーションについて ヘルスアセスメントの目的・意義について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる

			子どもの観察と情報収集の方法について		
	14	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：技術演習内容の振り返り	
	15	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：技術演習内容の振り返り	
関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学①	小児看護学概論 小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 小児看護学②	健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	3	ナーシンググラフィカ ②	小児看護技術 小児看護学	中野綾美 編集	メディカ出版
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	小児科学 第2版		金子一成 編集	金芳堂
	2	小児の疾患と看護 小児看護③		中野綾美 編集	メディカ出版
	3	小児臨床看護学各論 小児看護学②		奈良間美穂 他	医学書院
評価方法 (基準)	後期の定期試験 70%、課題、演習、グループワーク 30%とし総合的に評価する				
学生へのメッセージ	小児看護学援助論 I では非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。演習日時および内容の詳細は第 1 回目の授業で説明します。				
担当者の研究室等	7号館 3階 研究室 17 (鎌田)、18 (池田)				
備考	課題(試験やレポート等のフィードバックについて) ・技術のレポート課題はフィードバックをしますので、それらをもとにリフレクションを行い実習に生かしてください。				

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田 友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患をもつ子どもの看護を理解する。また、さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を看護過程を通して考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。 2. 急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 3. 慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 4. さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考案できる。 5. 小児看護特有の基本的技術を習得する。
授業方法と留意点	視聴覚教材や外部講師による講義、施設の見学を活用し、疾患や障がいのある子どもを理解しやすいように解説する。また、事例演習はグループワークによって、さまざまな健康レベルにある子どもの援助についての理解をうながす。技術演習では、事例を用いて、子どもの発達、健康状態、生活、心理面を力動的にアセスメントし、子どもと家族のニーズから抽出された看護援助を検討するためにグループワークを行なう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	さまざまな健康障害がある子どもと家族への援助	小児看護学実習の概要	事前課題：教科書第7章Ⅶを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助 子どもの救急法について	事前課題：教科書第7章Ⅰ、Ⅱを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
3	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行する子どもと家族の看護	障がいのある子どもとその家族の意思決定、在宅に移行するための準備、地域で生活するための看護師の役割(施設見学を予定しています)	事前課題：教科書第7Ⅶを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
4	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみられる子どもと家族の看護	子どもの被災の特徴 心の問題をもつ子どもと家族への援助	事前課題：教科書7章13、7章15を読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
5	ターミナル期の子どもと家族の看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族への援助	事前課題：教科書第6章Ⅲを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
6	子どもの実際の理解	健康障害をもつ子どもの看護 小児の看護過程に必要な発達の理解(外部講師による講義を予定しています)	事前課題：授業内に提示する。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
7	【事例演習】急性期にある子どもと家族への看護(1)	小児の看護課程について 急性期にある子どもと家族の特徴	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
8	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(2)	急性期における子どもと家族の看護過程の展開(情報収集・分析)	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
9	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(3)	急性期における子どもと家族の看護過程の展開(分析の統合・計画立案)	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
10	【事例演習】慢性期にある子どもと家族への看護(1)	慢性疾患を抱えながら生活する子どもとその家族の特徴	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
11	【事例演習】慢性期にある子どもと家族の看護(2)	慢性期における子どもと家族の看護過程の展開	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
12	【事例演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護	事例による看護計画の立案	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
13	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(1)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
14	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(2)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
15	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(3)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント

関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武、濱中喜代	メヂカルフレンド社
2	ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術	中野綾美	メディカ出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間美保	医学書院
2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ	

	3		
評価方法 (基準)	定期試験および課題・グループワーク・技術演習を総合的に評価する。 定期試験 80%、課題・グループワーク・技術演習 20%		
学生への メッセージ	小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。 課題やグループワークも多いので、既習の知識を振り返りながら計画的にすすめましょう。		
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室 16 (池田)、17 (鎌田)、共同研究室 5 (亀田、中山)		
備考			

科目名	小児看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。
到達目標	1. 小児看護の対象である子どもと家族を理解する 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する 3. 小児看護によく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる
授業方法と留意点	子どもの成長・発達の一般原則を理解し、子どものイメージ化を促すため、視聴覚教材や事例を多く用いて講義を進める。また、毎回、事前課題を提示し、それをもとに講義を展開したり、グループワークなどを取り入れながら授業を進める。学習した内容については、身近な子どもの姿を通じて、振り返りができるような課題も取り入れ、学生が主体的に本科目に取り組めるよう工夫をする。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	子どもを取り巻く医療・小児看護の変遷とこれからの課題	・小児医療・看護の歴史と変遷について ・小児看護の対象と目標について ・小児看護の場と看護の特徴について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	子どもの最善の利益	・子どもの権利条約、医療における子どもの権利について ・小児医療で起こりやすい倫理的問題について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	小児看護で用いる概念と理論	・発達理論(ピアジェ、エリクソン)について ・母子関係理論(ボウルビー)等について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	子どもの成長・発達の特徴Ⅰ	・成長・発達の一般原則について ・成長・発達への影響因子について ・成長・発達過程について ・成長・発達の評価について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	子どもの成長・発達の特徴Ⅱ	・子どもの形態的成長と機能的発達の特徴について	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	子どもの事故防止と安全予防接種	・子ども死亡原因について ・発達段階によっておこりやすい事故について ・子どもが事故を起こしやすい要因について ・予防接種の目的について ・定期予防接種と任意予防接種について ・予防接種の対象疾患について	事前・事後課題：子どもと家族を守るための社会制度・社会資源について、グループでまとめる
8	子どもと家族を守るための社会制度・社会資源	母子保健法、学校保健安全法、児童虐待防止法、予防接種法等について、グループ毎に発表する。	事前・事後課題：小児看護学概論の内容を踏まえ、身近にいる子どもを観察し、
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、生命倫理
------	------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

評価方法(基準)	定期試験で評価する。
----------	------------

学生へのメッセージ	小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解することを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもに目を向け、洞察を深めてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館・3階、研究室17(鎌田)、研究室16(池田)
----------	----------------------------

備考	
----	--

科目名	小児看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。 																																																																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。 2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。 3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 <p>【留意点】 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																																																																		
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要なとしている看護を実践して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田、中山共同研究室5																																																																		
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所																																																																		

科目名	助産学概論	科目名(英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、助産を中核として妊産期間の周辺にも目を向け女性の健康問題について、健康状態を良好に保持・増進できるように取り組む。また助産の理論を元に助産ケアの実践能力の理解を深め、専門職として社会から期待される助産師の役割について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出産時の支援を中核とした、次世代の健全育成について考えることができる。 2. 出産の変遷を知り、助産師の役割を認識することができる。 3. リプロダクティブヘルスにおける諸問題と課題について理解できる。 4. 助産学における対象を理解するための理論と、関連する学問領域と探求方法が理解できる。 5. わが国と諸外国の母子保健の動向や諸制度について理解できる。 6. 助産師の倫理綱領について理解し、専門職としての責務について考えることができる。
授業方法と留意点	講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産とは	助産とは何かを軸に、助産の起源、概念の変遷と社会的背景の関連について述べる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
2	助産の概念	助産に関係する概念(リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーなど)と、助産診断について概説する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
3	助産師の歴史と文化	助産の歴史、産育習俗について説明の後、課題の提示をする。	事前学習：なし 事後課題：講義の復習と課題を調べる
4	助産と法律	①助産師教育の変遷からの学びを深め、これからの助産師のあり方を考える。②助産師をとりまく法律について理解し、助産業務に関する法律について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
5	助産学の理論	助産学を構成する理論について学習する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
6	日本と諸外国の母子保健-1	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
7	日本と諸外国の母子保健-2	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前学習：なし該当部分を読んでくる 事後課題：講義の復習と課題を調べる
8	助産師と倫理	今日の倫理的課題と助産師の役割・職業倫理 専門職のあり方と助産業務について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
9	グループワーク 1	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
10	グループワーク 2	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
11	代替医療と助産ケア-1	西洋医学を基盤とし、代替医療と助産ケアについて理解する。 *アロマセラピー 講師：アロマセラピスト	事前学習：発表できる準備 事後課題：講義の復習
12	代替医療と助産ケア-2	西洋医学を基盤とし、代替医療と助産ケアについて理解する。 *アロマセラピー 講師：アロマセラピスト	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
13	グループワークの発表	グループ発表の内容から、我が国の助産師に期待されること、専門職としての課題について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
14	助産と研究-1	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
15	助産と研究-2	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習

関連科目 母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、周産期医学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎助産学Ⅰ 助産学概論	我部山キヨ子 他	医学書院
2	基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学〔第5版〕	我部山 キヨ子／武谷 雄二 編集	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験60%、グループワーク・課題発表40%			
学生への メッセージ	助産師を目指す皆さんと、多様なニーズを持つ女性への支援、周産期の母子や家族の健康や、自然な分娩、母乳育児への安全で快適なケアの在り方について考えていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 泉川（研究室15）、西頭（研究室14）			
備考				

科目名	助産学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産課程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業アイデンティティの形成を図れる素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子のニーズに応じた援助ができる。 2. 対象の人間性を尊重し、倫理的な態度や能力を習得することができる。 3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。 4. 助産実践の向上、助産学の発展のため、常に主体的に学習する態度を養う。 																		
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	助産学実習要綱参照 (継続実習、分娩介助実習、助産所実習)																		
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	分娩介助技術、受け持ち事例の展開等の実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																		
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。 少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。 チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 泉川 (研究室15)、西頭 (研究室14)、宮本 (研究室12)、但馬 (研究室20)、名草 (研究室13)、飯田、永田 (共同研究室5)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・病院：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、大阪府済生会野江病院、大阪市立総合医療センター、西川医院、大和高田市立病院 ・助産所：柏助産院、ひまわり助産院、ゆう助産院、橋本助産院、 2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う 																		

科目名	助産管理論	科目名(英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	助産管理の概要及び運用に必要な基本概念(法的根拠やその内容、管理の原則)を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。また周産期管理システム(母体搬送システム、新生児搬送等)を理解する。
到達目標	助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。 また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
3	助産と医療経済	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬を学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関連する法律について学ぶ。助産師業務ガイドラインについて理解する。	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
5	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
6	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー3	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
8	助産所における助産業務管理	助産所の管理・運営について 講師：助産院院長	事前学習：なし 事後学習：講義の復習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学演習、助産学実習、統合実習
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座10 助産管理	我部山キヨ子 他	医学書院
2	助産業務ガイドライン		日本助産師会
3	母子保健の主なる統計 平成28年度	公益財団法人母子衛生研究会 編集	公益財団法人母子衛生研究会

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	試験：80点、グループワーク・課題発表：20点
学生へのメッセージ	周産期の母子や家族に対して、産婦の主体性を担保しつつ、助産師業務ガイドラインの理解を深め、遵守しつつ安全な助産ケアや管理の在り方について考えていきましょう。
担当者の研究室等	泉川(研究室15)、西頭(研究室14)
備考	

科目名	助産技術学演習	科目名(英文)	Practice in Midwifery Skills
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>(概要)</p> <p>助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。妊婦の診察技術、分娩介助技術、出生時の新生児処置技術、産褥期のケアである乳房マッサージ、褥婦及び新生児の診察について演習を通して学ぶ。助産師の行う業務として分娩介助とともに保健指導は重要な内容である。集団指導、家族指導(家庭訪問、1ヶ月健診時)の方法を演習を通して学ぶ</p> <p>(目的)</p> <p>周産期に必要な母児の診察と処置技術、分娩介助技術、保健指導技術について助産の技法を学習する</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる 2. 妊産褥婦・新生児の診察と処置の助産技術を習得できる 3. 周産期の保健指導技術を習得できる 4. 分娩介助技術を習得できる 5. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる
------	--

授業方法と留意点	演習を主に行う。妊産褥婦・新生児への助産技術、および集団指導、分娩介助技術演習を行います
----------	--

科目学習の効果(資格)	助産師国家試験、および助産学実習に関わる科目です
-------------	--------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	教育・指導・相談活動の基礎理論	<ul style="list-style-type: none"> ・集団指導と個別指導 ・健康教育の概念 ・健康教育の準備・計画 ・健康教育の展開と評価 	事前課題：なし	事後課題：復習
2	指導案作成に必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の内容と展開方法 	事前課題：なし	事後課題：復習
3	出産準備教育に必要な知識・技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教室で妊娠初期・中期・末期におさえておくべき内容 	事前課題：なし	事後課題：復習
4	産褥期・新生児期のケア(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・褥婦・新生児の診察技術 ・褥婦の退行性変化を促進するケア内容 ・母乳育児支援への援助内容 	事前課題：産褥の経過について	事後課題：復習
5	産褥期・新生児期のケア(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・沐浴指導・退院指導案・母乳育児支援に必要な知識と保健指導技術 	事前課題：なし	事後課題：復習
6	妊娠期の健康診査	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦のフィジカルアセスメント ・妊婦健診項目と診察技術 ・超音波診断 ・内診 	事前課題：妊娠の経過について	事後課題：復習
7	出生直後の新生児のケアの実際	<ul style="list-style-type: none"> ・出生直後の新生児の呼吸確立への援助 ・新生児のフィジカルアセスメント ・インファントウォーマー・保育器の機能と使用 ・母子のアタッチメントの技術 ・新生児の蘇生 	事前課題：胎児循環、新生児の特徴について	事後課題：復習
8	産後の家庭訪問の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・産後の家庭訪問における指導技術と内容 	事前課題：1か月後の母児の経過について	事後課題：復習
9	家族計画指導の実際(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画指導における基礎知識 ・各種受胎調節法 	事前課題：各種受胎調節法について	事後課題：指導案作成
10	・出産準備教育に必要な知識・技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案をもとに実践練習・修正 	事前課題：指導案の作成	事後課題：修正
11	・出産準備教育に必要な知識・技術(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案をもとに実践練習・修正 	事前課題：指導案の作成	事後課題：修正
12	・出産準備教育に必要な知識・技術(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の発表とロールプレイ・討議 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
13	・出産準備教育に必要な知識・技術(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の発表とロールプレイ・討議 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
14	・出産準備教育に必要な知識・技術(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の発表とロールプレイ・討議 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
15	産褥期・新生児期のケア(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・沐浴指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
16	産褥期・新生児期のケア(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・退院指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
17	産褥期・新生児期のケア(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児支援指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
18	性教育に必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期教育の必要性和教育の内容 ・人工妊娠中絶の現状と母体に及ぼす影響 ・思春期教室の実際 	事前課題：思春期の性の問題について	事後課題：復習
19	家族計画指導の実際(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
20	家族計画指導の実際(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
21	分娩介助技術演習(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助の意義と原理 ・分娩体位と介助法 	事前課題：分娩の経過についての基礎知識	事後課題：復習

	22	分娩介助技術演習（2）	・分娩介助手順と根拠	事前課題：分娩の経過についての基礎知識 事後課題：復習																
	23	分娩介助技術演習（3）	・分娩介助デモンストレーション	事前課題：資料を読む 事後課題：復習、実施要項の留意事項の作成																
	24	分娩介助技術演習（4）	・分娩介助デモンストレーション	事前課題：資料を読む 事後課題：復習、実施要項の留意事項の作成																
	25	分娩介助技術演習（5）	・分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成 ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰切開時の対処 ・児娩出までの分娩介助法	事前課題：導尿の方法、清潔物品の取り扱いについて 事後課題：復習、技術の練習																
	26	分娩介助技術演習（6）	・分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成 ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰切開時の対処 ・児娩出までの分娩介助法	事前課題：導尿の方法、清潔物品の取り扱いについて 事後課題：復習、技術の練習																
	27	分娩介助技術演習（7）	・臍帯巻絡の介助法 ・前在・後在肩甲の介助法 ・胎盤の娩出法	事前課題：臍帯巻絡について、回旋について、胎盤の娩出様式について 事後課題：復習、技術の練習																
	28	異常分娩時の対処（1）	・肩甲難産時の体位と介助 ・児心音低下時の対応 ・吸引分娩時の介助	事前課題：肩甲難産について、児心音低下について 事後課題：復習と技術練習																
	29	異常分娩時の対処（2）	・異常出血時の対処 ・子癇発作時の対処	事前課題：異常出血の原因、子癇発作の原因について 事後課題：復習																
	30	異常分娩時の対処（3）	・緊急帝王切開時の対応	事前課題：帝王切開術について 事後課題：復習																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ，周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ</td> <td>堀内 成子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>CDブック 参加型両親学級ツール集</td> <td>大阪大学助産師同窓会</td> <td>日総研</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための10カ条」の実践</td> <td>BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内 成子	医学書院	2	CDブック 参加型両親学級ツール集	大阪大学助産師同窓会	日総研	3	UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための10カ条」の実践	BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内 成子	医学書院																	
2	CDブック 参加型両親学級ツール集	大阪大学助産師同窓会	日総研																	
3	UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための10カ条」の実践	BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日の助産 改訂第3版</td> <td>北川真理子・内山和美 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最新産科学 異常編 改訂第22版</td> <td>荒木勤</td> <td>東京文光堂本郷</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂	2	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂																	
2	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷																	
3																				
評価方法（基準）	定期試験 30%（筆記試験で6割取れていない場合、再試験を受験しなければならない。） 保健指導案・保健指導発表 40% 分娩介助技術試験 30%（技術試験で不可となった場合、再技術試験を受け合格しなければ実習に出ることはできない）																			
学生へのメッセージ	保健指導技術や分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。指導案の作成は講義時間以外の時間も活用し自主的、積極的に学習してください。学内で指導案の作成ができていると実習時に役立ちます。また助産技術の実施以前に基礎看護技術は必須です。再度これまで学んだ基礎看護技術を復習して助産の技術に臨みましょう。																			
担当者の研究室等	7号館3階 但馬（研究室20）																			
備考	分娩介助技術，および保健指導案は助産学実習で活用します。																			

科目名	助産診断・技術学 I	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	(概要) 妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について学習する。妊娠時期の診断、妊娠経過の診断、妊婦の心理・社会的側面の診断、状況に応じたケアについて学習する。そして、教育、相談の基礎技術に基づき、妊娠期における健康教育について考える。また、流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊婦と家族のケアやハイリスク妊婦と家族のケアと助産師の役割について学習する。 (目的) 妊娠期の助産診断の特徴と、妊娠経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる
到達目標	1. 妊娠期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 妊娠期に必要な健康教育の基礎を理解できる 3. 妊婦の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 4. 妊娠期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 5. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 6. 助産診断に基づいて個別指導案を立案できる
授業方法と留意点	学習方法は、グループワークを多く取り入れた内容です。積極的に意見交換をしてください。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	妊娠期の助産過程の展開	妊娠期に必要な助産過程の展開の理論・内容・方法について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、助産過程の展開を開始する
3	妊娠の成立と正常妊娠期の経過 (1)	妊娠の成立および胎児の発育、正常な妊娠経過の助産診断について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
4	妊娠の成立と正常妊娠期の経過 (2)	妊婦の心理的・社会的側面のアセスメントと助産診断について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
5	妊娠期のフィジカルアセスメント	妊娠経過に応じた助産診断に必要な情報に基づくフィジカルアセスメントについて学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
6	正常妊娠期の助産診断と援助	妊娠経過に応じた助産診断に基づく援助について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
7	ハイリスク妊婦の助産診断と援助	ハイリスク妊婦と胎児の助産診断と必要な援助について学ぶ	事前課題は、助産診断指標提出 事後課題は、授業の内容を振り返る
8	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開 (1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各グループで妊娠期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
9	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開 (2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各グループで妊娠期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
10	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開 (3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各グループで妊娠期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
11	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開 (4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各グループで妊娠期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
12	相談・指導技術 (1)	集団指導 (または個別指導) を想定し、指導計画を立てるポイントを理解する	課題 小集団指導の企画書、指導案を作成する
13	相談・指導技術 (2)	さまざまな相談技術の特徴と手法について学ぶ	課題 小集団指導の企画書、指導案を作成する
14	発表とまとめ (1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行うことにより、自己課題が明らかにする	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る
15	発表とまとめ (2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行うことにより、自己課題が明らかにする	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論 I, 母性看護学援助論 II, 母性看護学実習, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学 II, 助産診断・技術学 III
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 医学書院	村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集	医学書院
3	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2017 日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座2 基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	助産学講座3 基礎助産学〔3〕 母子の健康科学	我部山キヨ子 他	医学書院
	3	今日の助産	北川眞理子 他編集	南江堂
評価方法 (基準)	定期試験 70% 助産過程の展開・個別保健指導計画立案・教材作成・発表・課題提出 20% 妊娠期助産診断指標の作成、および課題提出 10%			
学生への メッセージ	妊娠期の助産診断の特徴を理解し、診断指標の作成・事例の展開から助産診断について考えていきます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 泉川(研究室15) 宮本(研究室12)			
備考	助産過程、保健指導案、および教材は助産学実習で活用します			

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子、西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(概要) 産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学び、分娩開始・分娩経過の診断、リスクの査定、産婦の心理・社会的側面の診断ができ、状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。また、分娩進行に伴う異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える。 (目的) 分娩期の助産診断の特徴と、正常分娩の経過に伴う助産診断、および異常分娩の経過と助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。
到達目標	1. 分娩期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 産婦・胎児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 3. 分娩期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 5. 助産診断に基づいて援助計画が立案できる 6. ハイリスク産婦の分娩経過に伴うリスク査定、助産診断と援助について理解できる
授業方法と留意点	講義、および討論・グループワークを中心とする。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	分娩期における助産診断の特徴	事前課題なし 事後課題は、助産診断指標の作成を開始する
2	正常分娩の経過と助産診断(1)	正常分娩の機転、および経過	事前課題は、正常分娩の観察点を予習する 事後課題は、助産診断指標の作成
3	正常分娩の経過と助産診断(2)	正常分娩における各分娩期の特徴と観察点、診断、援助	事前課題は、分娩期の助産ケアについて予習する 事後課題は、助産診断指標の作成
4	正常分娩の経過と助産診断(3)	分娩経過に伴う胎児の健康状態の診断と対処	事前課題は、CTG波形の基本について予習する 事後課題は、助産診断指標の作成
5	正常分娩の経過と助産診断(4)	分娩経過に伴う産婦や家族の心理・社会的背景に関連する助産診断と援助	事前課題なし 事後課題は、助産診断指標の作成
6	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。	事前課題は、助産診断指標の提出 事後課題は、助産過程の展開を行う
7	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、助産過程の展開を行う
8	分娩経過の異常と助産診断	分娩の3要素の異常と診断	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
9	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症のアセスメントと支援	軟産道裂傷と弛緩出血、産科ショックの原因と対応	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
10	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例の分娩経過に応じた助産過程を展開する。分娩各期の助産診断、診断の根拠、分娩予測、援助計画の発表準備を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、助産過程の展開を行う
11	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例の分娩経過に応じた助産過程を展開する。分娩各期の助産診断、診断の根拠、分娩予測、援助計画の発表準備を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、助産過程の展開を行う
12	助産過程の発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う
13	助産過程の発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う
14	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	身体的・心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメントと診断、支援	事前課題は、事例の助産過程の展開資料を提出する 事後課題は、授業の内容を振り返る
15	産科手術を受ける産婦のアセスメントと支援	帝王切開術を受ける産婦の術前術後のアセスメントと支援	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術学演習、助産学実習、助産管理論
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院
2	最新産科学 正常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷
3	胎児心拍数モニタリング講座 改訂3版	藤森敬也	メディカ出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	産科診療ガイドライン—産科編 2017—	日本産婦人科学会	日本産婦人科学会
2	最新産科学 異常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷
3	今日の助産—改定第3版—	北川真理子・内山和美	南江堂

評価方法 (基準)	定期試験 80% 助産診断指標・助産過程の展開・助産診断と助産計画の発表 20%
学生への メッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や自己学習ノートを作成し、要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください。
担当者の 研究室等	7号館3階 西頭(研究室14)、但馬(研究室20)
備考	助産診断指標や助産過程の展開資料は助産学実習で活用します。

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(概要) 褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。 (目的) 産褥・新生児期の助産診断の特徴と、経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる
到達目標	1. 産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 3. 産褥・新生児期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 5. 助産診断に基づいて個別指導案を立案できる
授業方法と留意点	講義、およびレポート作成と発表・討論を行う。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	産褥・新生児期における助産診断の特徴	事前課題なし 事後課題は、助産診断指標の内容について復習する
2	産褥・新生児期の助産過程の展開	産褥・新生児期に必要な助産過程の展開の理論・内容・方法	事前課題なし 事後課題は、助産過程の展開を開始する
3	正常産褥期の助産診断	正常な産褥経過の身体的・心理的・社会的側面に関する助産診断	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
4	正常新生児の助産診断	新生児の子宮外適応過程と、生後1か月までの生理的变化	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
5	母乳栄養確立への助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断、および母乳育児を促進する援助	事前課題は、助産診断指標の提出 事後課題は、授業の内容を振り返る
6	母子関係・家族形成過程と援助	母子関係形成・育児行動取得・家族形成・産後の家族計画支援に必要な援助	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
7	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と援助	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と必要な援助として、NICU・GCUと母子関係形成への援助、およびディベロップメンタルケア	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
8	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う
9	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う
10	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う
11	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う
12	発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る
13	発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る
14	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(1)	各自の課題に基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する
15	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(2)	各自の課題に基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期	横尾 京子 編集	医学書院
2	助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山 キヨ子 編集	医学書院	
3	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健	我部山 キヨ子/毛利 多恵子 編集	医学書院	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生児学入門 第4版	仁志田博司著	医学書院
	2	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山 キヨ子 編集	医学書院
	3	助産学講座 4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山 キヨ子 編集	医学書院
評価方法 (基準)	定期試験 70% 助産過程の展開・発表・課題提出 20% 助産診断指標の作成・課題提出 10%			
学生への メッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や自己学習ノートを作成し、要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください			
担当者の 研究室等	7号館3階 宮本(研究室12)			
備考	助産診断指標, 助産過程の展開, および保健指導内容は助産学実習で活用します			

科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 侑矢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「解剖学」「組織学」の基礎から学習を始め、「骨格」「関節」の全容を学習すると共に、全身を取りまく「骨格筋」と、骨格筋による「運動」を学習する。さらに、「末梢神経系」の支配について学習する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心に行う。授業は指定席で実施することがある。適宜、講義前に小テストを実施するので、普段からの学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞、組織、臓器・器官の成り立ち	細胞の機能及び細胞、組織、臓器・器官の成り立ちと、人体の正常機能を維持するための仕組みについて学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
2	4 大組織	4 大組織について名称をあげ、その特徴、分布を学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
3	骨の構造、発生・成長、機能	人体の骨の構造・機能、発生と成長、全身の骨格について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
4	人体の骨格	人体の骨格 (連結を含む) について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
5	筋の構造・機能	骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
6	筋の収縮とその特徴	骨格筋、心筋、平滑筋の収縮の仕組み、収縮の特徴について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
7	体幹の骨格と筋	脊柱、胸郭、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
8	上肢の骨格と筋	上肢帯の骨格、自由上肢の骨格、上肢帯の筋群、上腕の筋群、前腕の筋群、手の筋群、上肢の運動について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
9	下肢の骨格と筋	下肢帯の骨格、自由下肢の骨格、下肢帯の筋群、大腿の筋群、下腿の筋群、足の筋群、下肢の運動について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
10	頭頸部の骨格と筋	脳頭蓋、顔面頭蓋、頭部の筋、頸部の筋について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
11	自律神経系の機能	自律神経系 (交感神経と副交感神経) の特徴・機能について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
12	自律神経系の構造	交感神経系と副交感神経系の構造について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
13	自律神経系の調節	自律神経系の神経伝達物質、受容体、調節について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
14	筋の神経支配	骨格筋、心筋、平滑筋の神経支配について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。また、講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、この部分を学習し、定期テストに備える。

関連科目	人体の構造と機能 II、III、IV
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (第10版)	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
	2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社
	3	人体の構造と機能 I II 講義ノート		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト (30%)、定期試験 (70%) により総括評価する。			
学生へのメッセージ	『人体の構造と機能 I II 講義ノート』を活用しながら授業内容をまとめ、小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。			
担当者の研究室等	1号館3階 (病態医科学研究室)			
備考				

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「消化器系器官」の構造と機能を学習して栄養の消化と吸収を理解する。また、「呼吸器系器官」「血液系」の構造と機能を学習して呼吸と血液のはたらきを理解する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心とする。人体臓器模型等を用いた演習形式学習や授業を指定席で実施することがある。講義前にレポート課題の提出または小テストを実施するので、普段から学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	消化器系:	●人体の構造と機能Ⅱの概要 ●消化器系の概要 ●口腔～食道 口、咽頭、食道の構造と機能について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
2	消化器系:	●胃 胃の構造、運動、機能、調節について説明 ●十二指腸～胆嚢、膵臓 十二指腸、胆嚢、膵臓の構造と機能について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
3	消化器系:	●小腸 ●栄養素の消化と吸収 小腸の構造、運動、機能、調節について説明 栄養素(糖質、タンパク質、脂質)の消化・吸収とビタミンやミネラルの吸収について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
4	消化器系:	●肝臓、大腸 肝臓、大腸の構造、運動、機能、調節について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
5	呼吸器系:	●呼吸器系の概要 ●鼻腔～咽頭 ●喉頭～気管、気管支 鼻腔から咽頭の構造について説明 喉頭、気管支、肺胞の構造について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
6	呼吸器系:	●呼吸筋、呼吸量 ●呼吸中枢とガス交換 呼吸運動、呼吸気量について説明 呼吸の神経調節、呼吸運動、ガスの運搬と交換について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
7	消化器系、呼吸器系:	●消化器系、呼吸器系のまとめ1 問題演習等を通して消化器系、呼吸器系器官の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
8	消化器系、呼吸器系:	●消化器系、呼吸器系のまとめ2 問題演習等を通して消化器系、呼吸器系器官の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
9	血液系:	●血液の機能と成分 血漿タンパク質の種類と働きについて説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
10	血液系:	●造血、血球 造血機構、血球の種類と働きについて説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
11	血液系:	●赤血球、白血球 ●血小板 赤血球、白血球の種類と働きについて説明 血小板の働きについて説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
12	血液系:	●血小板、止血 ●血液凝固 血小板および止血の機構について説明 血液凝固機構について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
13	血液系:	●血液型	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する

			<p>血液型について説明</p> <p>●血液系のまとめ1 問題演習等を通して血液系の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。</p>	<p>る（1時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（1時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える 講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、その部分を復習する。</p>																
	14	血液系：	<p>●血液系のまとめ2 問題演習等を通して血液系の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。</p>	<p>講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。</p>																
	15	総合演習	<p>問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。</p>	<p>講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、その部分を学習し、定期テストに備える。</p>																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学（人体の構造と機能①）」</td> <td>坂井建雄、岡田隆夫</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>メディカルイメージブック 解剖学</td> <td>中島雅美 編</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学（人体の構造と機能①）」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院	2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社	3	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート		
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学（人体の構造と機能①）」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院																	
2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社																	
3	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	小テストおよびレポート（30%）、定期試験（70%）により総括評価する。																			
学生へのメッセージ	『人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テスト、レポートを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。																			
担当者の研究室等	1号館（薬学部） 4階 岩崎講師室																			
備考	<p>指定した教科書3冊は「人体の構造と機能Ⅰ」で使用するものと同じものです。必ず持ってきてください。</p> <p>課題（小テスト、レポート等）については、課題提出後に内容の解説を行います。</p> <p>講義1日目の持ち物として「小さな鏡（手鏡）」があれば、持ってきてください。口の中を観察し、口腔の理解を深めます。</p>																			

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久家 貴寿
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	「循環器系器官」と「泌尿器系器官」の構造と機能を学習することで、血液の循環と調節及び尿生成と体液の調節の仕組みを理解する。また、「内分泌系器官」の構造と機能を学習することで、内臓機能の調節の仕組みを理解する。
授業方法と留意点	「講義」形式で行う。授業後には、各自で授業テーマのまとめ資料の作成、および、適宜、課題に取り組んでもらい、それらをレポートとして提出してもらいます。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心臓の構造	心臓の位置と外形、心臓の部屋と弁、心臓壁、心臓の血管と神経について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
2	心臓の機能 1	心臓の興奮と伝播、心電図について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
3	心臓の機能 2	心臓の収縮とその調節について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
4	末梢循環系の構造	血管の構造、肺循環、全身の動・静脈系について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
5	血液の循環調節 1	血圧、血液循環について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
6	血液の循環調節 2	血圧調節、微小循環、循環器系の病態生理について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
7	リンパ系の構造と機能	リンパ管の構造、リンパ循環について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
8	体液の調節と尿の生成 1	腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能、尿管の構造と機能について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
9	体液の調節と尿の生成 2	傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質、排泄路の構造について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
10	体液の調節と尿の生成 3	尿の貯蔵と排尿、体液調節について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
11	内分泌系による内臓機能の調節 1	ホルモンの化学構造と作用機序、内分泌系器官について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
12	内分泌系による内臓機能の調節 2	視床下部-下垂体系、甲状腺、副甲状腺について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
13	内分泌系による内臓機能の調節 3	膵臓、副腎、性腺の構造と分泌ホルモンの機能について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
14	内分泌系による内臓機能の調節 4	ホルモン分泌調節、ホルモンによる生体機能調節について理解する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。
15	総括	循環器系、泌尿器系、内分泌系に関して総括する。	授業後に、レポート作成を行う(授業テーマのまとめ資料を作成するとともに、適宜、課題にも取り組む)。

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、薬理学Ⅰ、Ⅱ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	解剖生理学 - 人体の構造と機能 -	坂井健雄/岡田隆夫	医学書院
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験(80%程度)とレポート(20%程度)を、100点満点で総合的に評価する。60点以上で合格とする。
----------	---

学生へのメッセージ	本科目の修得には復習が必須です。授業では、授業テーマの概要の理解に努め、授業後の復習では、教科書を読み、詳細の理解に努めてください。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階 生体分子分析学研究室
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	人体の構造と機能Ⅳ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 太郎, 尾中 勇祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「神経系器官・感覚器系器官」の構造と機能、「生体防御機構」を学習して生体情報の伝達・受容と調節や生体防御反応について理解する。また、「生殖器系器官」の構造と機能を学習して生殖・発生・老化のしくみを理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	神経系の構造と機能	神経細胞と支持細胞、神経細胞の興奮と伝播、シナプス伝達について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
2	脊髄と脳	脊髄の構造と機能、脳の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
3	脊髄神経と脳神経	脊髄神経の構造と機能、脳神経の構造と機能、運動性上行路、感覚性下行路について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
4	脳の高次機能	脳波と睡眠、記憶、本能と情動行動、内臓調節機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
5	眼の構造と機能	眼球の構造、眼球付属器、視覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
6	耳の構造と機能	耳の構造、聴覚、平衡感覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
7	味覚、嗅覚、疼痛	味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、痛みの分類、疼痛発生機序について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
8	皮膚の構造と機能	皮膚の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
9	生体防御	皮膚・粘膜における防御、食食作用・細胞傷害物質による防御、免疫による防御について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
10	体温	熱の出納、体温の分布と測定、体温調節について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
11	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
12	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
13	受精と胎児発生	生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
14	成長と老化	小児期の成長、老化について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
15	体表から見た人体の構造	体表から触知できる骨格部分・骨格筋・血管を各自が確認して部位の名称を確認する。	授業のまとめノートを作成すること。

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、薬理学Ⅰ、Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。ただし、小テスト等の一定割合を評価に入れることもある。尚、必要に応じて課題レポートを課すことがある。

学生へのメッセージ 授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等 1号館6階 薬理学研究室

備考 薬理学の基礎となる教科ですから、講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。

科目名	精神看護学援助論Ⅰ	科目名(英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	精神看護を实践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者―看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者―看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者―看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるロールプレイング、プロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者―看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科で行われている治療とその治療を受ける患者の看護について理解する。 精神科病棟で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、現場で働いている看護師による講義を取り入れ、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促す。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前:「第3章-II-B」「第6章-II-A, E」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前:「第3章-II-D」「第6章-II-B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前:「第3章-II-B, D」「第6章-II-A, B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前:「第3章-II-E, F」「第6章-II-B, G」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前「第3章-II-D」「第6章-II-B, C」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前第3章-II-N」「第6章-II-H」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	7	援助的人間関係(理論編1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前:「第4章」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	8	援助的人間関係(理論編2)	対人関係論、プロセスレコード	事前:「第4章」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	9	援助的人間関係(実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後:授業内容を整理しておいてください。
	10	援助的人間関係(実践編)	プロセスレコードを記載する	事後:授業内容を整理しておいてください。
	11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り	事後:授業内容を整理しておいてください。
	12	援助的人間関係(実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習(症状への対応)	事前:「第6章-II-A」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	13	精神科治療と看護(1)	薬物療法と看護	事前:「第3章-III-A」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	14	精神科治療と看護(2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前:「第3章-III-B, C, D」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
	15	退院調整と地域生活支援・精神科救急に関する看護	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、精神科救急の現場で実践されている看護援助、精神科における看護師の役割・機能など	事後:授業内容を復習をしておいてください

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社
	2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	合否は、定期試験(85%)及びワークシート、演習、演習時の課題(15%)を総合して判定する。
----------	--

学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 外部講師による講義も予定している。日程は追って連絡するので、注意深く掲示板、ポータルサイトを確認をすること。

科目名	成人看護学援助論 I	科目名 (英文)	Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹下 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。また、急性期にある対象の事例を取り上げ、看護過程を展開する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p>【一般目標】 1. 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。 2. 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。 3. 手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。 4. 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。 5. 手術を受ける対象とその家族への看護実践に必要な情報収集、アセスメント、計画立案の過程について理解できる。 6. 手術を受ける対象とその家族の看護問題を解決するために、主体的な学習態度で取り組むことができる。</p>
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って講義および看護過程の展開を中心に授業を行う。また、重要なテーマについてグループ討議や資料作成等を行う。事前学習として、教科書の該当範囲を読んでおくこと。事後課題として、授業内容を出题範囲とした過去の看護師国家試験問題を解いてくること（講義内で配布する）。なお、配布した過去の国家試験問題は定期試験の試験範囲に含める。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習（成人看護学実習Ⅰ）において、看護援助を実践するための基盤となる。 ・看護師国家試験の出题範囲である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	周手術期にある対象の特徴と理解①—手術侵襲と生体反応	周手術期にある対象とその家族の特徴と理解、麻酔・手術侵襲に伴う生体反応	【事前】教科書1の序章、第1章A~B、第4章を読んでおくこと 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
2	周手術期にある対象の特徴と理解②—術前患者	術前アセスメント、術前オリエンテーション、術前日～術当日の看護	【事前】教科書1の第7章を読んでおくこと 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
3	周手術期にある対象の特徴と理解③—術中患者	手術室環境、麻酔の基礎知識と麻酔導入時～覚醒時の看護	【事前】教科書1の第3章、第8章を読んでおくこと 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
4	周手術期にある対象の特徴と理解④—術後患者	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 疼痛管理と術後合併症予防のための看護	【事前】教科書1の第9章を読んでおくこと 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
5	術後合併症予防のための看護援助①	呼吸器合併症、循環器合併症、イレウス予防のための看護	【事前】教科書1の第9章を読んでおくこと 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく。授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
6	術後合併症予防のための看護援助②	術後感染、縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む）、術後せん妄予防のための看護	【事前】教科書1の第1章C~E、第9章を読んでおくこと 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
7	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①+看護過程の展開①	手術を受ける対象に対する看護と看護過程の展開（胃切除術）	【事前】教科書2のVII（胃切除術）を参考にしながら、胃がんの原因と誘因、症状と発生機序、分類と進行度、術式と各術式の特徴（切除部位、再建方法）などをまとめておくこと 【事後】資料の内容を復習しておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
8	手術を受ける対象に対する看護過程の展開②	事例をもとに看護過程を展開する一カルテからの情報収集	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる。 【事後】看護記録の提出
9	手術を受ける対象に対する看護過程の展開③	事例をもとに看護過程を展開する一カルテからの情報収集+アセスメント	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる。 【事後】看護記録の提出
10	手術を受ける対象に対する看護過程の展開④	事例をもとに看護過程を展開する一関連図	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる。 【事後】看護記録の提出
11	手術を受ける対象に対する看護過程の展開⑤	事例をもとに看護過程を展開する一関連図	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる。 【事後】看護記録の提出 *看護過程は、成人看護学援助論IIIと連動させて授業を行う。
12	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	開胸術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII（肺切除術）を参考にしながら、開胸術を受ける肺がんの原因と誘因、症状と発生機序、術式の特徴などをまとめておくこと 【事後】資料の内容を復習しておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。
13	形態変化や機能障害への適	開頭術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII（脳動脈クリッピング術）を

		応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助③		参考にしたが、開頭術を受けるクモ膜下出血の原因と誘因、症状と発生機序、術式の特徴などをまとめておくこと 【事後】資料の内容を復習をしておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。																
	14	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助④	人工関節置換術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII(両側人工膝関節置換術)を参考にして関節リウマチの原因と誘因、症状と発生機序、分類、術式特徴などをまとめておくこと 【事後】資料の内容を復習をしておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。																
	15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助⑤	腰椎麻酔下で腎・泌尿器手術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書1の第3章A⑦と、教科書2のVII(TUR-P)を参考にして前立腺肥大症の原因と誘因、症状と発生機序、分類、術式の特徴、腰椎麻酔の特徴(全身麻酔との違いは?)などをまとめておくこと 【事後】資料の内容を復習をしておく。また、授業範囲に該当する国家試験問題を解いておくこと。																
関連科目	成人看護学概論 成人病態看護論 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 病理学総論 疾病治療論Ⅰ・Ⅱ 感染と防御																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 臨床外科看護総論</td> <td>矢永勝彦 他編</td> <td>医学書院(目安価格:税抜き2,800円)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期</td> <td>井上智子 編</td> <td>照林社(目安価格:税抜き3,200円)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 臨床外科看護総論	矢永勝彦 他編	医学書院(目安価格:税抜き2,800円)	2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期	井上智子 編	照林社(目安価格:税抜き3,200円)	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 臨床外科看護総論	矢永勝彦 他編	医学書院(目安価格:税抜き2,800円)																	
2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期	井上智子 編	照林社(目安価格:税抜き3,200円)																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 周手術期看護論(第3版)</td> <td>雄西智恵美 他編</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学2 周手術期看護</td> <td>明石恵子 編</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 周手術期看護論(第3版)	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学2 周手術期看護	明石恵子 編	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 周手術期看護論(第3版)	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	経過別成人看護学2 周手術期看護	明石恵子 編	メヂカルフレンド社																	
3																				
評価方法(基準)	筆記試験(80%)、課題の達成状況(20%)により、総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対処を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です																			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室30(竹下)																			
備考	授業は、「成人看護学援助論Ⅲ」と連動させながら行います。したがってスケジュールを別途説明しますので、間違いないように授業の事前準備を行ってください。																			

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	本科目は、精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患と治療等を理解するとともに、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。 また精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基礎知識を活用しながら、ペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と、必要な看護援助方法を理解する。 さらに地域社会でその人らしく暮らすための支援体制について学ぶ。
到達目標	各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。 ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。 地域における精神保健福祉活動が理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	疾患による看護の特徴(1)	統合失調症(者)の理解と看護	事前:「第6章Ⅱ-A」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
2	疾患による看護の特徴(2)	気分障害(者)の理解と看護	事前:「第6章Ⅱ-B・C」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
3	疾患による看護の特徴(3)	神経症性障害(者)の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-E・F」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
4	疾患による看護の特徴(4)	パーソナリティ障害・摂食障害(者)の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-N」「第6章Ⅱ-H」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
5	疾患による看護の特徴(5)	アルコール依存および薬物依存(者)の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-L」「第6章Ⅱ-F」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
6	疾患による看護の特徴(6)	身体合併症をもつ対象の看護	事前:「第6章Ⅲ」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
7	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携	精神障害者の地域生活支援	事前:「第7章」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
8	精神障害がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	オレム・アンダーウッド理論と活用法	事前:「第5章」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
9	精神障害者(当事者)の理解	精神障害者(当事者)の語り	事前:これまでの授業内容を復習してきてください。
10	事例演習(1)	情報収集と整理①	事前:援助論Ⅰ・Ⅱと精神医学の授業内容を復習してきてください。
11	事例演習(2)	情報収集と整理②	事前:援助論Ⅰ・Ⅱと精神医学の授業内容を復習してきてください。
12	事例演習(3)	アセスメント①	事前:援助論Ⅰ・Ⅱと精神医学の授業内容を復習してきてください。
13	事例演習(4)	アセスメント②	事前:援助論Ⅰ・Ⅱと精神医学の授業内容を復習してきてください。
14	事例演習(5)	問題点の整理	事前:援助論Ⅰ・Ⅱと精神医学の授業内容を復習してきてください。
15	事例演習(6)	看護計画立案 評価・修正	事前:援助論Ⅰ・Ⅱと精神医学の授業内容を復習してきてください。

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三監修	メヂカルフレンド社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
2			
3			

評価方法(基準)	合否は定期試験(80%)およびワークシート、演習および演習時の課題(20%)を総合して評価する。
学生へのメッセージ	積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室18(山本智)、研究室19(眞野)
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象者のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。</p> <p>【目的】 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケア、生活の再構築・適応、ストレスコーピングの促進が必要な対象とその家族の特徴と課題を、倫理的側面を含めて説明できる。 2. 対象と家族の生活をセルフケアの視点でアセスメントし、増悪因子を踏まえた、主体的な生活習慣の修正に向けた援助が理解できる。また、これに関連する援助技術を習得できる。 3. 対象とその家族にとっての病や障がいの受け止めや治療への意思決定、および、生活への影響を説明できる。また、これらを踏まえた上で、対象と家族の、その人らしい生活に向けた看護援助を理解できる。さらに、これに関連する援助技術を習得できる。 4. 対象の対症療法における看護と症状に応じた日常生活の調整について理解できる。 5. 対象の病の進行や治療に対する不安というストレスと、これへの前向きなコーピングに向けた看護援助について理解できる。 6. 対象の症状、および治療に伴う副作用への看護援助について理解できる。 7. セルフケア、生活の再構築・適応、ストレスコーピングの促進が必要な対象とその家族のQOLの維持・向上のために必要なチーム医療の在り方と看護の役割を理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるように、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	セルフケアを促進するための看護援助(1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護(1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助(2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護(2)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
3	セルフケアを促進するための看護援助(3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護(1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
4	セルフケアを促進するための看護援助(4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護(2)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
5	セルフケアを促進するための看護援助(5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 1)糖尿病の発症に伴う身体的・心理社会的反応とセルフケアの特徴	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。 レポートを課す。</p>	
6	セルフケアを促進するための看護援助(6)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 2)糖尿病セルフケア支援のための援助技法	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。 レポートを課す。</p>	
7	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(1)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 1) 難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す。</p>	
8	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(2)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 2) 生活の再構築の過程を支える看護	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す。</p>	
9	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(3)	膠原病(全身性エリテマトーデス、関節リウマチ)によりライフイベントに影響を受ける患者の理解と看護	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
10	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(4)	慢性閉塞性肺疾患により新たな療養法を必要とする患者の理解と看護	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-2を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
11	ストレスコーピングを促進するための看護援助(1)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護(1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	

	12	ストレスコーピングを促進するための看護援助（2）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護（2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること。																
	13	ストレスコーピングを促進するための看護援助（3）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-1-3を読んでおくこと。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること。																
	14	ストレスコーピングを促進するための看護援助（4）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護（1）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-6-2を読んでおくこと。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること。																
	15	ストレスコーピングを促進するための看護援助（5）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護（2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-6-2を読んでおくこと。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること。																
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅲ、成人病態看護論 人体の構造と機能、疾病・治療論や薬物治療学など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第2版</td> <td>鈴木久美 他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第2版	鈴木久美 他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第2版	鈴木久美 他	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝 他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学3 慢性期看護</td> <td>黒江ゆり子 他</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社																	
3																				
評価方法（基準）	定期試験 80%、レポート 20%の内容から総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	成人看護学実習Ⅱにつながる基本的な内容ですので、しっかり学習しましょう。成人看護学援助論Ⅲと連動していますので、具体的な進め方は別途説明します。																			
担当者の研究室等	研究室 29 森谷																			
備考																				

科目名	成人看護学援助論Ⅲ	科目名(英文)	Adult Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	<p>〔授業概要〕 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題を取り上げて、対象者の身体・心理・社会的特徴を学習する。これらを踏まえて、それぞれの健康問題のある対象に対する看護の方向性および看護援助方法について学習した上で、事例に対する看護技術を習得する。</p> <p>〔目的〕 成人期にある対象およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画、展開できる基礎的能力を養う。また、アセスメントをもとにした模擬患者への看護援助技術の提供や患者役の体験を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。学内演習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観や対象に適した看護実践を展開する基礎的能力を養う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術侵襲により身体的・精神的状態に急激な変化をきたしやすい急性期にある対象の観察とモニタリングができる。 2. 急性期にある対象の心身の苦痛を理解し、緩和に必要な看護技術について習得する。 3. 急性期にある対象の合併症予防と心身の早期回復を促進するための看護技術について習得する。 4. 慢性的な健康問題のある対象の看護に必要な知識及び看護技術について習得する。 5. 慢性的な健康問題のある対象への看護過程の展開について習得する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。授業方法は、学内演習を中心とする。
科目学習の効果(資格)	成人看護学実習Ⅰ、Ⅱで実際に活用する援助方法である。また、看護師国家試験受験において必須科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	手術を受ける対象への看護過程の展開	・看護過程の展開は、「成人看護学援助論Ⅰ」と連動させて行う。 ・看護問題の明確化、優先順位決定、計画立案を行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：看護記録の提出
2	手術を受ける対象への看護過程の展開	・自身が展開した看護過程を他者に説明する。 ・看護過程全体のまとめを行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：看護記録の提出
3	手術を受ける対象への看護技術①	・術直後の全身状態の観察とモニタリング、早期離床の促進(主に講義)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：課題の提出
4	手術を受ける対象への看護技術②	・術直後の全身状態の観察とモニタリング、早期離床の促進(主に援助の必要性・方法・留意点などの計画立案を行う)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：課題の提出
5	手術を受ける対象への看護技術③	・術直後の全身状態の観察とモニタリング(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：課題の提出
6	手術を受ける対象への看護技術④	・術直後の全身状態の観察とモニタリング(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：課題の提出
7	手術を受ける対象への看護技術⑤	・早期離床と日常生活援助(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：課題の提出
8	手術を受ける対象への看護技術⑥	・早期離床と日常生活援助(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	事後課題：課題の提出
9	慢性的な健康問題のある対象への看護過程1)	情報の整理・解釈・分析1)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。	
10	慢性的な健康問題のある対象への看護過程2)	情報の整理・解釈・分析2)	事後課題：完成させた課題を提出する。(情報の整理・解釈・分析)提出	
11	慢性的な健康問題のある対象への看護過程3)	関連図、統合・看護計画の明確化	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。	事後課題：完成させた課題(関連図、統合・看護計画の明確化)を提出する。
12	慢性的な健康問題のある対象への看護過程4)	看護計画の立案	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。	事後課題：完成させた課題(看護計画)を提出する。
13	慢性的な健康問題のある対象への看護過程5)	看護過程成果の共有	事後課題：完成させた全ての課題を提出する。	
14	慢性的な健康問題のある対象への看護技術1)	・輸液療法により体液管理を必要とする患者への援助 ・自己血糖測定・インスリン自己注射を用いてセルフマネジメントを必要とする患者への援助	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する	事後課題：演習に関する資料および振り返りレポートを提出する。
15	慢性的な健康問題のある対象への看護技術2)	・継続的な療養法の習得に向けた教育的支援	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する	事後課題：実施を振り返りレポートを提出する。

関連科目	成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題（レポートや記録等）の達成状況、および演習態度（積極性や取り組みへの姿勢等）により総合的に評価する。			
学生への メッセージ	成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱと連動して進めます。具体的には別途説明します。成人看護学実習Ⅰ、Ⅱの基礎となる学内演習です。しっかり学習しましょう。			
担当者の 研究室等	研究室 26 稲垣美・ 研究室 29 森谷			
備考				

科目名	精神看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
到達目標	心の構造と機能について説明できる。 心の健康・不健康について説明できる。 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。 精神保健の概念について説明できる。 精神科看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、視聴覚教材や精神医療に関する映画などを補助的に活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促したい。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「序章-I～IV」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書①「第1章I、II」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
3	心の健康とは何か(ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス)	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーンアウトとその対処、看護職者の感情体験について理解する	事前：教科書①「第4章I～III」「第5章I～IV」「第6章I、II」教科書②「第8章III」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。<看護師のメンタルヘルス
4	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神性的発達論について理解する。	事前：教科書①「第2章I～V」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
5	精神保健医療福祉の歴史の変遷	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章I、II」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
6	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)について理解する。	事前：教科書①「第7章III」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
7	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第1章I～IV」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
8	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援、認定・専門看護師制度、触法精神医療など、精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する	事前：教科書②「第7章I～III」「第8章I、II」を読んでください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目 精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 定期試験(85%)及びレポート、ワークシート(15%)を総合して判定する。なおレポート課題については授業の時に説明する。

学生へのメッセージ 積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室19(眞野)

備考 学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。

科目名	成人看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森谷 利香、松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3. 急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. 成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8. ターミナル期にある患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 9. 成人期の特徴をとらえた統合的なアセスメント・看護過程の展開について説明できる。
授業方法と留意点	成人期にある対象を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から老年期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視聴覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験の試験科目「成人看護学」の内容を修得するための授業科目の一つである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の成長・発達と健康レベル ・成人保健の動向 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第Ⅰ章「成人看護学の概念と構成」、第Ⅱ章「成人看護学の特性」を読んでおく。特に第Ⅰ章2,3, 第Ⅱ章1,3を読んでおくこと。授業後は学んだ内容の復習すること。
2	成人期にある対象の健康保健・医療・福祉における動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期における健康、健康レベルにおける枠組み ・成人期における健康障害の特徴と予防の現状 ・第1・2回で理解した内容をもとに、成人期にある対象の健康課題について、自身や周囲の人々の経験などから、理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第Ⅲ章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第Ⅴ章「健康レベルにおける枠組み」を読んでおくこと。授業後は課題を提出する。
3	急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・侵襲に対する生体反応 ・急性期にある患者の特徴 ・急性期にある患者の看護 ・心身の危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第Ⅴ章「健康レベルにおける枠組み」、第Ⅵ章3「ストレス理論・ストレスコーピング・危機理論」、4「生体侵襲理論」を読んでおくこと。
4	成人期にある対象の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング 成人期にある対象の健康課題や看護の役割について、グループ討議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第2回講義後に提出した課題及びこれまでの講義内容をもとに、成人期にある対象の健康課題や看護師の役割について、自身の考えをまとめておくこと。
5	急性期にある対象の理解①	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング がんで手術療法を受ける対象の事例を活用しながら、周手術期にある対象の心身の特徴や問題についてグループ討議する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業前に配布する資料を読んでおく。授業後は課題を提出する。
6	急性期にある対象の理解②	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング ①で明らかにした周手術期にある対象の心身の特徴や問題について他者に説明(発表)し、看護の方向性について討議する。討議を通して、様々な理解の視点や考え方を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業前に配布する資料を読んでおく。授業後は課題を提出する。
7	成人看護学における倫理的課題と看護者の役割、緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング 看護倫理と倫理原則、成人看護にまつわる倫理的課題について理解する。さらに、教科書の症例検討シートを参考にしながら事例検討を行い、倫理的問題解決過程を学習する。 ・急性期にある対象の全人的苦痛の理解と緩和ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第Ⅳ章「成人看護における倫理と看護者の役割」を読んでおくこと。緩和ケアについては資料を配布する。授業後は課題を提出する。
8	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患及び治療法の特徴 ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・病の軌跡理論の理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第Ⅴ章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第Ⅵ章14「病の軌跡」を読んでおくこと。
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解 ・支援が必要となった要因(QOL)とその援助 ・セルフケア理論の理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第Ⅴ章4「健康再構築への支援を必要としている対象」、第Ⅵ章5「セルフケア論」を読んでおくこと。
10	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念の理解、リハビリテーションを必要とする対象の理解(障害受容)と看護の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第Ⅴ章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと。
11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンドラゴジ理論の理解と活用 ・自己効力理論理解と活用、患者支援教育の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第Ⅵ章10「アンドラゴジ」、6「自己効力理論」を読んでおくこと。

	12	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(2)	・アドヒアランス理論、エンパワーメント理論、適応理論、それぞれの理解と活用	・授業前に教科書第VI章13「アドヒアランス」、8「エンパワーメント」、7「適応理論」を読んでおくこと。																
	13	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	・がんとともに生きる対象の理解(全人的苦痛をもつ患者の理解)と特徴的な看護 ・がん医療における緩和ケア	・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」の項を読んでおくこと。																
	14	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	・ターミナル期の定義 ・ターミナル期にある対象の特徴(心理過程の理解)と必要な援助	・授業前に第V章5「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと。 ・レポート課題を提示する。																
	15	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開	・授業前に教科書第VII「成人におけるヘルスアセスメント」、第VIII章「看護過程の展開」を読んでおくこと。																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学概論(第2版)</td> <td>大西和子、岡部聡子編</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護: エンド・オブ・ライフ・ケア</td> <td>田村 恵子 編</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学概論(第2版)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ	2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護: エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子 編	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学概論(第2版)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ																	
2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護: エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子 編	メヂカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2015/2016 (厚生省の指標)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護: クリティカルケア</td> <td>明石恵子、益田美津美</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>がん看護学</td> <td>大西和子、飯野京子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2015/2016 (厚生省の指標)			2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護: クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社	3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2015/2016 (厚生省の指標)																			
2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護: クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社																	
3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ																	
評価方法(基準)	<p>本科目では2/3以上の出席を成績評価の対象とする。</p> <p>定期試験及びレポート課題を総合して総括的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。</p> <p>定期試験(80%)、レポート及び課題の達成状況(20%)</p>																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では広範な内容を網羅し、かつ聞き慣れない専門用語が多いため、予習・復習を欠かさず行いましょう。 ・成人看護学の基礎となる内容で広範囲にわたる講義を行うので、遅刻・欠席をせず、時間を有効に活用しましょう。 ・対象の理解を深め適切な援助を展開していくためにも、闘病記を読み、また身近な人の体験談を聞くなど試みてみましょう。 																			
担当者の研究室等	研究室 26 稲垣美・ 研究室 29 森谷																			
備考																				

科目名	精神看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 原則として1グループ5名編成とし、担当教員の指導を受ける。 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 実習中は、受持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。 毎日カンファレンスを行い、1日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。 																																																																		
科目学習の 効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																																																																		
学生への メッセージ																																																																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)																																																																		
備考	<p>【実習場所】 ハートランドしぎさん</p>																																																																		

科目名	成人看護学実習Ⅰ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5～6人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。 <p>【実習施設】 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属枚方病院</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	必要に応じて適宜紹介する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	実習期間出席した上で、実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、実習態度を総合して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変わるので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																																																																		
担当者の研究室等	竹下(研究室30)																																																																		
備考																																																																			

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p> <p>【目的】 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 6) 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4) 臨地に向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6) 実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。 8) 実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 2. 実習期間・病棟実習時間 期間…3週間 病棟実習時間…原則として9時～16時(うち1時間を休憩とする) 3. 実習施設 独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 関西医科大学香里病院 関西電力病院 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション ・日常生活上の援助 ・治療や処置に関する援助 ・患者教育 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	本実習では、慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																
担当者の研究室等	研究室29 森谷																
備考																	

科目名	成人病態看護論	科目名(英文)	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○		

授業概要・目的	<p>【概要】 看護実践においては、様々な機能障害を有し、また症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供する場面に遭遇する。患者の各々の病態について、発生機序・程度・経過・増悪あるいは軽減させる要因を理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な機能障害や症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。</p> <p>【目的】 疾病やそれに伴う治療・処置、または、事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について、その体験が成人期の対象やその家族に与える身体的・心理社会的影響をふまえ、アセスメントから看護実践につなげる方法を理解する。なお、疾病については発症から終末までのすべての病期を含む。</p>
---------	--

到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各機能障害および症状を発現する病態を理解する。 2. 各機能障害および症状がもたらす対象者やその家族への影響を理解する。 3. 機能障害の予防、緩和、また症状に伴う苦痛の軽減のための看護実践方法を理解する。
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者(DVD等)を用いて演習を行う。 ・出席は出欠管理システムおよび提出物で確認します。 ・レポートは、提出期限までに提出のない場合には、減点対象とします。
----------	--

科目学習の効果(資格)	病態や症状に関する看護方法は、看護を実践するうえで不可欠な基礎的能力です。
-------------	---------------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護1	「運動麻痺」の症状を呈する患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	2	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護2	「意識障害」の症状を呈する患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	3	循環機能障害のある患者の看護1	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	4	循環機能障害のある患者の看護2	循環機能障害のある患者のアセスメントと看護	事前:病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	5	呼吸機能障害のある患者の看護1	「呼吸困難」の症状を呈する患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	6	呼吸機能障害のある患者の看護2	「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	7	消化機能障害のある患者の看護1	「便秘」「下痢」「悪心・嘔吐」「腹痛」の症状を呈する患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	8	消化機能障害のある患者の看護2	消化機能障害のある患者のアセスメントと看護	事前:病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習 事後:教科書および資料の復習
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、病理学総論、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版	高木永子監修	学研
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる Vol. 1 消化器	福本陽平 監修	メディックメディカ
	2	病気がみえる Vol. 2 循環器	荻原誠久 監修	メディックメディカ
	3	病気がみえる Vol. 4 呼吸器	滝澤 始 監修	メディックメディカ

評価方法(基準)	定期試験(90%)、レポート課題(10%)により総括評価する。2/3以上の出席を成績評価の対象とします。
----------	--

学生へのメッセージ	関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。原則として演習を欠席した場合の補講は実施しない。
-----------	--

担当者の研究室等	研究室26(稲垣)
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	総合看護学演習	科目名(英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP7○		

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目を統合して、横断的に学習する。また、学生自ら本学で学習した必要な知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学習が継続できる力を養う。																																																																		
到達目標	1. これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 2. 自ら主体的に学習を継続することができる。																																																																		
授業方法と留意点	各専門科目をオムニバス形式で、講義および演習形式で実施する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護師国家資格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>人体の構造と機能</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>2</td><td>薬理学総論・薬物治療学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>3</td><td>病理学総論</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>4</td><td>疾病・治療論</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>5</td><td>公衆衛生</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>6</td><td>統合看護・関係法規</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>7</td><td>基礎看護学Ⅰ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>8</td><td>基礎看護学Ⅱ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>9</td><td>成人看護学Ⅰ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>10</td><td>成人看護学Ⅱ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>11</td><td>老年看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>12</td><td>在宅看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>13</td><td>母性看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>14</td><td>小児看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>15</td><td>精神看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	人体の構造と機能	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	2	薬理学総論・薬物治療学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	3	病理学総論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	4	疾病・治療論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	5	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	6	統合看護・関係法規	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	7	基礎看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	8	基礎看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	9	成人看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	10	成人看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	11	老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	12	在宅看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	人体の構造と機能	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
2	薬理学総論・薬物治療学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
3	病理学総論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
4	疾病・治療論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
5	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
6	統合看護・関係法規	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
7	基礎看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
8	基礎看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
9	成人看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
10	成人看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
11	老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
12	在宅看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
関連科目	全専門基礎科目、全専門科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>授業中に資料を配布する</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に資料を配布する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に資料を配布する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問</td><td>東京アカデミー</td><td>東京アカデミー</td></tr> <tr><td>2</td><td>看護学生スタディガイド</td><td>池西静江、石東佳子</td><td>照林社</td></tr> <tr><td>3</td><td>レビューブック</td><td>岡庭 豊</td><td>MADIC MADIKA</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー	2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社	3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー																																																																
2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社																																																																
3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																																
評価方法(基準)	定期試験2回分の合計得点で評価する。 (但し、全ての臨時試験を受験しておくことを定期試験の受験要件とする)																																																																		
学生へのメッセージ	全看護学の総合的な科目です。自己の学習を進めながらしっかり復習をしていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	各担当教員の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	代謝栄養学	科目名 (英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質 (アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果 (資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
4	脂質の代謝	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩和な状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テストと課題 (25%)、定期試験 (75%) で評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館5階細胞生物学研究室
備考	

科目名	地域看護学	科目名(英文)	Community Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP6◎, DP8△		

授業概要・目的	<p>(1) 地域看護・公衆衛生看護の歴史的な変遷や社会環境の変化に影響を受け発展した、基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて理解し、看護のあり方を考える基礎的な内容を講義する。</p> <p>(2) 本科目では、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の看護職の活動を理解し、地域看護・公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める。</p>
到達目標	<p>(1) 地域看護・公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。</p> <p>(2) 地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。</p> <p>(3) 地域看護・公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。</p> <p>(4) 地域住民の健康と生活を支援するポプレーションアプローチとハイリスクアプローチをはじめ、保健師の活動について基礎となる理論と方法を理解できる。</p> <p>(5) 行政、産業、学校など対象集団、発達段階及び健康レベル別の地域看護・公衆衛生看護活動の概要について理解し、看護職(保健師等)の役割について説明できる。</p>

授業方法と留意点	講義を中心とした授業形態とする。一部、事例検討などを交えた演習形態を取り入れる。
----------	--

科目学習の効果(資格)	保健・医療・福祉制度の概要とともに看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域における看護職の役割について理解を深め考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	公衆衛生看護の歴史の変遷	公衆衛生看護の歴史の変遷(諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針)	前授業の復習をすること。テキスト P13~63, 69~82 を読んでくること。
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護(プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本21」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果)	前授業の復習をすること。テキスト P13~92, 196~200, 218~223, 261~275 を読んでくること。
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開(ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業)	前授業の復習をすること。テキスト P13~92, 196~200, 218~223, 261~275 を読んでくること。
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み(成人保健活動より)、保健指導と健康教育概論	前授業の復習をすること。テキスト P13~92, 196~200, 218~223, 261~275 を読んでくること。
6	公衆衛生看護活動 - 1	公衆衛生看護活動 - 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康診査の概要	前授業の復習をすること。テキスト P64~67, 177~193, 208~211 を読んでくること。
7	公衆衛生看護活動 - 2	公衆衛生看護活動 - 2 対象別の公衆衛生看護活動(人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動)	前授業の復習をすること。テキスト P227~242, 262~268, 283~286 を読んでくること。
8	公衆衛生看護活動方法 - 3	公衆衛生看護活動 - 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動(精神保健・感染症概論)	前授業の復習をすること。テキスト P338~344, 350~356, 357~362, 369~371 を読んでくること。
9	公衆衛生看護活動方法 - 4	公衆衛生看護活動 - 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動(結核・難病概論)	前授業の復習をすること。テキスト P378~383, 306~312 を読んでくること。
10	公衆衛生看護活動 - 5	公衆衛生看護活動 - 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	前授業の復習をすること。テキスト P149~171 を読んでくること。
11	公衆衛生看護活動 - 6	公衆衛生看護活動 - 6 地域診断の概要(地域診断の定義、地域診断の意義と目的、地域診断の理論とモデル、地域診断の方法)、地区踏査	前授業の復習をすること。テキスト P97~116 を読んでくること。
12	公衆衛生看護活動 - 7	公衆衛生看護活動 - 7 地域診断の事例、公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と施策化、予算の仕組み、評価	前授業の復習をすること。テキスト P42~48, P128~147, P487~488 を読んでくること。
13	産業保健 1	産業保健 1(産業保健・産業看護の理念と我が国の実態)	前授業の復習をすること。テキスト P447~469 を読んでくること。
14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健(学校保健と養護教諭の役割・活動の実際)	前授業の復習をすること。テキスト P447~469, 433~446 を読んでくること。
15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公	前授業の復習をすること。テキスト P515~526 を読

		衆衛生看護活動	んてくること。
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	「公衆衛生看護学.jp 改訂第4版」	荒賀直子, 後閑容子
	2	「国民衛生の動向 2017/2018」 厚生労働統計協会	
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格とする。出席の扱いは学生便覧の通り（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）		
学生への メッセージ	授業では、保健福祉行政論及び家族看護学で学んだ内容を復習した上で臨んでください。また社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。 授業中の私語、私的なスマートフォンの操作、教室の出入りは原則、禁じます。		
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階研究室7		
備考	なし		

科目名	統合看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【授業の概要】 自らが関心のある看護専門領域(対象領域；基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、指定の実習施設において実習を行う。</p> <p>【実習目的】 自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽し続ける能力を身につける。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。 2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護を実践できる。 3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。 4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。 5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動ができ、自らの倫理観を説明できる。 6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーションを受ける。午後より、看護管理について受講する。 2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう(詳細については、各領域の実習要綱参照)。 3. 実習最終日は、学内において領域別に実習目標の達成の成果、学びを深める。 <p>【留意事項】 統合実習要綱を熟知し、実習に臨む。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各領域で指定する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各領域で指定する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	各領域で指定する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容・態度・記録を指標を用いて評価する。																
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。																
担当者の研究室等	全ての担当教員																
備考																	

科目名	病院薬学演習	科目名(英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真徳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5○, DP7○		

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（7号館にて実施）と演習（6号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	処方せんの読み方を理解する	講義（小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	調剤の基本を実践する 計数調剤/軟膏剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	調剤の基本を実践する 計数調剤/軟膏剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	調剤の基本を実践する 水剤/散剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	調剤の基本を実践する 水剤/散剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方箋の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田・小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/調剤薬の 監査 前半	演習（菊田・小森他） （6号館 1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/調剤薬の 監査 後半	演習（菊田・小森他） （6号館 1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/消毒剤調 製・医薬品管理 前半	演習（菊田・小森他） （6号館 1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/消毒剤調 製・医薬品管理 後半	演習（菊田・小森他） （6号館 1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 前半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 後半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本[技能] 第3版	上村直樹、平井みどり	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち-臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 70% (発表内容を含む) および成果物 30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中 60点以上で合格。			
学生への メッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。			
担当者の 研究室等	6号館 3階 医療薬学研究室			
備考	講義前の予習 (教科書を読む) : 1時間×15回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×15回			

科目名	病理学総論	科目名(英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に消化器および代謝内分泌疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲへと引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病理学総論(消化器2)	講義にて消化器疾患、主に食道疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
3	病理学総論(消化器3)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
4	病理学総論(消化器4)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
5	病理学総論(消化器5)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
6	病理学総論(消化器6)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
7	病理学総論(消化器7)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
8	病理学総論(消化器8)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
9	病理学総論(消化器9)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
10	病理学総論(代謝内分泌1)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
11	病理学総論(代謝内分泌2)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
12	病理学総論(代謝内分泌3)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
13	病理学総論(代謝内分泌4)	講義にて代謝内分泌疾患、主に尿酸代謝および異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
14	病理学総論(代謝内分泌5)	講義にて代謝内分泌疾患、主に甲状腺疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
15	病理学総論(代謝内分泌6)	講義にて代謝内分泌疾患、主に副甲状腺・下垂体疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習

関連科目 疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。 試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度等を評価の一部とする。 定期試験 (90%)、講義での授業態度評価など (10%) で最終評価する。
学生への メッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	保健医療福祉行政論	科目名(英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	<p>人口の少子高齢化、格差の拡大など、社会のあり方が大きく変わりつつある今日、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも大きく変わる必要に迫られている。その仕組みは複雑であるが、社会の変化の流れと関連付けることで、今日の姿の必然性、そして今後のあるべき方向性が見えてくる。</p> <p>本科目では生活を支える社会的仕組みである社会保障を中心に扱い、「なぜ」「どうして」という問いを立て、それにこたえる形で授業を進める。日本の公衆衛生を向上させ、国民の健康を守ってきたのが保健医療福祉行政とその制度である。本講義ではこうした保健医療福祉行政とその制度や仕組みについて学ぶ。また、保健、医療、福祉が連携して展開されている現状について講義する。</p>
到達目標	<p>保健医療福祉行政とその制度・仕組みについて理解するとともに、制度ごとの関係や違いについても説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史的変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。
授業方法と留意点	講義を中心とした授業形態とする。一部、事例検討を交えた演習携帯を取り入れる。
科目学習の効果(資格)	<p>社会保障制度と福祉の動向を知ることにより、看護の対象者への支援について幅広く考えることができる。</p> <p>看護師・助産師国家試験においても社会保障制度の出題は増加している。試験対策としての知識習得をしていく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	保健医療福祉行政の概要と変遷(1)	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	テキストp42まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
2	保健医療福祉行政の概要と変遷(2)	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	テキストp43～p76まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈子ども・家庭と福祉〉	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	テキストp80～p96まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈障害児・者と福祉〉	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	テキストp98～p110まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈難病対策〉	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	テキストp111～p119まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
6	社会福祉の制度 〈生活保護〉	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	テキストp136～p149まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
7	社会福祉の制度 〈地域福祉〉	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	テキストp152～p161まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈高齢者と福祉〉	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	テキストp120～p133まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
9	社会保障制度 〈医療保険制度〉	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	テキストp171～p186まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
10	社会保障制度 〈年金制度〉	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	テキストp164～p170まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
11	社会保障制度 〈雇用保険と労災保険〉	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	テキストp200～p210まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
12	社会保障制度 〈介護保険(1)〉	制度創設の背景 介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	テキストp187～p199まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
13	社会保障制度 〈介護保険(2)〉	介護サービスの利用 介護サービスの内容	最新ニュースに留意
14	社会保障制度 〈介護保険(3)〉	介護保険制度の見直しと課題	最新ニュースに留意
15	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	最新ニュースに留意

関連科目 公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論、地域看護学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)	増田雅暢 平野かよ子 島田美喜	メディカ出版
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの保健医療福祉行政論	星旦二 麻原きよみ	日本看護協会出版会
	2	衛生行政大要	上田茂	日本公衆衛生協会
	3	国民衛生の動向 2017		厚生労働統計協会
評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格. 授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。教科書を読むだけではわかりにくいので、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁です。 			
担当者の 研究室等	富永真己 松田千登勢 7号館3階研究室6 山本十三代 7号館3階研究室5			
備考	なし			

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	<p>《概要》 妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントと看護の方法について学ぶ。 (オムニバス 方式/全15回)</p>
到達目標	1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 正常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。 3. 異常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD鑑賞・課題、演習などの方法で学ぶ
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	母性の発揮を促す看護	子どもを生み育てるあたり生じる遺伝、不妊の問題、不妊治療を受ける女性の心理的特徴からその支援、看護について理解する	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
2	妊娠期の心理と社会的特性	1. 妊娠期の心理的变化 2. 親となる心理的变化と母性の心理を把握するための理論を学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
3	妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護	1. 妊婦検診の実際と妊娠経過のアセスメントについて学ぶ 2. 妊婦が受ける母性保健サービスと保健指導について学ぶ 3. マイナートラブルと対処について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
4	ハイリスク妊婦の看護	1. ハイリスク妊婦 (高年、若年、過剰体重増加) 2. 異常妊娠 (感染症、妊娠高血圧症候群、血液型不適合など) 3. 合併症のある妊婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
5	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
6	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
7	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
8	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ 母子分離、喪失感覚、悲嘆へのケアについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
9	褥婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
10	褥婦の心理・社会的変化	Rubinの母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
11	産褥期の異常と看護 1	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
12	産褥期の異常と看護 2	精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
13	新生児の生理と看護	新生児の生理と看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
14	育児技術に関わる援助	技術演習 新生児の抱き方と寝かせ方、オムツ、衣服の交換等	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
15	低出生体重児、高ビリルビン血症児の看護	低出生体重児のおこりやす問題と看護、ディベロップメンタルヘルスクエア、高ビリルビン血症児：黄疸のリスク因子、検査、治療と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習

関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院
	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院
	2	病気がみえる vol.10:産科		メディックメディア
	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版
評価方法 (基準)	定期試験 80%、提出物 20%、授業参加状況を見て総合的に評価する。			
学生への メッセージ	母性看護学は妊婦だけではなく、女性の健康を支援する看護学です。そのために、夫をはじめとした家族も看護の対象となるなど、幅広い対象に看護を行います。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。			
担当者の 研究室等	泉川孝子（研究室 15）、西頭知子（研究室 14）、名草みどり（研究室 13）			
備考				

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名草 みどり
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	精神看護を実践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者―看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者―看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者―看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるロールプレイング、プロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者―看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科で行われている治療とその治療を受ける患者の看護について理解する。 精神科病棟で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、現場で働いている看護師による講義を取り入れ、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促す。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前：「第3章-II-B」「第6章-II-A, E」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前：「第3章-II-D」「第6章-II-B」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前：「第3章-II-B, D」「第6章-II-A, B」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前：「第3章-II-E, F」「第6章-II-B, G」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前「第3章-II-D」「第6章-II-B, C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前第3章-II-N」「第6章-II-H」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	7	援助的人間関係(理論編1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前：「第4章」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	8	援助的人間関係(理論編2)	対人関係論、プロセスレコード	事前：「第4章」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	9	援助的人間関係(実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後：授業内容を整理しておいてください。
	10	援助的人間関係(実践編)	プロセスレコードを記載する	事後：授業内容を整理しておいてください。
	11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り	事後：授業内容を整理しておいてください。
	12	援助的人間関係(実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習(症状への対応)	事前：「第6章-II-A」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	13	精神科治療と看護(1)	薬物療法と看護	事前：「第3章-III-A」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	14	精神科治療と看護(2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前：「第3章-III-B, C, D」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
	15	退院調整と地域生活支援・精神科救急に関する看護	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、精神科救急の現場で実践されている看護援助、精神科における看護師の役割・機能など	事後：授業内容を復習をしておいてください

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社
	2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	合否は、定期試験(85%)及びワークシート、演習、演習時の課題(15%)を総合して判定する。
----------	--

学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 外部講師による講義も予定している。日程は追って連絡するので、注意深く掲示板、ポータルサイトを確認をすること。

科目名	母性看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性とはなにかを幅広く捉え、人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。母性の特性については、母性保健の動向や現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題を理解し、現代女性・家族へのサポートについて考える。
到達目標	1. 母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について理解する。 2. 人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。 3. 母性看護の変遷や母性保健統計の動向、母子保健施策から現状を理解する。 4. 現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題について理解する。 5. 女性のライフステージ各期における諸問題、看護について理解する。 6. 現代の女性・家族の健康に関する諸問題へのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。
授業方法と留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してください。母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもつてのぞみましょう。
科目学習の効果(資格)	授業内容は、看護師国家試験の母性看護学の科目に出題されることがあり、国家試験に直結する科目です。また、助産選択に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性の概念について	母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について学ぶ。 ?セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて学ぶ(講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習?
2	母性看護の対象を取り巻く社会について1	母性看護の歴史の変遷と現状、日本と諸外国の助産の歴史、について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
3	母性看護の対象を取り巻く社会について2	母子保健統計からみた動向、母子保健施策からみた現状、母性看護に必要な法制度について理解する(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
4	母性看護の対象理解	人間の性差について理解し、セクシュアリティについて学ぶ。母性の発達・成熟・継承。母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程の支援に必要なことを学ぶ。女性のライフサイクル、母性各期(小児期、思春期、成熟期、更年期、老いて理解する(講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
5	思春期の健康と看護	思春期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、思春期におけるセクシュアリティの課題について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
6	成熟期の健康と看護	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
7	更・老年期の健康と看護	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
8	リプロダクティブヘルスケア	女性の健康に関する、性感染症・妊娠中絶・喫煙・DV、国際化社会等におけるリプロダクティブヘルスケアについて理解する(講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能、食生活論、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、地域看護学、家族看護学、看護倫理、女性学
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	親と子のきずな	クラウス・ケネル	医学書院
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院	
3				

評価方法(基準)	定期試験・授業参加度(提出課題・授業態度等)を総合して判定する。 割合: 定期試験 85% (泉川 75点、福山 5点、名草 5点)、提出課題等 15%
学生へのメッセージ	セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げて行きましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。
担当者の研究室等	泉川孝子(研究室15)、西頭知子(研究室13)、名草みどり(研究室11)
備考	

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>概要 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、母親（父親）役割適応の過程を明らかにすることができる。 2. 周産期の母子とその家族に対して、安全・安楽に健康維持・増進（促進）について看護過程の展開ができる。 3. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。 4. 各施設における母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす役割と地域連携を考えられる。 5. 生命の尊厳を認識し、対象となる母子とその家族を尊重し、倫理的配慮のある態度と言動がとれる。 																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもちに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。 5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産婦・新生児の生活の流れを理解する。 6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。 7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する 8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。 9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。 10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。 <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産婦は精神的に不安定で、疲労も強い。訪室時間や言動に注意をし、新生児は抵抗力がなため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 <ul style="list-style-type: none"> 初日に実習のオリエンテーション、最終週木曜日は学内でテーマカンファレンスの資料を作成。金曜日、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを実施する。 2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1組の褥婦とその新生児を2人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。 2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。 3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導の下もとにケアを行う。 3. 外来実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。 2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導者の基に健康診査や保健指導を見学する。 3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。 4. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていること意見交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。 2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。 3) 学内で施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。 5. 事前事後学習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。 2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。 6. 実習態度およびルール <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。 2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。 3) 実習で知りえた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。 4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学概論		医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	系統看護学講座 母性看護学概論		医学書院														
2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol.10 産科</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>ルービン, R</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾京子他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol.10 産科		メディックメディア	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	病気が見える vol.10 産科		メディックメディア														
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院														
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版														
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	妊産婦、新生児および家族を通して、ウェルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、そのパワーに触れてみてください。母親や父親（パートナー）、新生児からも学べる機会が多い実習になるでしょう。																
担当者の	泉川（研究室15）、西頭（研究室14）、名草（研究室13）、但馬（研究室20）、宮本（研究室12）、飯田、永田（共同研究室5）																

研究室等	
備考	実習場所 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、JCHO 大阪病院、はるか助産院

科目名	薬物治療学	科目名(英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 雅幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるために、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につける。
到達目標	(1) 中枢神経に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (2) 免疫系、アレルギー疾患、炎症性疾患に用いる薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (3) 消化器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (4) 抗がん薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (5) 生殖系・物質代謝に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (6) 抗感染症薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (7) 救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。
授業方法と留意点	指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配布します。また、臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題を提供します。配布するプリントの内容は、授業前日までに webbox (ファイル共有システム) にアップロードしますので、事前学習にお役立て下さい。事前事後学修確認テストを毎回の授業で実施する予定です。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の概要 中枢神経系に作用する薬物(1)	講義の進め方、注意事項、評価方法について説明する。中枢神経系のはたらきと薬物について、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
2	中枢神経系に作用する薬物(2)	気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
3	中枢神経系に作用する薬物(3)	抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
4	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬(1)	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬(2)	関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
7	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、健胃・消化薬と消化管運動促進薬、制吐薬、下剤と止痢薬、潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬、駆虫薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
8	抗がん薬(1)	がん治療に関する基礎事項について、学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
9	抗がん薬(2)	抗がん薬各論について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
10	生殖系・物質代謝に作用する薬物	生殖系に作用する薬物、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン、骨粗鬆症の治療薬、治療薬としてのビタミンについて学修する。	教科書の該当範囲の予習・復習
11	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
12	抗感染症薬(1)	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
13	抗感染症薬(2)	抗感染症薬の血中濃度測定の意義、およびその際の看護上の留意点について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
14	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識、消毒薬について学修する。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習
15	総合演習	第1~14回の学修内容を振り返る。	該当範囲の教科書・プリントの予習・復習

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療Ⅰ、Ⅱ、薬理学総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版

評価方法(基準)	定期試験(70%)、確認テスト(30%)、100点満点の60点以上で合格とする。
学生へのメッセージ	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で医師・薬剤師と意見交換が出来るよう、薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	質問は、授業の前後に教室、または非常勤講師室で受け付けます。また、メールでも受け付けます(メールアドレスは授業内でお知らせします)。遠慮せずにいらしてください。

科目名	薬理学総論	科目名(英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投薬方法及び投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。																																																																		
到達目標	(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。 (2) 薬が作用するしくみについて、受容体、イオンチャネル、酵素、などを交えて説明できる。 (3) 薬を投与した際の体内挙動(吸収、分布、代謝、排泄)について概説できる。 (4) 薬物相互作用について例を挙げて説明できる。 (5) 薬物の危険性について理解し、例を挙げて説明できる。 (6) 薬に関連した法律について概説できる。 (7) 自律神経系(交感神経・副交感神経)に作用する薬物について説明できる。 (8) 体性神経系(運動神経、知覚神経)に作用する薬物について説明できる。 (9) 心臓血管系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (10) 呼吸器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (11) 泌尿器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。																																																																		
授業方法及び留意点	基本的には指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配付します。また、事前学修確認テストを毎回の授業で実施するので事前学習は必ず行うこと。その詳細は授業開始時に周知します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬理学を学ぶにあたって</td> <td>薬理学とはなにか、薬による病気の治療について学修する</td> <td>・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>薬理学の基礎知識(1)</td> <td>薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>薬理学の基礎知識(2)</td> <td>薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>薬理学の基礎知識(3)</td> <td>薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>薬理学の基礎知識(4)</td> <td>薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割</td> <td>看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(1)</td> <td>神経系による情報伝達、自律神経作用薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(2)</td> <td>交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(3)</td> <td>筋弛緩薬・局所麻酔薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(1)</td> <td>抗高血圧薬・狭心症治療薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(2)</td> <td>心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(3)</td> <td>利尿薬、脂質異常症治療薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(4)</td> <td>血液に作用する薬物について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>呼吸器系に作用する薬物</td> <td>気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>泌尿器系に作用する薬物</td> <td>排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について学修する	・事前学修確認テストを中心として復習する	2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	7	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	8	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	9	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	10	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	11	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	12	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	13	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について学修する	・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
7	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
8	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
9	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
10	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
11	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
12	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
13	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、薬物治療学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
評価方法(基準)	事前学習(10%)、授業中の演習課題(10%)、中間テスト(30%)、定期試験(50%)、100点満点の60点以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館6階(薬理学研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	臨床看護学演習 I	科目名 (英文)	Clinical Nursing Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的
【授業概要】
 模擬カルテから対象の情報を読み取り、薬学部学生との共同演習を通して、それぞれの医療専門職の視点から明らかになった情報や問題点及び対策を共有し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的知識と技術を学習する。

到達目標
【一般目標】
 1. 提示された事例に関する様々な情報を模擬カルテから収集して、疾患と治療経過および心理的社会的背景といった対象の全体像を説明できる。
 2. 対象の情報をアセスメントし、看護上の問題と解決策を明らかにして、他職種にも分かりやすく説明できる。
 3. 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的で効果的なグループ討議に主体的に参加できる。
 4. 看護師・薬剤師の医療専門職の役割を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。
 5. 演習を通して、対象を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームの協働・連携の必要性と方法を説明できる。

授業方法と留意点
 看護学部学生のみでのグループで模擬カルテからの情報収集、アセスメント、看護計画の立案、他職種との協働と連携について討議し、課題を作成する。薬学部学生と合同で互いの視点でまとめた事例発表を行い、その後、薬学部学生と合同でグループワークを行い、同じ模擬事例患者における多職種との協働と連携についての課題を作成する。合同グループワークの成果物を合同発表会で共有する。グループワークに積極的に参加すること。個人情報取り扱いについて留意すること。本演習は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡(ポータル・掲示)は必ず確認すること。

科目学習の効果 (資格)
 臨床実習でのカルテ読解が円滑になり、実習の学習効果の促進に貢献する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	演習の進め方・注意事項について説明する	看護の役割・機能や看護過程を中心とした看護の展開やその思考について、他の科目の学習を振り返っておく。 担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
2	カルテ読解演習 (1)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
3	カルテ読解演習 (2)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
4	カルテ読解演習 (3)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
5	カルテ読解演習 (4)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
6	カルテ読解演習 (5)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療の目標および目標達成のための課題を明確にする	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
7	カルテ読解演習 (6)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療の目標および目標達成のための課題を明確にする	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
8	カルテ読解演習 (7)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
9	カルテ読解演習 (8)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
10	カルテ読解演習 (9)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
11	カルテ読解演習 (10)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
12	カルテ読解演習 (11)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。
13	カルテ読解演習 (12)	薬学部学生とのグループ討議によって、他職種チームによる医療における協働と連携の在り方について考える	課題レポートの作成
14	事例発表会 (1)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成
15	事例発表会 (2)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成

関連科目 成人看護学概論 I・II、成人看護学援助論 I・II、成人病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I・II、薬物治療学

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2	病気がみえる Vol.2 循環器、Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌、Vol.8 腎・泌尿器科		メディックメディア
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			

	3		
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。		
学生への メッセージ	臨地実習やその後の実践において必ず必要になる知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。		
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室28 (松本)		
備考			

科目名	臨床看護学演習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Nursing Practice II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	<p>《概要》 看護学生と薬学生との共同演習を通して、医療職の専門性を尊重しつつ、役割分担と連携の必要性を理解し、医療の対象となる人々に対して計画的かつ安定した医療に参画できるようになるために、検査・治療計画の標準化の必要性とクリニカルパス作成に対する看護師と薬剤師の関与を理解し、クリニカルパス作成に必要な基本的知識と技術を学習する。</p> <p>《学習目的》 薬学部学生との共同演習を通して、計画的かつ安定した医療の提供のための検査・治療の標準化の必要性およびそのツールとしてのクリニカルパスについて理解する。クリニカルパス作成における各医療職種役割と連携のあり方について理解し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的能力を修得できる。</p>
到達目標	<p>《一般目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画的かつ安定した医療に参画できるようになるために、検査・治療計画の標準化の必要性について理解し、説明できる。 2. クリニカルパス作成およびパスに沿った医療の提供における各医療専門職の役割について理解し、説明できる。 3. クリニカルパス作成を通して、看護の視点に立った患者に有効な指導内容及び方法を他職種に提案できる。 4. 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的に効果的なグループ討議に主体的に参加できる。 5. 看護師・薬剤師の医療専門職の特性を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。 6. 演習を通して、患者を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームおよび地域の関連機関との協働・連携の必要性と方法について説明できる。
授業方法と留意点	<p>薬学部学生と小グループを編成してグループワークを行い、課題を作成する。成果物は全体発表会にて共有する。グループワークには積極的に参加すること。</p> <p>本授業は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡（ポータル・掲示）は必ず確認すること。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>臨地実習においてクリニカルパスが適応されている患者を担当することがある。そのため、実習の学習成果の促進に貢献する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(2)	授業テーマに関する講義	講義内容の復習
3	クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(3)	演習に関するオリエンテーション	講義内容の復習 担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。
4	患者用クリニカルパス作成(1)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。 個人課題を作成する。
5	患者用クリニカルパス作成(2)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
6	患者用クリニカルパス作成(3)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
7	患者用クリニカルパス作成(4)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
8	患者用クリニカルパス作成(5)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
9	患者用クリニカルパス作成(6)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
10	患者用クリニカルパス作成(7)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
11	患者用クリニカルパス作成(8)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。 対象とする疾患に対する各職種のケアの在り方について討議する。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
12	患者用クリニカルパス作成(9)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。

			ついて患者用クリニカルパス作成をする。発表用資料を作成する。対象とする疾患に対する各職種のケアの在り方について討議する。	グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。個人課題を作成する。																
	13	発表 (1)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成																
	14	発表 (2)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成																
	15	発表 (3)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成																
関連科目	成人看護学概論 I II、成人看護学援助論 I II、病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I II、薬物治療学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関連科目の教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	関連科目の教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	関連科目の教科書																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	臨地実習やその後の臨床実践において必要な知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 松本研究室 (28)																			
備考																				

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 宣子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	<p>(概要) 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的ケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援についてのグループ学習等を行い、高齢者理解を深めます。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(小川宣子/5 回) 認知症高齢者の理解と支援 (2)、高齢者の生活機能から捉えた看護 (コミュニケーション・活動・安全・余暇支援)</p> <p>(田中真佐恵/1 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (清潔)</p> <p>(吉井輝子/2 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (排泄・食事)</p> <p>(小川宣子、田中真佐恵、吉井輝子/7 回) 高齢者疑似体験、高齢者の生活支援の演習、時代背景を踏まえた余暇支援の企画</p>
---------	---

到達目標	<p>1) 高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。</p> <p>2) 加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。</p> <p>3) 高齢者の生きてきた時代背景を知り、長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。</p>
------	--

授業方法と留意点	講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援の演習、時代背景を踏まえた余暇支援の企画を行います。これらはグループで実施するので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートも評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験
--------------	---------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	高齢者の生活機能から捉えた看護 (1: コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
2	認知症高齢者の理解と支援 (1)	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
3	認知症高齢者の理解と支援 (2)	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアについて学習します。	前回の講義内容についての小テストを行います。復習の上、参加してください。
4	高齢者疑似体験演習	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。
5	高齢者疑似体験演習	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。
6	高齢者の生活機能から捉えた看護 (2: 活動と休息①)	【講義】 高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
7	高齢者の生活機能から捉えた看護 (3: 活動と休息②)	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	前回の講義資料を復習して授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
8	高齢者の生活機能から捉えた看護 (4: 食事)	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
9	高齢者の生活機能から捉えた看護 (5: 清潔/身じたく)	【講義】 高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/身じたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
10	高齢者の生活機能から捉えた看護 (6: 排泄)	【講義】 高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
11	高齢者の生活支援演習	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法をグループで検討し実施します。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、発表をしてもらいます。
12	高齢者の生活支援演習	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、発表をもらいます。

			法をグループで検討し実施します。	
	13	高齢者を尊重した生活支援の実際	【講義】 ゲストスピーカーを招き、高齢者の生活支援の実際について学びます。	講義後、レポート課題を出します。
	14	高齢者の時代背景を踏まえた余暇支援	【演習】 高齢者の生きてきた背景を踏まえた余暇支援を個別的に行うための演習を行います。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について発表をしてもらいます。
	15	高齢者の時代背景を踏まえた余暇支援	【演習】 高齢者の生きてきた背景を踏まえた余暇支援を個別的に行うための演習を行います。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について発表をしてもらいます。
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、看護基礎技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院
	2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 40%			
学生への メッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階			
備考				

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	<p>加齢に伴う身体的変化や心理的变化についての知識をもとに、高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護と終末期を支える看護について学習します。</p> <p>高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・内分泌・筋骨格系等の疾患をもつ方への援助方法を学習したうえで、健康上の課題を解決するための看護過程が展開できる能力を養います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(小川宣子/7回) 看護過程の展開(考え方・アセスメント)、健康段階に応じた高齢者の看護、疾患を持つ高齢者の看護(運動器系)、退院支援の看護、看護過程の展開(看護の方向性)、機能回復を促す看護、高齢者のエンドオブライフケア</p> <p>(吉井輝子/1回) 疾患を持つ高齢者の看護(脳・神経系)</p> <p>(田中真佐恵/1回) 疾患を持つ高齢者の看護(呼吸器・循環器・内分泌系)</p> <p>(小川宣子、田中真佐恵/2回) 看護過程の展開(アセスメント①・計画立案②)</p> <p>(小川宣子、吉井輝子/2回) 看護過程の展開(アセスメント②・計画立案①)</p> <p>(小川宣子、吉井輝子、田中真佐恵/2回) 看護過程の展開(計画立案発表)</p>
到達目標	<p>1) 疾患を持つ高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。</p> <p>2) エンドオブライフケアが必要な高齢者と家族の看護について理解できる。</p> <p>3) 健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開ができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業はオムニバス形式で行います。基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。また、各講義や演習時に課題を課すレポートも評価の対象となるので、必ず提出するようにして下さい。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、課題を提出してください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>臨地実習での看護実践のために必要な基本的な知識を得ることができます。</p> <p>看護師国家試験にも必須の学習内容です。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 看護過程の展開 (1:考え方・立案の仕方)	【講義】 老年における看護過程の展開の考え方、ポイントについて学びます。	4～14回の講義・演習で1つの事例の看護展開を行います(随時、課題を課す)。看護過程の事例展開時に、講義内容を活かしてください。
2	看護過程の展開 (2:健康段階に応じた高齢者看護)	【講義】 老年看護では、急性期・慢性期・回復期・維持期等、様々な健康段階を対象とし、各々で看護の視点も異なります。段階の見極め方や、各段階でのアセスメントの視点や看護のあり方について学習します。	テキストの該当箇所を読んで、授業に臨んでください。(別途指示)
3	疾患をもつ高齢者の看護 (1:運動器疾患)	【講義】 骨粗鬆症や大腿骨頸部骨折、サルコペニア等、高齢者に多い筋骨格系の疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
4	疾患をもつ高齢者の看護 (2:脳神経系疾患)	【講義】 脳出血や脳梗塞等、パーキンソン病等、高齢者に多い脳・神経系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
5	疾患をもつ高齢者の看護 (3:呼吸器・循環器・内分泌疾患)	【講義】 COPD、虚血性心疾患、糖尿病等高齢者に多い呼吸器・循環器・内分泌系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
6	看護過程の展開 (3:退院支援)	【講義】 疾患や障害を抱えながら退院していく高齢者への退院支援におけるアセスメントや看護について学習します。	テキストの該当箇所を読んで、授業に臨んでください。(別途指示)
7	障害を持つ高齢者の回復を支える看護	【講義】 認定看護師をゲストスピーカーに招き、急性期病院での機能回復のための看護の実践を学びます。看護目標の視点やチーム連携についても考えます。	老年看護学援助論Ⅰで学習した認知症高齢者の看護について復習して臨んでください。講義後に学びをまとめるレポートがあります。
8	看護過程の展開 (4:病態のアセスメント)	【講義】 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。	講義開始前に、個別に病態をアセスメントする課題を課します。 講義後は、グループワークでの学びを活かしながら、個別に関連図をまとめる課題を課します。
9	看護過程の展開 (5:生活機能のアセスメント)	【講義】 看護過程の事例について、生活機能の側	講義開始前に、個別に生活機能をアセスメントする課題を課します。

	ト)	面からアセスメントの視点について解説します。	講義後は、グループワークでの学びを活かしながら、個別に関連図をまとめる課題を課します。																
10	看護過程の展開 (7:看護の方向性)	【講義】 看護過程の事例について、看護の必要性を総括し、優先度の高い看護の方針について検討します。	講義開始前に、個別に生活機能をアセスメントする課題を課します。 講義後は、グループワークでの学びを活かしながら、個別に関連図をまとめる課題を課します。																
11	看護過程の展開 (8:看護計画立案Ⅰ)	【演習】 グループ単位で、関連図から浮かび上がった課題についての看護計画を立案します。	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしてください。																
12	看護過程の展開 (9:看護計画立案Ⅱ)	【演習】 グループ単位で、関連図から浮かび上がった課題についての看護計画を立案します。	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしてください。																
13	看護過程の展開 (10:発表)	【演習】 グループ単位で、立案した看護計画を発表します。	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしてください。																
14	看護過程の展開 (11:発表)	【演習】 グループ単位で、立案した看護計画を発表します。	各グループの発表を通して、高齢者に生じやすい看護上の課題と、具体的な看護計画についての理解を深めましょう。自分のグループの発表のみではなく、他のグループの評価も行います。																
15	エンド・オブ・ライフケア	【講義】 高齢者のエンドオブライフケアに必要な看護の視点の理解と看取りをする家族への援助を学びます。	授業内で、課題を提示します。																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老年看護学</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図</td> <td>山田律子、井出訓</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	老年看護学	北川公子	医学書院	2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	老年看護学	北川公子	医学書院																
2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老年看護学 概論と看護の実践 第5版</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>老年看護技術 アセスメントとその根拠</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ																
2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ																
3																			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物・レポート(授業内で指示するもの) 40%																		
学生への メッセージ	疾患をもつ対象者の看護については既習のものが多くと思いますが、老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしてください。																		
担当者の 研究室等	7号館3階																		
備考	看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。授業中に案内します。																		

科目名	老年看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6◎, DP8△		

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための理論と看護の役割を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、加齢による身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護における倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じてプリントを配布しますが、プリントの内容も重要資料となります。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験の科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、まとめてください。
3	加齢現象の理解(1) 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
4	加齢現象の理解(2) 心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
5	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	家族に関して参考図書等を活用して、予習・復習してください。
6	高齢者を取り巻く関連法:医療制度・介護保険制度他	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
7	高齢者への看護活動:病院・高齢者施設・地域	高齢者看護を実践する場として、病院・高齢者施設・地域における高齢者看護の特徴について学びます。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
8	高齢者へのエンドオブライフ・ケア 老年看護における倫理的課題	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。また、高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、 看護関係法規
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座:老年看護学	北川公子	医学書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子	日本看護協会出版会
	3			

評価方法(基準)	定期試験(80%)、レポート(20%)で評価します。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、できるだけ高齢者と関わる機会を増やして、高齢者を理解してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	
----	--

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 介護保険サービスを利用しながら、地域で暮らすさまざまな健康レベルにある高齢者との関わりを通して、理解を深める。</p> <p>【目的】 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的特徴を理解できる。 2. 地域で暮らす高齢者の「思い」を理解できる。 3. 高齢者の地域での生活状況を理解できる。 4. 老年看護のあり方について自己の考えをまとめることができる。 5. 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1 週目)</p> <p>月曜日 学内・オリエンテーション・実習準備 火曜日 実習施設・実習 水曜日 実習施設・実習 木曜日 実習施設・実習 金曜日 学内：グループワーク・発表、 個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学概論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7 号館 3 階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、個性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療・福祉チームの中での連携および看護の役割について学ぶ。</p> <p>【目的】 施設で生活する高齢者・家族の身体的・心理的・社会的特徴および家族や社会資源についての理解を深め、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・心理的および社会的変化や生活背景・価値観を踏まえ、高齢者の生活状況を理解できる。 2. 高齢者の個性に応じた日常生活援助が実施できる。 3. 高齢者・家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について理解できる。 4. 介護保険施設における看護師の役割について理解できる。 5. 看護学生として、適切な態度で実習を行い、今後の自己の課題を明確にすることができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>月曜日 実習施設・実習 火曜日 実習施設・実習 水曜日 実習施設・実習 木曜日 実習施設・実習 金曜日 学内：グループワーク・発表、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅲ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 疾患や障がいを持ち、治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の課題に対して、身体的・心理的・社会的側面からのアセスメントを行い、し看護する方法を学ぶ。また、ケアにおいては老年看護に必要な基礎知識・技術を活用し、看護師として必要な倫理的態度を養う。</p> <p>【目的】 入院治療を必要とする高齢者を総合的に理解し、もてる力を発揮してその人らしく生活できるよう健康上の課題を解決する能力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化や、高齢者に生じやすい健康問題から高齢者を総合的に理解できる。 2. 疾病や障がいをもつ高齢者の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、健康上の課題を明確にできる。 3. 健康問題を持つ高齢者の特性・個別性を考慮した看護計画が立案できる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正することができる。 5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 6. 適切な態度で実習に臨むことができる。 7. 実習を通して、高齢者観や看護の役割について、自分の考えを深めることができる。 																
授業方法と留意点	<p>実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。</p> <p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目) 月曜日 実習施設・実習 火曜日 実習施設・実習 水曜日 実習施設・実習 木曜日 学内：個人面談 金曜日 実習施設・実習</p> <p>(2週目) 月曜日 実習施設・実習 火曜日 実習施設・実習 水曜日 実習施設・実習 木曜日 学内：実習のまとめ 金曜日 学内：個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

基礎科目

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		

授業概要・目的	政治、経済、文化等、国家や地域を超えてグローバル化した現代社会において、健康への影響も国境を越えて広がっており、看護職の役割も今後ますます拡大していく。このような現状を踏まえ、個人の健康問題を取り巻くグローバルな視点を養い、国際的に活動するための知識とコミュニケーション力を培う。
到達目標	The aim of this course is to develop the vocabulary, language, and skills that students will need when working in a medical environment. These include talking about the body, describing signs of illness, and conveying instructions to patients and colleagues.
授業方法と留意点	The emphasis will be on pair and group work activities, enabling students plenty of opportunities to speak in class. Lessons will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	In and around the hospital.	Directions, the porter's office, on the ward.	Preview next week's lesson.
3	Hospital admissions.	A patient record, bad handwriting, admitting a patient.	Preview next week's lesson.
4	Accidents and emergencies.	Shock, instructions, emergency helpline.	Preview next week's lesson.
5	Pain.	Areas of referred pain, questions to assess pain, pain chart, pain relief.	Preview next week's lesson.
6	Symptoms.	Night coughing, researching symptoms, a helpline call, mystery syndromes.	Preview next week's lesson.
7	Caring for the elderly.	The effects of ageing, a care home, assessing a patient.	Preview next week's lesson.
8	Nutrition and obesity.	Nutrition, vitamins and minerals, food intake, eating disorders.	Preview next week's lesson.
9	Blood.	The heart, forensic analysis, blood types, blood tests, blood pattern analysis.	Preview next week's lesson.
10	Death and dying.	The body after death, breaking bad news, report of a death.	Preview next week's lesson.
11	Hygiene.	MRSA, a hygiene report, test results, a hygiene inspection.	Preview next week's lesson.
12	Mental health nursing.	Tourette syndrome, famous people suffering from mental illness, a case conference, schizophrenia	Preview next week's lesson.
13	Monitoring the patient.	Taking readings, hypothermia, a coma patient, a scan.	Preview next week's lesson.
14	Medication.	Dosages, drugs which have changed history, patient medication.	Preview next week's lesson.
15	Alternative treatments.	Medicinal plants, wild treatments, healers	End of course.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Oxford English for Careers: Nursing 1 Student's Book	Tony Grice	OUP
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes (50%), homework assignments (50%).
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	患者と挨拶を交わす 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
	2	患者と挨拶を交わす 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	3	入院患者への説明 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
	4	入院患者への説明 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	5	エックス線検査 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
	6	エックス線検査 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	7	患者の話を聞く 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
	8	患者の話を聞く 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	9	患者から許可を得る 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
	10	患者から許可を得る 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	11	注射 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
	12	注射 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	13	バイタルサイン 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
	14	バイタルサイン 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	15	ダイアログ発表	テキスト中の任意のダイアログをペアで演じる	テキスト中の任意のダイアログを暗記し、発表する練習を行う

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Everyday English for Nursing on DVD	Yasuko Onjoji	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 50% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習には、映画や音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。
-----------	--

担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	医療品の収納場所	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	
2	Hospital Departments	未来をあらわす進行形、将来の自分を想像し、説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
3	Application Forms	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
4	Parts of the Body	命令形、学校内にある特定の場所への行き方を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
5	Illnesses	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
6	Review 1-4	能動態と受動態、学校の近くにある自分のお気に入りの場所への道順を教える、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
7	Daily Routine	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
8	Hospital Objects	完了形、頻度を表す単語、趣味について質問する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
9	Locations of Hospital Objects	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
10	Hospital Directions and Instructions	過去形と現在完了形の違い、自分の既往歴を書き表す、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
11	Review 5-8	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
12	Directions (Outside the Hospital)	付加疑問文、付加疑問形を使って質問応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
13	Chatting with a Patient	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
14	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
15	Hospital Procedures	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ホスピタルイングリッシュ<k改訂版> Vital Signs Essential English for Healthcare Professionals	Vivian Morooka, Terri Sugiura	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ
This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.

担当者の研究室等
1 号館 2 階非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	多田 さおり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	自己紹介	
	2	Pre-Unit	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	3	Unit 1: Hospital Departments	冠詞の使い方、位置の説明、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	4	Unit 2: Application Forms	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	5	Unit 3: Parts of the Body	疑問詞、疑問文の作り方、用紙に記入する方法、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	6	Unit 4: Illnesses	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	7	Review: Units 1-4	時制 (現在進行形、現在形)、健康上の問題について説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	8	Unit 5: Daily Routine	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	9	Unit 6: Hospital Objects	過去時制、病気と症状を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	10	Unit 7: Locations of Hospital Objects	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	11	Unit 8: Hospital Directions and Instructions	前置詞、休暇中にしたことを説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	12	Review: Unites 5-8	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	13	Unit 9: Directions	未来形、夏休みの予定を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	14	Unit 10: Chatting with a Patient	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	15	Unit 11: Taking a Medical History	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ホスピタルイングリッシュ<改訂版> Vital Signs [Revised Edition]</td> <td>Vivian Morooka</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ホスピタルイングリッシュ<改訂版> Vital Signs [Revised Edition]	Vivian Morooka	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	ホスピタルイングリッシュ<改訂版> Vital Signs [Revised Edition]	Vivian Morooka	南雲堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。 This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DPI①, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	リハビリテーション 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
	2	リハビリテーション 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	3	手術 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
	4	手術 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	5	体位変換 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
	6	体位変換 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	7	医薬品 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
	8	医薬品 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	9	退院 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
	10	退院 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	11	事務管理 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
	12	事務管理 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	13	患者にアドバイスする 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
	14	患者にアドバイスする 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
	15	ダイアログ発表	テキスト中の任意のダイアログをペアで演じる	テキスト中の任意のダイアログを暗記し、発表する準備をする

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Everyday English for Nursing on DVD</td> <td>Yasuko Onjoji</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Your Amazing Body</td> <td></td> <td>オックスフォード出版社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Everyday English for Nursing on DVD	Yasuko Onjoji	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3	Your Amazing Body		オックスフォード出版社
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Everyday English for Nursing on DVD	Yasuko Onjoji	SEIBIDO													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂													
3	Your Amazing Body		オックスフォード出版社														

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%	
	全学共通英語課題 B	10%	
	定期試験		50%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	20%	

学生へのメッセージ	語学学習には、映画、音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	自己紹介	
2	病院内の様々な診療科	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
3	病院内の様々な診療科	冠詞の使い方、位置の説明、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
4	問診票の記入	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
5	問診票の記入	疑問詞、疑問文の作り方、用紙に記入する方法、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
6	身体パーツ	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
7	身体パーツ	時制(現在進行形、現在形)、健康上の問題について説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
8	病気の種類	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
9	病気の種類	過去時制、病気と症状を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
10	病院の日課	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
11	病院の日課	前置詞、休暇中にしたことを説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
12	医療用品	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
13	医療用品	未来形、夏休みの予定を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
14	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
15	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ホスピタルイングリッシュ 2 Vital Signs 2 Reading and Writing	Vivian Morooka	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 II	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	多田 さおり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	unit 9	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	2	unit 9	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	3	unit 10	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	4	unit 10	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	5	unit 11	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	6	unit 11	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	7	unit 12	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	8	unit 12	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	9	unit 13	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	10	unit 13	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	11	unit 14	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	12	unit 14	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	13	unit 15	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	14	unit 15	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備
	15	まとめと復習	単語小テスト フレーズ練習 ダイアログロールプレイ 読解と内容理解	各小テストの準備

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Aid!	Akihiko Higuchi/Jhon Tremarco	Kinseido
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、定期テスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 定期テストはテスト期間中に行う。			

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	本授業は、「英語 II」での学習をもとに、より高度なリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を習得し、看護という場にも応用できるように計画されています。授業を通して、さまざまな英語に触れ、かつコミュニケーションを試みる態度を養っていただきます。
到達目標	TOEICで取り上げられるような日常の場面をはじめとして、病院での患者さんとの英語での会話のある程度可能にすることが求められます。
授業方法と留意点	多くリスニング・スピーキング・そして医療関係のリーディングを利用します。 予習・復習を中心にリスニングと、それに答えるためのスピーキング練習を普段から練習していただきたいと思えます。
科目学習の効果(資格)	TOEIC等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの使用方法的説明。 リスニングとスピーキングの活動方法的説明。	事前：なし 事後：PCの使用方法的確認し、実際にリスニングを行うこと。
2	症状の表現 (テキスト Unit 1)	テキストからのリスニング 症状を聞き、理解する。	事前：Unit 1のリスニング予習 事後：症状の英語を復習
3	症状の表現 (テキスト Unit 2)	テキストからのリスニング 症状を聞き、必要な応答ができるようにする。	事前：Unit 2のリスニング予習 事後：どのような対応があるのかを復習
4	検査の表現 (テキスト Unit 3)	テキストからのリスニング どのような検査があり、どのような英語の表現になるのかを知る。	事前：Unit 3のリスニング予習 事後：検査について理解を深めておく。
5	検査の表現 (テキスト Unit 4)	テキストからのリスニング 検査について、必要な事柄を英語で表現する。	事前：Unit 4のリスニング予習 事後：
6	入院についての表現 (テキスト Unit 5)	テキストからのリスニング 日本の病院での入院手続きを知り、英語で表現する。	事前：Unit 5のリスニング予習 事後：入院についての知識を深める。
7	TOEIC 集中練習	TOEIC 準備のためのリスニング・リーディング	事前：TOEIC 内容の確認 事後：まちがった部分の復習
8	入院手術についての表現 (テキスト Unit 6)	テキストからのリスニング 手術の際に必要なことになる手続きについて知る。さらにそれを英語で理解する。	事前：Unit 6のリスニング予習 事後：手術についての一般的な事柄を知る。
9	日常の看護についての表現 (テキスト Unit 7)	テキストからのリスニング 日常の看護内容について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 7のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるようにする。
10	日常の看護についての表現 (テキスト Unit 8)	テキストからのリスニング 前回到続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 8のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるようにする。
11	海外の看護師の様子を知る (テキスト Unit 9)	テキストからのリスニング 海外の nurse の仕事を見ながら、看護についての感覚を知る。	事前：Unit 9のリスニング予習 事後：看護についての理解を深める。
12	海外の看護師の様子を知る (テキスト Unit 10)	テキストからのリスニング 前回到続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 10のリスニング予習 事後：看護についての理解を深める
13	薬について知る (テキスト Unit 11)	テキストからのリスニング 日常よく使われる薬の名称を知る。	事前：Unit 11のリスニング予習 事後：薬についての理解を深める。
14	薬について知る	テキストからのリスニング 前回到続いて薬の服用の際の表現を知る。	事前：Unit 12のリスニング予習 事後：薬の利用についての理解を深める。
15	授業内容から医療関係 Reading のまとめ	ポイントを押さえながら、理解していることの確認	事前：授業で取り上げられた医療内容の復習 事後：期末テストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	5分間 新TOEICテスト・リスニング650	Thian Wong 他著	南雲堂
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法(基準)	期末テスト(50%) レポートを含む提出物(30%) TOEIC(20%)
----------	---

学生へのメッセージ	医療にさらに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢をいつも養ってください。 さらに、英語でのコミュニケーションについては看護師として必要な事柄を学ぶという姿勢をいつも持ってってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	英語Ⅰ,Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。さらに看護職に必要とされる英語力の基礎を身につける。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また、英語の医療・看護の専門用語を理解した上で、英文内容を説明できる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。また、医療・看護に用いられる基本的な単語・表現について理解できる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。また、医療・看護に用いられる基本的な単語・表現を用いて日常会話ができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>テキストの使用方法的説明。</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>2</td><td>Lesson 1: Death</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>3</td><td>Lesson 2: Designer babies</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>4</td><td>Lesson 3: Animal rights</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>5</td><td>Lesson 4: AIDS</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>6</td><td>Lesson 5: Abortion</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>7</td><td>Lesson 6: Changing sex</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>8</td><td>Lesson 7: The right to die</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>9</td><td>Lesson 8: Anxiety and depression</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>10</td><td>Lesson 9: Sport and money</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>11</td><td>Lesson 10: legalising drugs</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>12</td><td>Lesson 11: Addictions</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>13</td><td>Lesson 12: Vanity</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>次回のテキストの予習</td></tr> <tr><td>14</td><td>全体の振り返り(1)</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>これまでの振り返り</td></tr> <tr><td>15</td><td>全体の振り返り(2)</td><td>単語テスト・グループワーク</td><td>これまでの振り返り</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	テキストの使用方法的説明。	次回のテキストの予習	2	Lesson 1: Death	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	3	Lesson 2: Designer babies	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	4	Lesson 3: Animal rights	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	5	Lesson 4: AIDS	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	6	Lesson 5: Abortion	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	7	Lesson 6: Changing sex	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	8	Lesson 7: The right to die	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	9	Lesson 8: Anxiety and depression	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	10	Lesson 9: Sport and money	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	11	Lesson 10: legalising drugs	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	12	Lesson 11: Addictions	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	13	Lesson 12: Vanity	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習	14	全体の振り返り(1)	単語テスト・グループワーク	これまでの振り返り	15	全体の振り返り(2)	単語テスト・グループワーク	これまでの振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	テキストの使用方法的説明。	次回のテキストの予習																																																																
2	Lesson 1: Death	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
3	Lesson 2: Designer babies	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
4	Lesson 3: Animal rights	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
5	Lesson 4: AIDS	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
6	Lesson 5: Abortion	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
7	Lesson 6: Changing sex	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
8	Lesson 7: The right to die	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
9	Lesson 8: Anxiety and depression	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
10	Lesson 9: Sport and money	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
11	Lesson 10: legalising drugs	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
12	Lesson 11: Addictions	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
13	Lesson 12: Vanity	単語テスト・グループワーク	次回のテキストの予習																																																																
14	全体の振り返り(1)	単語テスト・グループワーク	これまでの振り返り																																																																
15	全体の振り返り(2)	単語テスト・グループワーク	これまでの振り返り																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末テスト(50%) レポートを含む提出物(30%) TOEICスコア(20%)																																																																		
学生へのメッセージ	医療にさらに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢をいつも養ってください。 さらに、英語でのコミュニケーションについては看護士として必要な事柄を学ぶという姿勢をいつも持ってってください。 教材はプリント配布。																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	英語Ⅰ,Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。さらに看護職に必要とされる英語力の基礎を身につける。
到達目標	<p>(「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また、英語の医療・看護の専門用語を理解した上で、英文内容を説明できる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。また、医療・看護に用いられる基本的な単語・表現について理解できる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。また、医療・看護に用いられる基本的な単語・表現を用いて日常会話ができる。</p>
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Syllabus Introduction	講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	2	Airport	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	3	Train Station	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	4	Department Store	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	5	Restaurant	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	6	Hotel	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	7	Hospital	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	8	Bank	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	9	Workplace	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	10	Fitness Club	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	11	Sightseeing	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	12	International Conference	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	13	Computer Society	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	14	Employment	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	15	Job Training	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度

関連科目	TOEIC スコア 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	Takayuki Ishii, Masahiko Iwata, Osamu Yamaguchi, Yuko Matsumura, Joe Ciunci	成美堂
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	TOEIC スコア 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。

This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.

担当者の研究室等 1号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的
本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標
まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

授業方法と留意点
教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。

科目学習の効果 (資格)
韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎 1 課
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書	基礎 1 課
2	母音 1	基本母音	教科書	基礎 2 課
3	子音 1	基本子音	教科書	基礎 3 課
4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書	基礎 3 課
5	母音 2	複合母音	教科書	基礎 4 課
6	文字の確認	文字の確認		
7	パッチム	終声について	教科書	基礎 5 課
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 0 - 3 1
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 2 - 3 4
10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書	1 課
11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書	2 課
12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書	3 課
13	復習	復習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る		

関連科目
韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
1 号館 2 階 非常勤講師室

備考
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的 本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標 まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

授業方法と留意点 教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。

科目学習の効果 (資格) 韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎 課題
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書	基礎 1 課
2	母音 1	基本母音	教科書	基礎 2 課
3	子音 1	基本子音	教科書	基礎 3 課
4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書	基礎 3 課
5	母音 2	複合母音	教科書	基礎 4 課
6	文字の確認	文字の確認		
7	パッチム	終声について	教科書	基礎 5 課
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 0 - 3 1
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 2 - 3 4
10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書	1 課
11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書	2 課
12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書	3 課
13	復習	復習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る		

関連科目 韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 1 号館 2 階 非常勤講師室

備考 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用(特に読む、書く)能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎
1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書	基礎 2課-4課
2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書	基礎 5課
3	発音の復習	発音の復習	教科書	基礎 6課
4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書	9課・10課
5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書	4課
6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書	5課
7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書	7課
8	文法事項の確認	文法事項の確認		
9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書	6課
10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書	8課 p 82-86
11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書	8課 p 87
12	助詞	助詞	教科書	172・173
13	文の作成練習	文の作成練習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用(特に読む、書く)能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎
1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書	基礎 2課-4課
2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書	基礎 5課
3	発音の復習	発音の復習	教科書	基礎 6課
4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書	9課・10課
5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書	4課
6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書	5課
7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書	7課
8	文法事項の確認	文法事項の確認		
9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書	6課
10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書	8課 p 82-86
11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書	8課 p 87
12	助詞	助詞	教科書	172・173
13	文の作成練習	文の作成練習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	情報リテラシー	科目名(英文)	Information Literacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	近年、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に演習を進める。さらに情報セキュリティやモラルについても事例を通して学ぶ。																																																																		
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>PC、インターネットの基礎(1)</td> <td>しくみ、機能、著作権、基本操作(1) 情報のセキュリティとモラル(1)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>PC、インターネットの基礎(2)</td> <td>インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ワードの使い方(1)</td> <td>Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ワードの使い方(2)</td> <td>文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ワードの使い方(3)</td> <td>図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>パワーポイントの使い方(1)</td> <td>プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>パワーポイントの使い方(2)</td> <td>プレゼンテーションの構成と方法(1) 情報のセキュリティとモラル(7)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>パワーポイントの使い方(3)</td> <td>プレゼンテーションの構成と方法(2) 情報のセキュリティとモラル(8)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>エクセルの使い方(1)</td> <td>データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>エクセルの使い方(2)</td> <td>表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>エクセルの使い方(3)</td> <td>図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>エクセルの使い方(4)</td> <td>グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>エクセルの使い方(5)</td> <td>エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エクセルの使い方(6)</td> <td>データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>応用課題</td> <td>応用課題の演習</td> <td>PCを使い慣れること・課題提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	PC、インターネットの基礎(1)	しくみ、機能、著作権、基本操作(1) 情報のセキュリティとモラル(1)	PCを使い慣れること・課題提出	2	PC、インターネットの基礎(2)	インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)	PCを使い慣れること・課題提出	3	ワードの使い方(1)	Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)	PCを使い慣れること・課題提出	4	ワードの使い方(2)	文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)	PCを使い慣れること・課題提出	5	ワードの使い方(3)	図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)	PCを使い慣れること・課題提出	6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)	PCを使い慣れること・課題提出	7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーションの構成と方法(1) 情報のセキュリティとモラル(7)	PCを使い慣れること・課題提出	8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法(2) 情報のセキュリティとモラル(8)	PCを使い慣れること・課題提出	9	エクセルの使い方(1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	PCを使い慣れること・課題提出	10	エクセルの使い方(2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	PCを使い慣れること・課題提出	11	エクセルの使い方(3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	PCを使い慣れること・課題提出	12	エクセルの使い方(4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	PCを使い慣れること・課題提出	13	エクセルの使い方(5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	PCを使い慣れること・課題提出	14	エクセルの使い方(6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト	PCを使い慣れること・課題提出	15	応用課題	応用課題の演習	PCを使い慣れること・課題提出
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	PC、インターネットの基礎(1)	しくみ、機能、著作権、基本操作(1) 情報のセキュリティとモラル(1)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
2	PC、インターネットの基礎(2)	インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
3	ワードの使い方(1)	Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
4	ワードの使い方(2)	文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
5	ワードの使い方(3)	図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーションの構成と方法(1) 情報のセキュリティとモラル(7)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法(2) 情報のセキュリティとモラル(8)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
9	エクセルの使い方(1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
10	エクセルの使い方(2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
11	エクセルの使い方(3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
12	エクセルの使い方(4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
13	エクセルの使い方(5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
14	エクセルの使い方(6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
15	応用課題	応用課題の演習	PCを使い慣れること・課題提出																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013</td> <td>杉本くみ子、大澤栄子</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報モラル&情報セキュリティ</td> <td></td> <td>FOM出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版																																																																
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業全15回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。まずはブラインドタッチを目指そう。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、クラスメンバー間でサポートし、クラスの多くで知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館3階24																																																																		

科目名	情報リテラシー	科目名(英文)	Information Literacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	近年、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者进行想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に演習を進める。さらに情報セキュリティやモラルについても事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎(2)	インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)	PCを使い慣れること・課題提出
3	ワードの使い方(1)	Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)	PCを使い慣れること・課題提出
4	ワードの使い方(2)	文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)	PCを使い慣れること・課題提出
5	ワードの使い方(3)	図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)	PCを使い慣れること・課題提出
6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)	PCを使い慣れること・課題提出
7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーションの構成と方法(1) 情報のセキュリティとモラル(7)	PCを使い慣れること・課題提出
8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法(2) 情報のセキュリティとモラル(8)	PCを使い慣れること・課題提出
9	エクセルの使い方(1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	PCを使い慣れること・課題提出
10	エクセルの使い方(2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	PCを使い慣れること・課題提出
11	エクセルの使い方(3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	PCを使い慣れること・課題提出
12	エクセルの使い方(4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	PCを使い慣れること・課題提出
13	エクセルの使い方(5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	PCを使い慣れること・課題提出
14	エクセルの使い方(6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト	PCを使い慣れること・課題提出
15	応用課題	応用課題の演習	PCを使い慣れること・課題提出

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業全15回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。
----------	---

学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。まずはブラインドタッチを目指そう。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、クラスメンバー間でサポートし、クラスの多くで知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階24
------------	---------

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	近年、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に演習を進める。さらに情報セキュリティやモラルについても事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎 (2)	インターネット、電子メール、基本操作 (2) 情報のセキュリティとモラル (2)	PC を使い慣れること・課題提出
3	ワードの使い方 (1)	Windows の基礎、文書の作成 (1) 情報のセキュリティとモラル (3)	PC を使い慣れること・課題提出
4	ワードの使い方 (2)	文書の作成 (2) 情報のセキュリティとモラル (4)	PC を使い慣れること・課題提出
5	ワードの使い方 (3)	図表・グラフの作成、文書の作成 (3) 情報のセキュリティとモラル (5)	PC を使い慣れること・課題提出
6	パワーポイントの使い方 (1)	プレゼンテーション資料の作成 (文章) 情報のセキュリティとモラル (6)	PC を使い慣れること・課題提出
7	パワーポイントの使い方 (2)	プレゼンテーションの構成と方法 (1) 情報のセキュリティとモラル (7)	PC を使い慣れること・課題提出
8	パワーポイントの使い方 (3)	プレゼンテーションの構成と方法 (2) 情報のセキュリティとモラル (8)	PC を使い慣れること・課題提出
9	エクセルの使い方 (1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル (9)	PC を使い慣れること・課題提出
10	エクセルの使い方 (2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル (10)	PC を使い慣れること・課題提出
11	エクセルの使い方 (3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル (11)	PC を使い慣れること・課題提出
12	エクセルの使い方 (4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル (12)	PC を使い慣れること・課題提出
13	エクセルの使い方 (5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル (13)	PC を使い慣れること・課題提出
14	エクセルの使い方 (6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト	PC を使い慣れること・課題提出
15	応用課題	応用課題の演習	PC を使い慣れること・課題提出

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	授業全 15 回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。まずはブラインドタッチを目指そう。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、クラスメンバー間でサポートし、クラスの多くで知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7 号館 3 階 24
------------	-------------

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	近年、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを操るスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に演習を進める。さらに情報セキュリティやモラルについても事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎 (2)	インターネット、電子メール、基本操作 (2) 情報のセキュリティとモラル (2)	PC を使い慣れること・課題提出
3	ワードの使い方 (1)	Windows の基礎、文書の作成 (1) 情報のセキュリティとモラル (3)	PC を使い慣れること・課題提出
4	ワードの使い方 (2)	文書の作成 (2) 情報のセキュリティとモラル (4)	PC を使い慣れること・課題提出
5	ワードの使い方 (3)	図表・グラフの作成、文書の作成 (3) 情報のセキュリティとモラル (5)	PC を使い慣れること・課題提出
6	パワーポイントの使い方 (1)	プレゼンテーション資料の作成 (文章) 情報のセキュリティとモラル (6)	PC を使い慣れること・課題提出
7	パワーポイントの使い方 (2)	プレゼンテーションの構成と方法 (1) 情報のセキュリティとモラル (7)	PC を使い慣れること・課題提出
8	パワーポイントの使い方 (3)	プレゼンテーションの構成と方法 (2) 情報のセキュリティとモラル (8)	PC を使い慣れること・課題提出
9	エクセルの使い方 (1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル (9)	PC を使い慣れること・課題提出
10	エクセルの使い方 (2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル (10)	PC を使い慣れること・課題提出
11	エクセルの使い方 (3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル (11)	PC を使い慣れること・課題提出
12	エクセルの使い方 (4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル (12)	PC を使い慣れること・課題提出
13	エクセルの使い方 (5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル (13)	PC を使い慣れること・課題提出
14	エクセルの使い方 (6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル確認テスト	PC を使い慣れること・課題提出
15	応用課題	応用課題の演習	PC を使い慣れること・課題提出

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM 出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業全 15 回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。まずはブラインドタッチを目指そう。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、クラスメンバー間でサポートし、クラスの多くで知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7 号館 3 階 24
------------	-------------

科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、講義形式で行う場合がある)。 授業での開講種目は、以下のとおり。 アルティメット・バスケットボールなど。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など(講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	体力測定①	体力測定 屋外種目(グラウンド)	測定記録評価
3	体力測定②	体力測定 体育館種目(大阪工業大情報科学部 体育館)	測定記録評価
4	体力測定③ 体力測定集計・評価	体力測定 屋外種目(グラウンド) 体力測定の集計・評価(講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
5	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	ルールの説明、基礎技術練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
6	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	基礎技術練習、攻防練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
7	運動・スポーツが心身に与える影響とそのメカニズム	講義(講義室)	運動・スポーツによる心身の変化について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。
8	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
9	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
10	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
11	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	ルールの説明、基礎技術練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
12	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	基礎技術練習、攻防練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
13	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
14	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
15	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。
-----------	--

担当者の研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
----------	-----------------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用すること
----	---------------------------

科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、講義形式で行う場合がある)。 授業での開講種目は、以下のとおり。 アルティメット・バスケットボールなど。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など(講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	体力測定①	体力測定 屋外種目(グラウンド)	測定記録評価
3	体力測定②	体力測定 体育館種目(大阪工業大情報科学部 体育館)	測定記録評価
4	体力測定③ 体力測定集計・評価	体力測定 屋外種目(グラウンド) 体力測定の集計・評価(講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
5	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	ルールの説明、基礎技術練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
6	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	基礎技術練習、攻防練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
7	運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義(講義室)	運動・スポーツによる心身の変化について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。
8	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
9	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
10	各コース別実技 Aコース: アルティメット Bコース: バスケットボール	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
11	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	ルールの説明、基礎技術練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
12	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	基礎技術練習、攻防練習(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
13	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
14	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
15	各コース別実技 Aコース: バスケットボール Bコース: アルティメット	技術練習とゲーム(大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。			
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 授業での開講種目は、以下のとおり。 アルティメット・バスケットボールなど。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	体力測定①	体力測定 屋外種目 (グラウンド)	測定記録評価
3	体力測定②	体力測定 体育館種目 (大阪工業大情報科学部 体育館)	測定記録評価
4	体力測定③ 体力測定集計・評価	体力測定 屋外種目 (グラウンド) 体力測定の集計・評価 (講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	ルールの説明、基礎技術練習 (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	基礎技術練習、攻防練習 (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
7	運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義 (講義室)	運動・スポーツによる心身の変化について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。
8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	技術練習とゲーム (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	技術練習とゲーム (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
10	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	技術練習とゲーム (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
11	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	ルールの説明、基礎技術練習 (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
12	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習、攻防練習 (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
13	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	技術練習とゲーム (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
14	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	技術練習とゲーム (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ
15	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	技術練習とゲーム (大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館)	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室 (072-839-9187) へ問い合わせてください。
-----------	--

担当者の研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
----------	-----------------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと
----	--------------------------

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 授業での開講種目は、以下のとおり。 アルティメット・バスケットボールなど。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など（講義室）	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	体力測定①	体力測定 屋外種目（グラウンド）	測定記録評価
3	体力測定②	体力測定 体育館種目（大阪工業大情報科学部 体育館）	測定記録評価
4	体力測定③ 体力測定集計・評価	体力測定 屋外種目（グラウンド） 体力測定の集計・評価（講義室）	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	ルールの説明、基礎技術練習（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	基礎技術練習、攻防練習（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
7	運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義（講義室）	運動・スポーツによる心身の変化について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。
8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：バスケットボール	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	ルールの説明、基礎技術練習（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	基礎技術練習、攻防練習（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技 Aコース：バスケットボール Bコース：アルティメット	技術練習とゲーム（大阪工業大情報科学部 グラウンドおよび体育館）	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法（基準）	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する可能性がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	復習・課題
	2	ビジネス日本語1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
	3	ビジネス日本語2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
	4	ビジネス日本語3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
	5	ビジネス日本語4 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
	6	ビジネス日本語5 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
	7	ビジネス日本語6 書く	ビジネス文書の書き方	復習・課題
	8	ビジネス日本語7 書く	Eメールの書き方	復習・課題
	9	ビジネス日本語8	履歴書の書き方	復習・課題
	10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	復習・課題
	11	日本の会社1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
	12	日本の会社2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
	13	日本の会社3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
	14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。(事前・事後学習 1時間)
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 (門脇研究室)
----------	---------------

備考	授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがあります。
----	---------------------------------------

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果 (資格)	1 年終了時には中国語検定試験準 4 級の受験が可能。2 年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、中国語という言葉について	教科書の内容に目を通し、今後の学習内容を把握すること
	2	?音 声調 (四声) 軽声/母音 (単母音)	第 1 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	子音 無気音と有気音 そり舌音	第 2 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	母音 (複合母音) 母音 (鼻母音)	第 3 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	声調記号の付け方 声調の変化 隔音記号 r 化音	第 4 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	動詞構文の基本語順 是 (?は?だ) ?? (?か) 形容詞構文の基本語順 的 (の)	第 5 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	練習	第 5 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	お金の言い方 動作と数量・時間 有 (存在・所有) 疑問詞を使う疑問文 物の教え方	第 6 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	練習	第 6 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	正反疑問文 了 (実現・完了) ?? (?は?) 連動文 ? (推測・勧誘・命令) 在 (所在)	第 7 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	練習	第 7 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	年齢の尋ね方 了 (変化・新状況) 想 (?したい) 選択疑問文 名詞構文の基本語順 比較表現	第 8 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	練習	第 8 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	復習	復習	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	中国の社会と文化	中国映画を見る	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これでパーフェクト! 新・中国語の旅	張勤	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業時に行われる複数のテストや授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する
----	----------------------

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果 (資格)	1 年終了時には中国語検定試験準 4 級の受験が可能。2 年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、中国語という言葉について	教科書の内容に目を通し、今後の学習内容を把握すること
	2	?音 声調 (四声) 軽声/母音 (単母音)	第 1 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	子音 無気音と有気音 そり舌音	第 2 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	母音 (複合母音) 母音 (鼻母音)	第 3 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	声調記号の付け方 声調の変化 隔音記号 r 化音	第 4 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	動詞構文の基本語順 是 (?は?だ) ?? ? (?か) 形容詞構文の基本語順 的 (の)	第 5 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	練習	第 5 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	お金の言い方 動作と数量・時間 有 (存在・所有) 疑問詞を使う疑問文 物の教え方	第 6 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	練習	第 6 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	正反疑問文 了 (実現・完了) ?? (?は?) 連動文 ? (推測・勧誘・命令) 在 (所在)	第 7 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	練習	第 7 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	年齢の尋ね方 了 (変化・新状況) 想 (?したい) 選択疑問文 名詞構文の基本語順 比較表現	第 8 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	練習	第 8 課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	復習	復習	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	中国の社会と文化	中国映画を見る	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これでパーフェクト! 新・中国語の旅	張勤	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業時に行われる複数のテストや授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する
----	----------------------

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	在・和・?(前置詞) 里・上(場所を示す) 離合詞 二重目的語 “把”構文 軽い動作の表現	第9課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	2	練習	第9課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	様態補語 会(できる) 可以(できる・してよい)能 (?することができる) 長さの時間の言い方 時間表現の語順	第10課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	練習	第10課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	結果補語 動詞・形容詞が名詞を修飾する 快要/要/要～了(もう少しで?) 一?～一?～(?しながら?する) 動作進行中の表現 会(?するだろう)	第11課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	練習	第11課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	要(予定・意思) ?(?から/?より) 打算(?するつもりだ) 从(?から/?より) 場所へ(行く/来る) 着(動作の状態・手段・方式)	第12課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	練習	第12課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	主述述語構文 有点儿(ちょっと?) (是)?的(強調表現) 存在現象文 受動構文 要・必須(必要・必須)	第13課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	練習	第13課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	方向補語 一～就～(?すると、?) ?(?したことがある) 可能補語 ?(?でさえも) 向(?に向かって、へ)	第14課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	練習	第14課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	不但～、而且～(?だけでなく、?も?) 使役構文(兼語式構文) 動詞+了、～(?したら、?) ?(?のために) 跟(?と) 得(?しなければならない)	第15課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	練習	第15課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	復習	復習	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これでパーフェクト! 新・中国語の旅	張勤	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時に行われる複数のテストや授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。			
学生への メッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解し、一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	在・和・?(前置詞) 里・上(場所を示す) 離合詞 二重目的語 “把”構文 軽い動作の表現	第9課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	2	練習	第9課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	様態補語 会(できる) 可以(できる・してよい)能 (?することができる) 長さの時間の言い方 時間表現の語順	第10課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	練習	第10課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	結果補語 動詞・形容詞が名詞を修飾する 快要/要/要~了(もう少しで?) 一?~一?~(?しながら?する) 動作進行中の表現 会(?するだろう)	第11課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	練習	第11課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	要(予定・意思) ?(?から/?より) 打算(?するつもりだ) 从(?から/?より) 場所へ(行く/来る) 着(動作の状態・手段・方式)	第12課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	練習	第12課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	主述述語構文 有点儿(ちょっと?) (是)?的(強調表現) 存在現象文 受動構文 要・必須(必要・必須)	第13課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	練習	第13課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	方向補語 一~就~(?すると、?) ?(?したことがある) 可能補語 ?(?でさえも) 向(?に向かって、へ)	第14課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	練習	第14課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	不但~, 而且~(?だけでなく、?も?) 使役構文(兼語式構文) 動詞+了, ~(?したら、?) ?(?のために) 跟(?と) 得(?しなければならない)	第15課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	練習	第15課	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	復習	復習	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これでパーフェクト! 新・中国語の旅	張勤	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時に行われる複数のテストや授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。			
学生への メッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎		

授業概要・目的	看護の分野では、疾病とそのリスク要因の因果関係を明らかにするにあたり、統計学を用いる。授業では、統計の基本を理解し、基本的な統計解析を正しく行うことができるようにする。実際にエクセルや統計ソフトを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	統計の基本を理解し、統計ソフトを使って統計解析を正しく行えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>統計とは</td><td>統計の役割と種類、尺度</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>2</td><td>統計の基本 (1)</td><td>度数分布、ヒストグラム</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>3</td><td>統計の基本 (2)</td><td>代表値 (平均値、中央値、最頻値など)</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>4</td><td>統計の基本 (3)</td><td>代表値と散布度 (分散、標準偏差など)</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>5</td><td>相関と回帰</td><td>相関係数と回帰直線</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>6</td><td>確率分布 (1)</td><td>正規分布、標準正規分布、確率、累積確率</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>7</td><td>確率分布 (2)</td><td>二項分布、χ^2 乗分布</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>8</td><td>確率分布 (3)</td><td>F 分布、t 分布</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>9</td><td>母集団と標本 (1)</td><td>標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>10</td><td>母集団と標本 (2)</td><td>中心極限定理</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>11</td><td>母集団と標本 (3)</td><td>母分散と標本分散</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>12</td><td>推定 (1)</td><td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>13</td><td>推定 (2)</td><td>母集団の分散・比率の推定</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>14</td><td>検定 (1)</td><td>Z 検定、F 検定</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> <tr><td>15</td><td>検定 (2)</td><td>χ^2 乗検定、t 検定</td><td>授業の復習を徹底して行うこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	授業の復習を徹底して行うこと	2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	授業の復習を徹底して行うこと	3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	授業の復習を徹底して行うこと	4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	授業の復習を徹底して行うこと	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	授業の復習を徹底して行うこと	6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	授業の復習を徹底して行うこと	7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	授業の復習を徹底して行うこと	8	確率分布 (3)	F 分布、t 分布	授業の復習を徹底して行うこと	9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと	10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	授業の復習を徹底して行うこと	11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと	12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	授業の復習を徹底して行うこと	13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	授業の復習を徹底して行うこと	14	検定 (1)	Z 検定、F 検定	授業の復習を徹底して行うこと	15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t 検定	授業の復習を徹底して行うこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
8	確率分布 (3)	F 分布、t 分布	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
14	検定 (1)	Z 検定、F 検定	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t 検定	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>やさしい統計学</td><td>片平潤彦</td><td>桐書房</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	統計はその考え方とともに、データの扱い方も重要です。PC によるデータ処理に慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。授業時間以外にも積極的に PC を使うこと。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎		

授業概要・目的	看護の分野では、疾病とそのリスク要因の因果関係を明らかにするにあたり、統計学を用いる。授業では、統計の基本を理解し、基本的な統計解析を正しく行うことができるようにする。実際にエクセルや統計ソフトを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	統計の基本を理解し、統計ソフトを使って統計解析を正しく行えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>統計とは</td> <td>統計の役割と種類、尺度</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計の基本 (1)</td> <td>度数分布、ヒストグラム</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計の基本 (2)</td> <td>代表値 (平均値、中央値、最頻値など)</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>統計の基本 (3)</td> <td>代表値と散布度 (分散、標準偏差など)</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>相関と回帰</td> <td>相関係数と回帰直線</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>確率分布 (1)</td> <td>正規分布、標準正規分布、確率、累積確率</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>確率分布 (2)</td> <td>二項分布、χ^2 乗分布</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>確率分布 (3)</td> <td>F 分布、t 分布</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>母集団と標本 (1)</td> <td>標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>母集団と標本 (2)</td> <td>中心極限定理</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>母集団と標本 (3)</td> <td>母分散と標本分散</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>推定 (1)</td> <td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>推定 (2)</td> <td>母集団の分散・比率の推定</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>検定 (1)</td> <td>Z 検定、F 検定</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>検定 (2)</td> <td>χ^2 乗検定、t 検定</td> <td>授業の復習を徹底して行うこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	授業の復習を徹底して行うこと	2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	授業の復習を徹底して行うこと	3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	授業の復習を徹底して行うこと	4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	授業の復習を徹底して行うこと	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	授業の復習を徹底して行うこと	6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	授業の復習を徹底して行うこと	7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	授業の復習を徹底して行うこと	8	確率分布 (3)	F 分布、t 分布	授業の復習を徹底して行うこと	9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと	10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	授業の復習を徹底して行うこと	11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと	12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	授業の復習を徹底して行うこと	13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	授業の復習を徹底して行うこと	14	検定 (1)	Z 検定、F 検定	授業の復習を徹底して行うこと	15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t 検定	授業の復習を徹底して行うこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
8	確率分布 (3)	F 分布、t 分布	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
14	検定 (1)	Z 検定、F 検定	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t 検定	授業の復習を徹底して行うこと																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしい統計学</td> <td>片平潤彦</td> <td>桐書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	統計はその考え方とともに、データの扱い方も重要です。PC によるデータ処理に慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。授業時間以外にも積極的に PC を使うこと。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	日本語会話F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅴ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語読解F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,DP8〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語読解F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文 F II
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文FⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現法	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生生活、また今後の社会生活に必要なものである。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践（手紙の作成）	返却した課題を見直す

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)
課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%)
100点満点中60点以上で合格
二回の課題の提出は必須

学生へのメッセージ
口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。

担当者の研究室等
1号館2階(非常勤講師室)

備考
前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。
返却された小テストはしっかりと復習すること。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現法	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生生活、また今後の社会生活に必要である。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章(特にレポート・論文)の書き方を習得する。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章(特にレポート・論文)の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践(要約文の作成)	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践(手紙の作成)	返却した課題を見直す

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%)
100点満点中60点以上で合格
二回の課題の提出は必須

学生へのメッセージ
口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。

担当者の研究室等
1号館2階(非常勤講師室)

備考
前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。
返却された小テストはしっかりと復習すること。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語文法FⅡ	科目名(英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FI、日本語読解FII
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目	日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
	2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
	3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてのディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目	日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
	2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
	3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

教 養 科 目

科目名	英語Ⅳ	科目名(英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本授業では、医療、看護、科学に関する英文学術論文を読解できる能力を養う。また、より多くの情報を得るために、インターネット等を用いた学術論文の収集方法を学習し、学術論文の要点を把握する能力を修得することを目的とする。さらに、医療現場等で必要とされる実用的な英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。
到達目標	1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。 2) 医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 3) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 4) インターネット等を用いて学術論文の読解に必要な情報を収集できる。 5) 医療、看護、科学等に関する英文学術論文を読解し、その内容を説明できる。
授業方法と留意点	医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読解します。また、英文学術論文を読み、その内容に関する説明資料の作成・発表を行います。辞書を必ず持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(1)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	2	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(2)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	3	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(3)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	4	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(4)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	5	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(5)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	6	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(6)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	7	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(7)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	8	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(8)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	9	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(9)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	10	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(10)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	11	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(11)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	12	英文の学術論文の読み方(1)	学術論文の読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。

	13	英文の学術論文の読み方(2)	学術論文のデータの読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニツペーパーで復習する。
	14	英文の学術論文の要約作成	学術論文の要約を作成する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニツペーパーで復習する。
	15	英文の学術論文の内容発表と全体のまとめ	学術論文の内容を発表する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニツペーパーで復習する。
関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「プリント」を講義で配付します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	耳から学ぶ楽しいナース英語	野口ジュディー，川越栄子，仁平雅子	講談社
	2			
	3			
評価方法(基準)	学術論文の発表に用いるプレゼン資料(20%)、各授業中の発表と学術論文発表(20%)および定期試験(60%)で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については20点を限度に減点することがあります。			
学生へのメッセージ	本講義は、アドバンス型の英語の講義です。英語の論文を毎週読んでもらいますので、講義外での、予習・準備が相当必要になります。意欲的態度で臨み、積極的に授業に参加し、発表して下さい。			
担当者の研究室等	1号館5階 生化学研究室(薬学部)			
備考	事前学習：次回の授業範囲の単語、慣用語句等に関する学習および要約作成・発表に必要な情報調査等(1時間×15回) 事後学習：授業で用いた英語文章の単語等の復習(0.5時間×15回)			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・尾山 廣・喜多 大三・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク 9月15日(土)	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	北河内地域に関する事前学習 9月29日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	北河内地域に関する講演 9月29日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション 9月29日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
5	北河内地域に関する事前学習 10月20日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
6	北河内地域に関する講演 10月20日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月20日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
8	北河内地域に関する事前学習 11月17日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	北河内地域に関する講演 11月17日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月17日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	北河内地域に関する事前学習 12月1日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	北河内地域に関する講演 12月1日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション 12月1日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク 12月15日(土)	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション 12月15日(土)	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。

学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？
担当者の 研究室等	荻田喜代一（薬学部・副学長室）、鶴坂貴恵（経営学部・経営情報学科）、尾山廣（理工学部・生命科学科）、伊藤謙（理工学部・都市環境工学科）、喜多大三
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	教育学	科目名(英文)	Pedagogy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	あなたは「教育」とは「善いもの」だと思っていませんか。思っているとしたら、それはなぜでしょう。思っていないとしたら、それはなぜでしょう。あるいは、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか」と問うてみたことはありますか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものです。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史であり、これらを整理し体系化しようとする学問としての「教育学」の知見です。よって、「教育学」が果たしてきた、また果たすべき役割についても考え直してみようことにします。これらを通して、受講者のみなさんがそれぞれに「教育」について考えを深め、「教育」を捉え直すことができるようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史、社会とのかかわりなどについて基礎的な知識を身につけます。 自分の直接的な体験から跳躍して、「教育」について問い、考える方法を身につけます。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行います。受講者のみなさんには折々の授業テーマに関してコメントペーパーを提出してもらい、また各自が興味をもった教育(学)の文献を読んで実際にレポートを提出してもらい、それらをクラス全体またはグループで共有して、教育についてさらに多角的に深く考えるきっかけにします。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	「学問としての教育学」ということについて	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	教育学の生成(1)「誰でも語れる「教育」」	「役に立たない「教育学」」について	①自分が興味をもった「教育(学)」の文献を見つけて読んでおく。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
3	教育学の生成(2)教育とは何か	教育の「定義」をめぐって「教育」という視線	②読んだ文献の内容を他者に説明できるよう整理しておく。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
4	教育学の生成(3)近代教育思想の源流	教育による人間改造と社会改造	③読んだ文献の魅力を他者に伝えられるようまとめておく。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
5	教育学の生成(4)学校教育の普及	学校の誕生と拡大 学校拡大の背景	④読んだ文献について、様式に従ってミニレポートを作成する。 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
6	教育学の類型(1)実践的教育学	意義 扱う領域 限界	①②のおさらい 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
7	教育学の類型(2)教育科学	意義 方法と課題 限界	③④のおさらい 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
8	教育学ブックトーク	グループワーク ピアレビュー	ミニレポートをあらかじめ提出しておく。
9	教育の不確実性(1)暴力的な教育	「心的システム」(個人)の外部環境としての「教育システム」(教育的働きかけ)	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
10	教育の不確実性(2)悲劇的な教育	教育の賭け 「学習可能性」と「教育可能性」のあいだ	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	教育可能性に向けた技術(1)罰	体罰による教育 罰による威嚇	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育可能性に向けた技術(2)競争の教育	競争の制度化・組織化 仕掛けとしての試験、成績評価	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
13	教育可能性に向けた技術(3)「発達」への視線	ルソーの「自然的教育」 パスタロッチの「直観」と「メトデー」 ヘルバルト派の「段階教授法」	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
14	教育可能性に向けた技術(4)学校の授業へ	個別教授から一斉教授へ 「クラス」と「教室」と「担任」 進歩主義教育運動	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目	他の教養科目等で学習した内容と関連づけて考えてみましょう。
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	定期試験 70%、ミニレポート 30%で、総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合には成績は判定しません。
----------	---

学生へのメッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7号館 3階(朝日研究室)
----------	------------------------

備考	
----	--

科目名	経済学	科目名(英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤 純恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本授業では、日本経済を理解するために、基礎的な経済理論を学びます。また、戦後の日本経済の発展や日本の労働市場、所得格差、環境・エネルギー問題、社会保障の問題等を取り上げ、日本経済の様々な諸問題について検討します。																																																																		
到達目標	戦後の経済発展の過程を理解するとともに、日本経済の直面する諸問題について、経済学の視点から考察する力を身につけることを到達目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って、講義形式で行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>経済学を学ぶにあたっての基礎概念を解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>近現代の日本経済①</td> <td>日本の高度成長について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>近現代の日本経済②</td> <td>石油危機と1980年代の日本経済について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>近現代の日本経済③</td> <td>日本経済の失われた20年について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本の労働市場</td> <td>日本の労働市場の特徴について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>所得格差</td> <td>所得格差について指標を用いて解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>産業構造の変化</td> <td>日本の産業構造の変遷について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>環境経済</td> <td>環境・エネルギー問題について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本の金融システム</td> <td>日本の金融システムの変遷について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>財政</td> <td>日本財政の現状及び財政の維持可能性について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>人口減少と社会保障</td> <td>人口の推移が社会に与える影響、特に社会保障の問題について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>国際経済①</td> <td>日本の国際収支と貿易構造の変化について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>国際経済②</td> <td>比較優位の概念について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>経済政策</td> <td>アベノミクスの概要と変遷について解説する</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のまとめ</td> <td>教科書や配布資料等の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	経済学を学ぶにあたっての基礎概念を解説する	教科書や配布資料等の復習	2	近現代の日本経済①	日本の高度成長について解説する	教科書や配布資料等の復習	3	近現代の日本経済②	石油危機と1980年代の日本経済について解説する	教科書や配布資料等の復習	4	近現代の日本経済③	日本経済の失われた20年について解説する	教科書や配布資料等の復習	5	日本の労働市場	日本の労働市場の特徴について解説する	教科書や配布資料等の復習	6	所得格差	所得格差について指標を用いて解説する	教科書や配布資料等の復習	7	産業構造の変化	日本の産業構造の変遷について解説する	教科書や配布資料等の復習	8	環境経済	環境・エネルギー問題について解説する	教科書や配布資料等の復習	9	日本の金融システム	日本の金融システムの変遷について解説する	教科書や配布資料等の復習	10	財政	日本財政の現状及び財政の維持可能性について解説する	教科書や配布資料等の復習	11	人口減少と社会保障	人口の推移が社会に与える影響、特に社会保障の問題について解説する	教科書や配布資料等の復習	12	国際経済①	日本の国際収支と貿易構造の変化について解説する	教科書や配布資料等の復習	13	国際経済②	比較優位の概念について解説する	教科書や配布資料等の復習	14	経済政策	アベノミクスの概要と変遷について解説する	教科書や配布資料等の復習	15	まとめ	これまでの授業のまとめ	教科書や配布資料等の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	経済学を学ぶにあたっての基礎概念を解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
2	近現代の日本経済①	日本の高度成長について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
3	近現代の日本経済②	石油危機と1980年代の日本経済について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
4	近現代の日本経済③	日本経済の失われた20年について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
5	日本の労働市場	日本の労働市場の特徴について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
6	所得格差	所得格差について指標を用いて解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
7	産業構造の変化	日本の産業構造の変遷について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
8	環境経済	環境・エネルギー問題について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
9	日本の金融システム	日本の金融システムの変遷について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
10	財政	日本財政の現状及び財政の維持可能性について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
11	人口減少と社会保障	人口の推移が社会に与える影響、特に社会保障の問題について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
12	国際経済①	日本の国際収支と貿易構造の変化について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
13	国際経済②	比較優位の概念について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
14	経済政策	アベノミクスの概要と変遷について解説する	教科書や配布資料等の復習																																																																
15	まとめ	これまでの授業のまとめ	教科書や配布資料等の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(60%)、授業での課題提出及び授業態度(40%)で総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	普段より新聞やニュースに関心を持つようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP4△, DP8○		

授業概要・目的	生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。本科目では、日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。コミュニケーションの諸場面に生じる問題を通して、円滑な意志疎通のあり方を探る。
到達目標	日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。それを通じてコミュニケーションの諸場面に生じる問題を乗り越え、円滑な意志疎通が可能なる力を身につける。
授業方法と留意点	講義による授業方法。適宜演習も取り入れる。
科目学習の効果(資格)	特になし

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義と演習	授業時に指示する
	2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
	3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
	4	言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
	5	言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
	6	言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
	7	非言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
	8	非言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
	9	非言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
	10	非言語コミュニケーション④	講義と演習	授業時に指示する
	11	コミュニケーションと文化①	講義と演習	授業時に指示する
	12	コミュニケーションと文化②	講義と演習	授業時に指示する
	13	コミュニケーション・スキルとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
	14	コミュニケーション・スキルとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
	15	コミュニケーション・スキルとは何か③	講義と演習	授業時に指示する

関連科目	国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション学など
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 90%、平常点 10%で評価します。講義に出席するのは当然のことです。よって出席したことが点数にはつながりません。ただし講義時に①授業での質問に対する積極的な応答、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢などで注意を受けた場合や意欲が極めて低いと判断した場合は減点法で評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	積極的な参加を求めます。
-----------	--------------

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	女性学	科目名(英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的にを行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果(資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ(1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ(2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー(1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー(2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー(3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
11	労働と社会(1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習・事例を探すレポート
12	労働と社会(2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性(男性)か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3		
評価方法 (基準)	授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	女性学	科目名(英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的にを行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果(資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思ひます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ(1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ(2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー(1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー(2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー(3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
11	労働と社会(1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習・事例を探すレポート
12	労働と社会(2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性(男性)か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3		
評価方法 (基準)	授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	看護においては、患者がどのように感じているのか、どのように考えているのかなどを汲み取り治療に活かす必要がある。また、看護師と患者との良好な関係は、患者の治療成果だけではなく、満足度やQOLにも直結する。 本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論や生涯発達を学ぶことを通じて、私たち人間がどのように物事をとらえているのか、それに対してどのように感じているのかなどを理解し、患者を理解する上で役立つコミュニケーション法や考え方を身につけ、患者との関わりに活かすことを目的とする。
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、患者を含む他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事のとらえ方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めることを目指す。
授業方法と留意点	パワーポイントによる講義を主とするが、個人のワークやグループでのワークを行う時間も設定する。各授業でプリントを配布し、毎回の授業終了前に小テストを行い、その日の授業の定着度を高める。
科目学習の効果 (資格)	患者との関わり、職場での人間関係、自己理解と他者理解に活かすことができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活の中でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	教科書の第1章を一読しておくことが望ましい。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書の第2章Bを一読しておくことが望ましい。
4	学習理論について	本講義では、人や動物がどのように学習し、行動を形成しているのかについて学ぶ。	教科書の第2章Aを一読しておくことが望ましい。
5	感情と欲求について	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求について学ぶ。	教科書の第3章を一読しておくことが望ましい。
6	性格とパーソナリティ (人格) 障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ (人格) 障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書の第4章A,Bを一読しておくことが望ましい。
7	知能と知能検査、性格検査について	本講義では、知能とは何か、知能と性格をはかる検査にどのようなものがあるのかを学ぶ。	教科書の第4章Cを一読しておくことが望ましい。
8	乳幼児期、児童期の発達と愛着について	本講義では、主に乳幼児期と児童期の発達の過程や愛着の機能について学ぶ。	教科書の第5章Aを一読しておくことが望ましい。
9	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章Bを一読しておくことが望ましい。
10	成人、高齢者の発達とそれらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程とそれらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章C,Dを一読しておくことが望ましい。
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知と集団における心理や行動について学ぶ。	教科書の第6章を一読しておくことが望ましい。
12	ストレスマネジメントについて	本講義では、ストレスの種類や性質、リラクゼーションやリフレーミングについて学ぶ。	教科書の第7章を一読しておくことが望ましい。
13	患者を理解する上で役立つ考え方について	本講義では、患者を理解する上で役立つ考え方について学ぶ。	教科書の第8,9章を一読しておくことが望ましい。
14	患者と関わる上で役立つコミュニケーション法や考え方について	本講義では、患者と関わる上で役立つ話の聞き方や共感の仕方について学ぶ。	教科書の第9,10章を一読しておくことが望ましい。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のレジュメもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。

関連科目 臨床心理学、発達心理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学生のための心理学	長田久雄	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための精神医学 第2版	中井久夫	医学書院
2				
3				

評価方法 (基準)	①定期試験を行い、その成績を評価の一つに用いる (60%)。 ②毎回の講義終了前に、その日に講義内容の小テストを行い、その成績を評価の一つに用いる (30%)。 ③心理学に関するレポートを1度提出してもらい、それを評価の一つに用いる (10%)。 ・100点満点中、60点以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	心理学は看護に役立つだけでなく、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の研究室等	1号館2階、非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における質問時間は、講義（木曜4時限）前後の非常勤講師室とする。 ・講義中の小テストの結果は、全体の概要を授業中に説明する。 ・レポートについては、講義中や講義前後に学生個々に返却する。

科目名	生物・化学の基礎	科目名(英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	眞島 崇
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	生物、化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。したがって、十分な生物、化学の基礎知識を有することが必須であるが、高校での履修科目のみでは不十分な点も多い。更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。従って、本科目では、以後の専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を修得する。
到達目標	医療・健康に関連する領域はもちろん、自然界で生じる現象に対して基礎的な範囲で科学的に説明し、将来仕事を共にする医師・薬剤師等の医療スタッフとの共通知識基盤として、基本的な科学に基づいた思考ができる。
授業方法と留意点	本講義はプレゼンテーションおよび教科書に準じた「講義」が中心である。継続的な学習方策のため、次回の講義までに講義中の疑問点(課題に対する)の質問時間を適宜設け、小テストを実施する。よって毎回の講義に関して疑問点に関する解決習慣を身につけるようにすること。 またイントロダクション時にスマートフォンを使用する時間を設ける。
科目学習の効果(資格)	生物、化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。本講義は適宜、国家試験の基礎となる事項も含まれるので、自然科学と看護を結びつける習慣をつける。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	なぜ看護に「生物と化学」? (講義オリエンテーション)	講義の進め方、講義資料のダウンロード方法等を実施しながら、自然科学と看護のつながりについて導入講義を行う。	スマートフォンの操作方法(Moodleへのアクセス方法)について予習しておくこと。講義後は次回講義の小テストを兼ねた対策方法について説明する。
2	化学第1回 見えない「場」ってなに? (力の中で生きている)	われわれの身近に働いている見えない「場」のはたらきがわれわれの体にどのように影響しているのかを学習する。学習する。	教科書2のP45-65、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
3	生物第1回 皆さんの体の中で起っていること (細胞のお話し)	なぜ生きるためにエネルギーが必要なのかを細胞レベルで学習する。	教科書1のP12-26、教科書2のP66-85、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
4	化学第2回 自然界の物質構成 (混合物、化合物とは)	われわれを含め、形あるものは全て化学構造で構成されている。その仕組みを学習する。	教科書2のP11-14、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
5	生物第2回 外界からの力に耐えるために (生命体を維持するためのしくみ)	外界を取り巻く様々な力から未を守るために、われわれの体はどのような構造を維持しているのかについて学習する。	教科書1のP27-42、教科書2のP28-45、P158-168、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
6	化学第3回 「物が溶ける」とは? (溶解、水和、イオンのお話し)	砂糖や塩がなぜ水に溶けるのか?その仕組みを物理・化学的な側面から学習する。	教科書2のP14-25、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
7	生物第3回 体の中で情報伝達? (自己調節機能、電気生理、物質の輸送)	われわれの体の大部分が水でできていることは、様々な生理現象が生じる上で重要であることを学習する。	教科書1のP114-138、教科書2のP86-101、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
8	化学第4回 酸性、塩基性とはなにか? (身近にある酸とアルカリの反応、化学平衡とは)	身近にある酸・アルカリとはどういうはたらきをしているのかを学習する。	教科書2のP25-27、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
9	生物第4回 体が酸性、アルカリ性!? (アシドーシス、アルカローシス、酸塩基平衡のお話し)	われわれの体内がほぼ中性に保たれているのはなぜか。また病気によってそのバランスが崩れるのはなぜかについて学習する。	教科書2のP25-27、P169-175、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
10	化学第5回 化学反応を効率的に (触媒の話)	膨大なエネルギーを必要とする化学反応を助ける「触媒」のはたらきについて学習する。	教科書、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
11	生物第5回 生体内でも触媒反応? (酵素のはなし)	われわれの体の中でもエネルギーを効率よく使うため、触媒反応が生じている。その内容(酵素)のはたらきについて学習する。	教科書1のP57-69、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
12	化学第6回 遺伝子の構造 (生体内物質の化学結合)	遺伝子が生体の設計図であることを、その働きと化学結合の観点から学習する。	教科書1のP43-56、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
13	生物第6回 生命体の連続性 (細胞分裂と成長について)	われわれはどのようにして生まれ成長するのか。受精から細胞分裂における過程について学習する。	教科書1のP84-112、教科書2のP118-135、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
14	化学第7回 環境と化学のかかわり (自然界での化合物の循環)	環境に存在する様々な化学物質はどのようにわれわれに影響しているのかについて学習する。	教科書1のP164-185、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。
15	生物第7回 遺伝とは何か (遺伝のしくみと病気)、講義総まとめ	遺伝の仕組み、遺伝子の異常を原因とするがんなどの疾患との関連について学習する。	教科書1のP139-161、教科書2のP118-135、配布資料の予習復習・前回講義に関する小テストを行う。また講義途中で適宜小テストを行う。講義の総まとめを行うので全ての講義資料を持参しておくこと。

関連科目 人体の構造と機能(1年次前後期)、代謝栄養学(1年次後期)、感染と防御(1年次後期)、薬理学総論(2年次前期)、薬物治療学(2年次後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学	南雲 保 ほか	羊土社

	2	解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理	岡田隆夫	羊土社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ZEROからの生命科学	木下勉ほか	南山堂
	2	やさしい物理化学—自然を楽しむための12講	小池 透	共立出版
	3			
評価方法 (基準)	小テスト、態度評価(40%)、および授業終了後の定期試験(60%)で総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生への メッセージ	看護師を目指す上で、生物、化学の基礎は必要である。特に高等学校時代にこれらの科目を履修していない、あるいは3年間履修していない学生は、この機会に、高等学校の教科書や参考書も含めて、しっかりと学習することをすすめる。また、履修した学生でも、受験科目として勉強していない場合、自分が思うよりも力がついていないことが多いので、予習、復習を欠かさずに行うことをすすめる。質問時間をできるだけ設けているので、わからない点をそのままにしないよう、継続的な予習、復習をすることを期待する。			
担当者の 研究室等	1号館4階 眞島講師室(オフィスアワーを初回講義時に説明します)			
備考	看護に関係する範囲を中心に、高等学校で学ぶ内容の復習から専門性の高い内容まで幅広い講義になります。また、大学の学習は、講義だけではなく、学生各自の自学自習をもって完結するものです。特に高等学校で生物、化学を十分に学習していない学生は、予習(教科書を読むだけでも構いません)、復習をしっかりと行うこと。また講義終了後、オフィスアワー、講義開始前に質問を受けつけるので、積極的に質問すること。態度点として評価する。			

科目名	生命倫理	科目名(英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤塚 京子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP4◎		

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また科学技術の急速な進歩に伴う、医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を育む。
授業方法と留意点	『事例でまなぶ ケアの倫理』(G supple 編集委員会編、メディカ出版)を教科書とし、レジュメを配布する。講義中心。
科目学習の効果(資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生殖補助医療技術	講義:生殖補助医療技術について説明できる。女性の身体の道具化、生殖のビジネス化、子どもの出自を知る権利等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
3	出生前診断と選択的人工妊娠中絶	講義:出生前診断・着床前診断と、選択的人工妊娠中絶について説明できる。優生思想、優生保護法の倫理的問題、胎児条項、リプロダクティブ・ライツ、胚と胎児の道徳的地位等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
4	重症新生児治療の差し控え・中止	講義:新生児医療が直面する問題について説明できる。NICUにおける医療倫理、重症新生児の治療をめぐる諸ガイドライン等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
5	安楽死・尊厳死	講義:安楽死と尊厳死の違いについて説明できる。海外での安楽死・尊厳死をめぐる主要な出来事と関連法、日本における経緯と現状を理解する。患者と家族に対して医療者ができることを考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
6	脳死と臓器移植	講義:生体臓器移植・脳死臓器移植およびそれらが抱える問題について説明できる。脳死は人の死か、脳死患者と移植待機患者そしてそれぞれの家族の苦悩について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
7	子どもにおけるインフォームドコンセント	講義:子どもに医療におけるインフォームドコンセント(アセント)と親権、児童虐待の問題について説明できる。病気説明・告知や治療に関する自己決定の在り方、医療現場における児童虐待の発見と課題について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
8	患者のQOLとは何か	映像資料鑑賞:映像資料を通して、患者のQOLとは何か、自分が当事者であればどう考え行動するか、専門職医療者としては何ができるかを考える。	講義直後にレポート提出。
9	病気と差別	講義:HIV感染症と、その感染者やAIDS発症者をめぐる問題について説明できる。薬害HIV事件、強制HIV検査の是非、守秘義務と警告義務について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
10	難病を生きるということ	講義:難病と難病政策について説明できる。難病を抱えながら生きる人々に対し医療者ができること、患者とその家族の苦悩や負担について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
11	自己決定と遺伝カウンセリング	講義:遺伝子診断と遺伝カウンセリングについて説明できる。遺伝子診断をめぐる倫理的問題(知る権利と知らないでいる権利、血縁者への情報提供、DTC遺伝子検査、遺伝子差別等)について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
12	認知症を抱えて	講義:認知症とそのケアの在り方について説明できる。患者のQOL、身体拘束、高齢者虐待、認知症患者が関わる事件・事故(交通事故・行方不明など)等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
13	ターミナルケア	講義:終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明できる。死の受容と延命治療、鎮静(セデーション)、家族・遺族の悲嘆のケアの在り方等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
14	医療が患者に害をもたらす	講義:医療事故とインシデントおよびそ	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。ま

	とき	れらへの取り組みについて説明できる。実際に起こった医療事故例を振り返り、失敗に学ぶ医療安全体制の構築や患者の救済について考える。	た、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。																
15	医療倫理に関する事例の検討	講義：これまで学んできた、生命倫理・医療倫理における諸問題を、映像資料鑑賞を通して確認し、これからの医療と医療者に課せられた問題とあるべき姿について考える。	講義直後にレポート提出。																
関連科目	看護倫理をはじめとした看護専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事例でまなぶ ケアの倫理</td> <td>G supple 編集委員会編</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業でのアンケート&コメントシート (30%)、定期試験 (70%) により評価する。全体で 60%以上獲得で合格。																		
学生への メッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。																		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないとといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也. 針尾 大嗣. 牧野 幸志. 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域のITスキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。																		
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ向向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 商品開発についての調査 5. 商品開発のアイデア出し 6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など) 7. 商品完成後の取組(販売促進活動) 8. ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣, 川上 比奈子, 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやルブリック評価表などで総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.鶴坂 貴恵.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。</p> <p>そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><企画プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社														
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社														
3																	
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動の中でOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か? そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉. 鶴坂 貴恵. 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。 社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンターの関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） ※小学生・保護者・協働協議会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループリック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝.水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例: 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	テーマ: 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト																
	概要: 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。																
到達目標	次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。 ①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること																
授業方法と留意点	文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修(地域について学ぶ)→現地調査(地域について知る)→学内研修(地域について考える)→現地調査(地域のために活動する)→学内研修(活動を振り返り、評価する)というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義の流れは下記の通りです(進捗状況によって変更となる場合があります)。 1. キックオフミーティング(参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明) 2. 学内研修①(中山間地域における生活支援体制の構築について関する講義(担当教員による)、意見交換) 3. 学内研修②(紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有) 4. 学内研修③(同上) 5. 紀美野町での現地調査①(地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等) ※1泊2日(民泊)での活動を予定しています 6. 学内研修④(第1回現地調査での学びについて各自発表、共有) 7. 学内研修⑤(具体的な生活支援体制構築の手法についての検討) 8. 学内研修⑥(同上) 9. 紀美野町での現地調査②(学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践) ※1泊2日(民泊)での活動を予定しています 10. 学内研修⑦(中間報告会準備) 11. 中間報告会 ※他のプロジェクトと合同で実施します 12. 学内研修⑧(最終報告会準備) 13. 学内研修⑨(最終報告会準備) 14. 学内研修⑩(最終報告会準備) 15. 最終報告会 ※他のプロジェクトと合同で実施します																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか?																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） 近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 活動全体の評価 <p>【年間計画（予定）】</p> <p>4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美・小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也. 針尾 大嗣. 牧野 幸志. 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵・尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。																		
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ向向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 商品開発についての調査 5. 商品開発のアイデア出し 6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など) 7. 商品完成後の取組(販売促進活動) 8. ふりかえり <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山県由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣, 川上 比奈子, 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやグループ評価表などで総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.鶴坂 貴恵.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト> 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。 <開発プロジェクト> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <企画プロジェクト> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。</p> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社														
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社														
3																	
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略（新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など）について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か? そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉. 鶴坂 貴恵. 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校区域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンターの関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校区域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） ※小学生・保護者・協働協議会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループリック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝.水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																
備考																	

教養科目

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明） 2. 学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築について関する講義（担当教員による）、意見交換） 3. 学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有） 4. 学内研修③（同上） 5. 紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有） 7. 学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討） 8. 学内研修⑥（同上） 9. 紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 学内研修⑦（中間報告会準備） 11. 中間報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 学内研修⑧（最終報告会準備） 13. 学内研修⑨（最終報告会準備） 14. 学内研修⑩（最終報告会準備） 15. 最終報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証(連携先の許可により実施) 近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 活動全体の評価 <p>【年間計画(予定)】</p> <p>4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習(座学による) ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解, ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備(ポスター、観戦ガイド、PV等の制作) ホームゲーム観戦促進活動, ホームゲーム戦運営補助, 枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献, 自分の役割の遂行, 報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表, 連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																
担当者の研究室等	吉田佐治子(7号館3階) 水野武(7号館3階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美・小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修: 自己紹介の原案を考える。 ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修: 企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修: NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修: 問題プリント①を解く。 ・事後学修: 問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修: CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修: 自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通して自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から行う(とくにCSRに関するもの)。	・事前学修: 各自がテーマを見つける。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修: グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修: プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修: 最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

教養科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。																																																										
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																																																										
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。 																																																										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきすが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。</p> <p>月に1度程度のミーティングは、木曜日6時間目に設定しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月19日</td> <td>オリエンテーション①</td> <td>プロジェクト内容や進め方の説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月26日</td> <td>オリエンテーション②</td> <td>マナー研修</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>5月24日</td> <td>集合日①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>6月21日</td> <td>集合日②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>7月19日</td> <td>集合日③</td> <td></td> </tr> </table> <p>夏期休業期間：各グループで調査研究活動を進める。</p> <table border="1"> <tr> <td>第6回</td> <td>9月20日</td> <td>集合日④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>9月27日</td> <td>集合日⑤</td> <td>中間発表</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>10月25日</td> <td>集合日⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>11月8日</td> <td>集合日⑦</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>11月22日</td> <td>集合日⑧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>12月6日</td> <td>集合日⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>12月13日</td> <td>集合日⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>12月26日</td> <td>最終報告会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>同</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明	第2回	4月26日	オリエンテーション②	マナー研修	第3回	5月24日	集合日①		第4回	6月21日	集合日②		第5回	7月19日	集合日③		第6回	9月20日	集合日④		第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表	第8回	10月25日	集合日⑥		第9回	11月8日	集合日⑦		第10回	11月22日	集合日⑧		第11回	12月6日	集合日⑨		第12回	12月13日	集合日⑩		第13回	12月26日	最終報告会		第14回	同	まとめ	
第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明																																																								
第2回	4月26日	オリエンテーション②	マナー研修																																																								
第3回	5月24日	集合日①																																																									
第4回	6月21日	集合日②																																																									
第5回	7月19日	集合日③																																																									
第6回	9月20日	集合日④																																																									
第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表																																																								
第8回	10月25日	集合日⑥																																																									
第9回	11月8日	集合日⑦																																																									
第10回	11月22日	集合日⑧																																																									
第11回	12月6日	集合日⑨																																																									
第12回	12月13日	集合日⑩																																																									
第13回	12月26日	最終報告会																																																									
第14回	同	まとめ																																																									
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価方法(基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																																																										
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																																																										
担当者の研究室等																																																											
備考																																																											

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵、石井 三恵、稲地 秀介、上野山 裕士、久保貞也、田中 結華、藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1◎, E科：B◎, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 4月14日(土)	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4月21日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。	
3	自己の探求 4月22日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。	
4	今、地域で何が起きているか 5月19日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】 インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。	
5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月19日(土)2限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。	
6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月19日(土)3限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと	
7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 6月2日(土)1限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること	
8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 6月2日(土)2限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (田中・上野山)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。	
9	事前学習① 由良町関係者の講演 6月2日(土)3限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞かせします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。	
10	事前学習② グループワーク 6月16日(土)1、2限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。	

	11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月30日(土) 終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	12	プレゼンテーション講座 7月7日(土) 1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。																
	13	事後学習① グループワーク 7月7日(土) 2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② 成果発表会 7月21日(土) 1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
	15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土) 3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				

科目名	哲学	科目名(英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>学問の教科書、たとえば心理学や看護学の教科書には、たいていその学問が何であるのかといった定義がはじめに書かれています。ところが哲学の教科書で「哲学とは何か」の説明から始まるものはまずありません。そのような説明から始まるとしても『哲学とは何か』という問いがすでに哲学をするいとなみである」といったようなことが書いてあるぐらいです。それでは哲学の授業では何を学ぶのでしょうか。</p> <p>たしかに、哲学をひとことで言い表すことはできないかもしれません。しかしながら、物事を根本から考えると、批判的に考えると、あるいはものごとを複数の視点から観察するとかいったようなこと、すなわち哲学のいとなみを成り立たせていると考えられているものを手がかりに「哲学とは何か」という問いについて考えていくことはできるでしょう。</p> <p>この授業では、新聞や雑誌の記事、映画、小説、マンガといった身近な素材を活用して、哲学的なものの見方、考え方を養います。この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p>
---------	---

到達目標	<p>(1) 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる</p> <p>(2) 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる</p> <p>(3) ものごとを複数の視点から眺め考察することができる</p>
------	---

授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、シラバスを印刷するか情報端末で見られるようにして授業に出席すること。
2	さまざまなものの見方	ものごとは視点を変わるとまったく違うように見えることがあります。まずは実例にもとづいてそのことを体験します。その上で、もし世界が見る側(あなた)の見方によって見え方が異なるのであるとするならば、ありのままの世界とはどのようなものなのか、そして私たちはそれを知ることができるのか、という問題について考えます。これは哲学の専門用語では「認識論」と呼ばれる問題です。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
3	常識にとらわれない	私たちは一人ひとり違う人間で価値観や考え方も違うはずなのに、びっくりするほど同じようなものの見方をしています。この回では、いくつかのワークを通して私たちが常識にとらわれていることを確認します。その上で、その常識とは何なのか、常識にとらわれないものの見方をするにはどうすればよいのかを考えます。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
4	古典に触れる	世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれ散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると言えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節を手がかりにその深みに触れます。このことを通じて、人文知のあり方をいま改めて考え直します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
5	論理的思考を身につける	今回の授業では、論理的思考(ロジカルシンキング)とはどのようなものなのかを確認した上で、非論理的な会話ややりとりの事例をもとに論理的思考を身につけるための訓練をします。また、論理学の基礎を学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
6	コミュニケーション	コミュニケーションとは何なのか。コミュニケーション障害ということばもよく耳にするようになりました。視聴覚資料をもとに、コミュニケーションについて考えます。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。

				授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
7	生と死について考える (1)	視聴覚資料をもとに、生と死について考えます。		授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
8	生と死について考える (2)	前回に引き続き、視聴覚資料をもとに、生と死について考えます。		授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
9	生と死について考える (3)	昔話の『うばすて山』、赤瀬川原平の『老人力』を手がかりに、歳をとることの意味について考えます。		授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
10	記号化された世界について考える (1)	都市化が進むなかで、私たちが従来の自然に接する機会は少なくなってきました。また経済的合理性を追求することで自動化と分業化が進み、私たちがふだん口にする食べ物がどのように作られたり育てられたりしているのかが見えにくくなりました。この回では、記号化を手がかりに、世界について考えます。		授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
11	記号化された世界について考える (2)	前回に引き続き、視聴覚資料をもとに、記号化された世界について考えます。		授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
12	記号化された世界について考える (3)	アウシュビッツ強制収容所の写真を見ながら、記号化された世界について考えます。		授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
13	自由について考える	自由も哲学の大きなテーマの一つです。自由の問題について考えます。		授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。

	14	わたしとあなた	<p>〈わたし〉と〈あなた〉の関係は、ある意味で特別な関係です。これはほかの誰か(三人称)ではなく、まさにあなた(二人称)とわたし(一人称)の関係なのであって、その意味で、あなたはわたしにとって特別な相手なのです。もしかすると看護師と患者の関係は、この〈わたし〉と〈あなた〉、一人称と二人称の関係と言えるかもしれません。これは哲学のなかでも大きなテーマの一つです。この回では、ある看護の実践に関するドキュメンタリーを観た上で、わたしとあなたとの関係について考えます。</p>	<p>授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。</p> <p>授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。</p>
	15	まとめ、全体のふり回り	<p>これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。</p>	<p>授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。</p> <p>授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。</p>
関連科目	ボランティア活動論、倫理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)30%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気での授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の研究室等	<p>1号館2階 非常勤講師室</p> <p>メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)</p>			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得する。 わたしたちの日常生活と憲法との関係を理解し、社会における諸問題について自分の意見を述べるができる。
授業方法と留意点	基本的には講義方式ですが、出席者の発言を期待しています。授業では、必要に応じてレジュメや資料を配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。各授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。
科目学習の効果(資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	憲法の意義 「憲法」の歴史	講義 西洋における近代憲法の歴史について	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
3	日本における憲法の歴史	講義 明治憲法及び日本国憲法の歴史	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
4	日本国憲法の基本原理	講義 国民主権・平和主義を中心に考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
5	統治のしくみ(1) 国会	講義 国会・内閣の基本的機能について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
6	統治のしくみ(2) 裁判所	講義 裁判所の組織、司法権の独立、違憲審査制について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
7	人権総論	講義 「人権」の歴史(世界・日本)	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
8	自由権(1)表現の自由	講義 表現の自由の重要性とその限界について、判例・近年の動きを通して考える。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
9	自由権(2)人身の自由:適正手続の保障	講義 被疑者・被告人の権利 近年の冤罪事件について 裁判員裁判の諸問題	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
10	社会権(1)	講義 社会権の歴史 生存権と生活保護制度	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
11	社会権(2)	講義 教育を受ける権利 労働者の権利	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
12	法の下での平等	講義 平等権に関する最重要判例。 戦前からこれまでの女性の法的地位の変遷	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
13	新しい人権	講義 新しい人権—自己決定権をめぐる諸問題。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
14	憲法改正の問題	講義 これまでの憲法改正をめぐる動向を概観する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
15	まとめと復習	講義 これまで取り上げた憲法に関する重要判例を整理する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。

関連科目	法学入門			
教科書	番号 1	書籍名	著者名	出版社名
参考書	番号 1	書籍名	著者名	出版社名
評価方法(基準)	定期試験80%、平常点(レポート・学習態度など)20%によって総合的に評価します。 詳しくは初回の講義で説明します。 100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	「憲法」の議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかり修得しましょう。気軽に質問してください。			
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	文学	科目名(英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 直義
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的

みなさんの多くがおそらくは共通して抱えているであろう、「現代社会において古典文学を学ぶ意味はどこにあるのか」との問いの根底には、「古典文学は役に立たない」という観念が横たわっています。このような問いを突きつけられたとき、たとえば「自国の文化・文芸についての教養を身に付けていることが国際社会では常識だから」といった回答で人はその身をかわしますが、結局のところ、「役に立たないかもしれないけれど」と留保しつつ、「読んでおいたほうがよい」という自己目的的な知識増大の礼賛——教養主義に陥っているにすぎず、その意味でこれまでの古典文学研究あるいは教育は、この種の問題から目をそらしつづけてきたと言わざるをえません。たしかに古典文学は、現代の社会システム——たとえば企業経済活動に代表される効率化を是とする社会においては、ほとんど「役に立たない」のです。この授業が問題の出発点としたのは、なぜ我々は古典文学が「役に立たない」と感じてしまうのか、ということです。そのような判断を下しているのは、1945年8月15日正午以後（あるいは明治維新以後）、日本社会の様々な局面に累々と積み上げられてきた価値規範に他なりません。つまり、古典文学が描く世界は、この価値規範によって排除され、どこか遠い世界の物語として断絶させられてしまっているのです。現代の日本がこれまでの価値規範の見直し・再構築を迫られている現状にあることは我々が肌で感じている通りですが、このような状況は、現代に限ったことではありませんでした。戦乱・地震・大火・台風などの未曾有の災厄を経た、たとえば鎌倉時代最初期も同様であったとすることができます。そのような時代、新たな価値規範を再構築するにあたって、常に「古典」が共同体の物語として再認識されてきたのです。このことは、この時期、藤原俊成によってなされた「源氏見ざる歌詠みは遺恨のことなり」との警鐘にも読み取ることができますし、西洋世界における古典（人文）復興——ルネサンスとも通底するでしょう。この授業が目指すのは、今後、価値規範が再構築されるであろう現代日本において、顧みられることになる「古典文学」とそこに内在する、時に「呪縛」ともなってしまう共同体の物語の力、ことばの力のありかたを明らかにすることです。

到達目標 現代において「古典文学」を学ぶ意味を考えることをこの授業の目標とする。

授業方法と留意点 講義形式で授業を行なう。授業の進め方、採点基準などについては初回授業時に説明するので、必ず出席されたい。

科目学習の効果(資格)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・現代に息づく「古典文学」「地域社会と文学」	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
2	「古典」とは何か、「文学」とは何か	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
3	書物と図書館	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
4	「説話」と「物語」と「歴史叙述」と	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
5	『平家物語』を読む(1)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
6	『平家物語』を読む(2)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
7	『平家物語』を読む(3)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
8	『平家物語』を読む(4)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
9	『平家物語』を読む(5)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
10	『平家物語』を読む(6)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
11	『平家物語』を読む(7)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
12	『平家物語』を読む(8)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
13	『平家物語』を読む(9)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
14	『平家物語』を読む(10)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
15	『平家物語』を読む(11)まとめ	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平家物語一(～四)	梶原正昭・山下宏明	岩波書店
2			

評価方法(基準) 授業への取り組み・リアクションペーパー(20%)、定期試験(80%)により、総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ 高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考 履修上の留意点、レポートのテーマなどは初回授業時に指示します。授業前後の自主学習は、授業内で配布する資料を熟読しておくこと、また授業内で得た知見を自身が進めず研究・学習や日常に活かすよう、意識することです。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	文化人類学	科目名(英文)	Cultural Anthropology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学的思考がどのようなものであるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果(資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	特になし
	2	人類学の誕生(1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	特になし
	3	人類学の誕生(2): 進化主義人類学	前回の続き。タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
	4	機能主義人類学(1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
	5	機能主義人類学(2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	特になし
	6	アメリカ文化人類学の誕生(1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	特になし
	7	アメリカ文化人類学の誕生(2)	前回の続き。	特になし
	8	アメリカ文化人類学の展開(1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
	9	アメリカ文化人類学の展開(2)	前回の続き。	特になし
	10	構造主義(1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
	11	構造主義(2)	前回の続き。	特になし
	12	構造主義(3)	前回の続き。	特になし
	13	解釈人類学(1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
	14	解釈人類学(2)	前回の続き。	特になし
	15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	特になし

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	評価方法: 評価の配分は試験を50%、レポートなどの課題提出を50%とする。 評価の基準: 試験については、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうか、レポートについては、人類学的思考がどのようなものかを理解したうえで書けているかどうかを基準とする。
----------	---

学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	参加人数および参加者の関心・希望に応じて、授業内容が多少変更される場合があります。
----	---

教養科目

科目名	法学入門	科目名(英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	本授業は、法が「日常生活」でどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書および参考書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、予習・復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認し持参すること。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ事件の概要となぜその記事を選らんだか説明する。
科目学習の効果(資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、今後の医療人としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます!

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法ってなんだろう?	講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	
2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
7	家族と法-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
8	家族と法-親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
12	罪と罰-犯罪(1)	脳死・臓器移植、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
13	罪と罰-犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
14	労働と法	労働契約、解雇・失業	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
15	社会保障と法	子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ワンステップ法学	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	赤十字の誕生-ソルフェリーノの思い出	アンリー・デュナン	白水社
2			
3			

評価方法(基準)	1. 小テスト 50% 2. 毎回新聞記事を持参し討議に積極的に参加しているか。 20% 3. コメント用紙に積極的に記入し提出するか。 30%
----------	--

学生へのメッセージ	法は、わたしたちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室 Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
----------	---

備考	
----	--

科目名	ボランティア活動論	科目名(英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DPI◎		

授業概要・目的	東日本大震災という未曾有の災害を経験し、ボランティア活動が日本で再び注目されるようになってきました。1995年が日本のボランティア元年と呼ばれるようになったきっかけは阪神・淡路大震災でした。ただ、一言でボランティア活動と言っても、地域の清掃を行うといったような身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
	2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
	3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
	4	国内外のさまざまなボランティア活動	国内外で行われているさまざまなボランティア活動の実例に触れ、これから学修するボランティア活動についてのイメージをつかみます。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
	5	市民社会論	ボランティア活動の基礎にある市民について、市民とは何か、市民社会とはどのようなものか学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
	6	NPO、NGO	NPO、NGOとは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
	7	社会制度とボランティア活動	社会制度がNPO、NGOの活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
	8	グループワーク(1)——国	5~10人のグループに分かれ、国内外の	授業のテーマについて図書館やインターネットで

	内外の NGO 団体について調査	NGO 団体について調査し、次回の発表に向けて準備します。	調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
9	グループワーク(2)——国内外の NGO 団体について発表	前回グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体の活動について紹介します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
12	文化ボランティア	文化ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
14	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。
15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	この授業は授業内課題（リアクションペーパー）15%、グループワーク 20%、期末試験 65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	メールアドレス : xmorimse[*]edu. setsunan. ac. jp ([*]を半角の@に置き換え) この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。
備考	この科目の?修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。

キャリア形成科目



科目名	患者安全	科目名(英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	辻 琢己
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的
 薬学部生とともに学ぶ経験を通して、看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技術・態度を身につけるために、医療倫理及び世界標準の患者安全について学び、医療チームの中での看護師が果たすべき責任および役割を学ぶ。

到達目標

(1) 看護師の使命
 一般目標：医療の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、看護師としての使命感を身につける。
【患者安全と薬害の防止】
 1. 医療にかかわるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)
 2. WHOによる患者安全の考え方について概説できる。
 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。
 4. 医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。

(2) 看護師に求められる倫理観
 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。
【医療倫理】
 1. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。
【患者の権利】
 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)
 2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。
 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。
 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)

(3) 多職種連携協働とチーム医療
 一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。
 1. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)

(4) 人と社会に関わる看護師
 一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と看護師の関わりを認識する。
 1. 看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)
 2. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)

授業方法と留意点
 講義、自己学習、小グループ討論、発表会を行います。
 教科書、プリント等を用います。

科目学習の効果(資格)
 チーム医療における患者の安全を守る看護師の役割を学修する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1回(世界標準の患者安全1) ○WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 ○医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。	講義、自己学習 教材：ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
2	2-5回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療にかかわるのリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
3	6回(世界標準の患者安全2) ○医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	講義、自己学習 教材：ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
4	7-10回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。

	<p>を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>																		
5	<p>11 回 (世界標準の患者安全3) ○医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 ○患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 ○患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。</p>	<p>講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>																
6	<p>12-15 回 (指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>	<p>自己学習、小グループ討論、発表会</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>																
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド</td> <td>相馬孝博</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①レポートや発表用資料等の成果物、②SGD、発表、質疑応答等での観察記録(以上40点)及び③臨時試験(60点)を合わせ100点とし、60点以上を合格とします。																		
学生へのメッセージ	医療事故(医療行為に関する予期しない結果)は、日々発生しています。これを未然に防ぐことは、患者さんを守るだけでなく、医療従事者自身を守ることにもなります。本科目では、薬剤師、看護師、医師等の医療従事者になりきって、積極的に考え、悩んで下さい。																		
担当者の	辻:1号館3階(病態医学研究室)																		

研究室等	岩崎：1号館4階（臨床薬剤学研究室） 眞島：1号館4階（実践薬学分野） 鎌田、森谷、吉川、山本、飯田、永田：7号館3階
備考	修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがあります。 課題やレポート等に関するフィードバックは、講義及び小グループ討論の中で、適宜、行います。 事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。（2.5時間×3回） 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。（2.5時間×3回）

科目名	患者安全	科目名(英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	辻 琢己
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的
薬学部生とともに学ぶ経験を通して、看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技術・態度を身につけるために、医療倫理及び世界標準の患者安全について学び、医療チームの中での看護師が果たすべき責任および役割を学ぶ。

到達目標

(1) 看護師の使命
一般目標：医療の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、看護師としての使命感を身につける。
【患者安全と薬害の防止】
1. 医療にかかわるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)
2. WHOによる患者安全の考え方について概説できる。
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。
4. 医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。

(2) 看護師に求められる倫理観
一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。
【医療倫理】
1. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。
【患者の権利】
1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)
2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。
3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。
4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)

(3) 多職種連携協働とチーム医療
一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。
1. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)

(4) 人と社会に関わる看護師
一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と看護師の関わりを認識する。
1. 看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)
2. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)

授業方法と留意点
講義、自己学習、小グループ討論、発表会を行います。
教科書、プリント等を用います。

科目学習の効果(資格)
チーム医療における患者の安全を守る看護師の役割を学修する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	2-5回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療にかかわるのリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
3	6回(世界標準の患者安全2) ○医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
4	7-10回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。

キャリア形成科目

	<p>を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>																		
5	<p>11 回 (世界標準の患者安全3) ○医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 ○患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 ○患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。</p>	<p>講義、自己学習 教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>																
6	<p>12-15 回 (指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>	<p>自己学習、小グループ討論、発表会</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>																
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド</td> <td>相馬孝博</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①レポートや発表用資料等の成果物、②SGD、発表、質疑応答等での観察記録(以上40点)及び③臨時試験(60点)を合わせ100点とし、60点以上を合格とします。																		
学生へのメッセージ	医療事故(医療行為に関する予期しない結果)は、日々発生しています。これを未然に防ぐことは、患者さんを守るだけでなく、医療従事者自身を守ることにもなります。本科目では、薬剤師、看護師、医師等の医療従事者になりきって、積極的に考え、悩んで下さい。																		
担当者の	辻:1号館3階(病態医学研究室)																		

研究室等	岩崎：1号館4階（臨床薬理学研究室） 眞島：1号館4階（実践薬学分野） 鎌田、森谷、吉川、山本、飯田、永田：7号館3階
備考	修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがあります。 課題やレポート等に関するフィードバックは、講義及び小グループ討論の中で、適宜、行います。 事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。（2.5時間×3回） 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。（2.5時間×3回）

科目名	患者コミュニケーション	科目名(英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得し、薬学部・看護学部生の共同学習を通して体験的に学ぶ。看護学部生と薬学部生が共同で学ぶことを通じて、薬学部生/看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技能・態度を身につける。本科目では、医療の現場におけるコミュニケーションを、小グループにおける効果的なチーム作りによってリーダーシップ・メンバーシップを意識しながら体験的学習を通して習得する。ケア場面のコミュニケーション、チーム医療に必要なコミュニケーション技法について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者・医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 医療を受ける患者を理解し(特に心理プロセス)、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。 患者・医療者のコミュニケーション(会話)に必要な技法について述べるができる。 上記の技法について、模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表、リフレクションができる。
授業方法及び留意点	講義と、小グループによるディスカッション(SGD)を通して学ぶ。
科目学習の効果(資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ワーク1: 医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(1) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
3	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(2) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
4	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(3) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
5	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(4) クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題: 個人ワークシート記録
7	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(1) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
8	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(2) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
9	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(3) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮し	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成

キャリア形成科目

			たコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	
	10	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題：個人ワークシート記録
	12	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（1） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	13	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（2） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	14	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（3） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	15	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
関連科目	看護対人関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富 庸介/藤森 麻衣子編著	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	成果物（個人ワークシート記録、発表会用資料等）の提出状況（30%）、最終レポートの内容および提出状況（30%）、態度・パフォーマンスに関する観察記録（ピア評価を含む）（40%）で評価する（100点満点中60点以上で合格）。なお、修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがある。			
学生への メッセージ	薬学部との共同学習により、より深く患者-医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。			
担当者の 研究室等	田中：7号館3階（看護学部研究室9） 眞野：7号館3階（看護学部研究室19） 岩崎：1号館4階（臨床薬理学研究室） 眞島：1号館2階（眞島講師室）			
備考	課題（グループ発表資料等）については、発表時にフィードバックを行い、口頭発表であれば、教員から総括のコメントを行う			

科目名	患者コミュニケーション	科目名(英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得し、薬学部・看護学部生の共同学習を通して体験的に学ぶ。看護学部生と薬学部生が共同で学ぶことを通じて、薬学部生/看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技能・態度を身につける。本科目では、医療の現場におけるコミュニケーションを、小グループにおける効果的なチーム作りによってリーダーシップ・メンバーシップを意識しながら体験的学習を通して習得する。ケア場面のコミュニケーション、チーム医療に必要なコミュニケーション技法について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者・医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 医療を受ける患者を理解し(特に心理プロセス)、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。 患者・医療者のコミュニケーション(会話)に必要な技法について述べるができる。 上記の技法について、模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表、リフレクションができる。
授業方法及び留意点	講義と、小グループによるディスカッション(SGD)を通して学ぶ。
科目学習の効果(資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ワーク1: 医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(1) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
3	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(2) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
4	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(3) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
5	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(4) クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題: 個人ワークシート記録
7	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(1) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
8	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(2) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
9	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(3) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮し	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成

キャリア形成科目

			たコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	
	10	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題：個人ワークシート記録
	12	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（1） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	13	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（2） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	14	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（3） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	15	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
関連科目	看護対人関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富 庸介/藤森 麻衣子編著	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	成果物（個人ワークシート記録、発表会用資料等）の提出状況（30%）、最終レポートの内容および提出状況（30%）、態度・パフォーマンスに関する観察記録（ピア評価を含む）（40%）で評価する（100点満点中60点以上で合格）。なお、修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがある。			
学生への メッセージ	薬学部との共同学習により、より深く患者-医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。			
担当者の 研究室等	田中：7号館3階（看護学部研究室9） 眞野：7号館3階（看護学部研究室19） 岩崎：1号館4階（臨床薬理学研究室） 眞島：1号館2階（眞島講師室）			
備考	課題（グループ発表資料等）については、発表時にフィードバックを行い、口頭発表であれば、教員から総括のコメントを行う			

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎		

授業概要・目的	<p>●概要:「自分のキャリア」=「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</p> <p>●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、自分のキャリアデザインの参考にします。</p>
到達目標	<p>●到達目標:1年次の自分なりに、で構いません。看護師になって自分は何がやりたいのか、自分がやりがいを持てるのは何か、自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでも具体的に描けるようになることを目標とします。</p> <p>●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、意見を求めます。講義を通して、自立し成長することを目標とします。</p> <p>●私と皆さん、皆さん同士、のディスカッションを中心に進めていきます。「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、自分の意見を言えるようになること」も目標としています。</p>
授業方法と留意点	<p>●毎回のテーマ講義後、少人数でのディスカッション・全体でのディスカッションを実施。</p> <p>回によっては、配布したワークシートを記入しながらのディスカッションもあります。</p> <p>●毎回終了時に、レポート提出あります。</p> <p>●毎回、周りを気にせず、自分の意見を述べることを求めます。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</p> <p>●自分を理解できることで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</p>

キャリア形成科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性 ●「上手に議論する方法」について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ●「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどのようなふう動いているのか、しっかりと理解しましょう。 ●多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であることを理解しましょう。
	2	「看護師」という職業を考えると!	職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。	日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみましょう。
	3	自分自身を知る①「職業人に求められる基礎力」	求められる「職業人が身に付けるべき基礎力」は、自分はどの程度出来ているかチェック。自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。	「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分が看護師という専門職として働く前に、働く人の基礎力を身に付けることが求められます。どのようにしてその力をつけていくのか、考えてみましょう。講師から具体的なアドバイスもしていきます。
	4	自分自身を知る②「自己肯定」と「自己効力」	「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。	多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみましょう。
	5	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーになるには、何を身につければいいのか。	今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。
	6	自分の生涯キャリアを考える	結婚、出産、転勤、介護等、人生に起こりうるイベントでも、自分のキャリアデザインを修正していくことも迫られる可能性があることを知しましょう。自分のキャリアデザインシート作成します。	看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。目標に向かってどのような道をたどっているのか、調べる。
	7	「自分はこんな人、こんな看護師になります!」	各自発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
	8	まとめ～節目ごとに「自分のキャリアデザイン」を。	「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。	自分の人生は自分で決める。常に、「なぜそうなのか?」を考えるクセをつけ、率直に自分の意見を言い、また他人を受容する力をつけましょう。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

関連科目 特記なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日葡社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通じて作成するワークシートを完成させ、講義終了時のレポートと合わせ提出することを必須要件とする。 ・出席回数・講義中に使用するワークシート記入・講義終了後レポート内容 60% ディスカッションでの発言・受講態度40% ※評価ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。 ・ディスカッションで自分の考えを積極的に発言し、また他人の意見に耳を傾け受容し、コミュニケーションをとっているか。 			
学生への メッセージ	<p>自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、人生で絶対やりたいこと、等を整理し、これからの人生を、自立できて、迷うことなく明るく進んでほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻厳禁！前半の講義進行に影響が出るので慎むこと。 ・私語厳禁！誰かが発言している際に私語を慎むのは、大人の常識！ 意見を言いたい時には、手を挙げて発言すること。 ・自立した大人を目指すため、様々なアドバイスをします。耳が痛いことも言うかもしれませんが、皆さんが社会人になって「残念な人だ」と言われたいために、と思っはつきりと注意します。ご理解下さい。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師			
備考	メールアドレス chika@career-position.com			

科目名	キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8◎		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を得得する。 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を得得する。 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。
授業方法と留意点	・講義、薬学部との合同演習、現役看護職との交流会を実施します。 ・薬学部での合同演習では、責任感をもって個々の役割を担って下さい。 ・現役看護職との交流では、貴重な機会となりますので、自らの将来や目標を見据え、質問したいことを事前に考えてくるようにして下さい。
科目学習の効果 (資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に、学習をすすめていくことができる。 看護師としての成長のみならず、人間的に成長することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	学生生活ガイダンス・防犯セミナー	・充実した学生生活を過ごすために心がけること、大学の規範や社会の一員としてのマナーや姿勢を身に付ける ・小グループで上級生との交流することを通じて、具体的な学習方法や大学生活を知り、見通しをたてる	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく 事後学習課題：さらに知りたいことを深める
3	私のキャリア①	・専門看護師について学ぶ ・保健師について学ぶ	事後学習課題：専門看護師について、保健師について調べておく
4	上級生から学ぶ	上級生との交流を通じて、大学生活に見通しをもつ	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく 事後学習課題：さらに知りたいことを深める
5	チームビルディング (1)	・チームワークとは何か、チーム医療とは何かを明確にし、薬学部生とのグループワークを行う	事前学習課題：チームとは、チームワークとは、チーム医療とは何かについて調べておく 事後学習課題：チームにおける自分の果たすべき役割についてまとめる
6	チームビルディング (2)	・チームワークとは何か、チーム医療とは何かを明確にし、薬学部生とのグループワークを行う	事前学習課題：チームとは、チームワークとは、チーム医療とは何かについて調べておく 事後学習課題：チームにおける自分の果たすべき役割についてまとめる
7	生命の尊厳と人間の尊重 「緩和医療について」	ゲストスピーカーを招いて、緩和医療について学ぶ	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
8	「緩和医療について」チームアプローチを考える	事前学習内容をグループで共有し合い、薬学部生ともに緩和医療におけるチームアプローチについてグループで検討する	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
9	チーム医療 「在宅医療について」	ゲストスピーカーを招いて、在宅医療、チーム連携について学ぶ。	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
10	「在宅医療について」、チームアプローチを考える	事前学習内容をグループで共有し合い、薬学部生ともに在宅医療におけるチームアプローチについてグループで検討する。	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
11	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクトを仕上げる
12	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクトを仕上げる
13	私のキャリア③	連携 4 病院の現役看護師をゲストスピーカーとして招き、自身のキャリア体験や活動内容について学ぶ	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる 事後学習課題：さらに知りたいことを深める
14	私のキャリア④	グループに分かれて、現役看護職と交流し、看護の実際や看護師のキャリア経験を聞き、自分の未来を見通す	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる 事後学習課題：さらに知りたいことを深める
15	私のキャリア⑤	特別講義	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる 事後学習課題：さらに知りたいことを深める

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

キャリア形成科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%			
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。			
担当者の 研究室等	研究室 17 鎌田			
備考	ゲストスピーカーの都合によりシラバス内容が一部変更することがあります。			

科目名	臨床医療演習 I	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	医療の質を改善する手法として開発・導入されたクリニカルパス (以下 CP と略す) は、多職種が関わる医療現場で医療者の共同意識を促し、チーム医療を促進するものであると認識されている。CP の作成、運営、評価において看護職者の果たす役割は大きく、CP を介した患者や多職種とのコミュニケーションはその効果を発揮する上でも重要である。本科目では、CP を使った患者や他職種とのロールプレイを通し、チーム医療におけるコミュニケーションのあり方及び看護師の役割を考えることである。
到達目標	1. CP の歴史と意義、基本構造について理解できる。 2. CP 作成および評価におけるアウトカム志向の重要性について理解できる。 3. グループで担当する CP の疾患および治療について説明できる。 4. グループで担当する CP に参加する各医療専門職の役割を説明できる。 5. グループで担当する CP に参加する他職種の役割をふまえ、CP に記載されている看護実践について他職種 (模擬) に説明できる (ロールプレイ)。 6. グループで担当する CP を適用する患者 (模擬) へ患者用 CP を用いて患者が安心して主体的に治療に望めるよう、説明できる (ロールプレイ)。 7. ロールプレイを通して、患者を中心とするチーム医療におけるコミュニケーションのあり方及び 看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	5~6 人のグループワークを行い、担当する疾患及び治療の CP について学習し、他職種や患者に看護実践について説明する方法を考える。グループワークでの学習をもとに CP を利用してロールプレイする。ロールプレイは発表形式で行い、コミュニケーションのあり方及び 看護師の役割についてディスカッションする。グループワーク及び 発表と討議には積極的に参加すること。 本授業は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡 (ポータル・掲示) は必ず確認すること。
科目学習の効果 (資格)	臨地実習において CP が適応されている患者を担当することがある。そのため、実習の学習成果の促進に貢献する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	CP の概要・作成・評価 (バリエーション) について (1)	授業テーマに関する講義	事前: 日本クリニカルパス学会、または、各医療機関がホームページ上に掲載している CP の目的や意義について調べてみる。 事後: CP の目的や意義をふまえてグループワークが展開できるよう、講義内容を振り返る。
2	CP の概要・作成・評価 (バリエーション) について (2)	授業テーマに関する講義	事前: 日本クリニカルパス学会、または、各医療機関がホームページ上に掲載している CP の目的や意義について調べてみる。 事後: CP の目的や意義をふまえてグループワークが展開できるよう、講義内容を振り返る。
3	CP の概要・作成・評価 (バリエーション) について (3)	授業テーマに関する講義	事前: 日本クリニカルパス学会、または、各医療機関がホームページ上に掲載している CP の目的や意義について調べてみる。 事後: CP の目的や意義をふまえてグループワークが展開できるよう、講義内容を振り返る。
4	グループワーク: CP の疾患や治療、他職種の役割の理解 (1)	担当する CP の疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用 CP と患者用 CP に記載されている内容の根拠を整理し、発表資料を作成する。	事前: 担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 他職種の職能と権限について「看護関係法規」の教科書を読む。 事後: グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。
5	グループワーク: CP の疾患や治療、他職種の役割の理解 (2)	担当する CP の疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用 CP と患者用 CP に記載されている内容の根拠を整理し、発表資料を作成する。	事前: 担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 他職種の職能と権限について「看護関係法規」の教科書を読む。 事後: グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。
6	グループワーク: CP の疾患や治療、他職種の役割の理解 (3)	担当する CP の疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用 CP と患者用 CP に記載されている内容の根拠を整理し、発表資料を作成する。	事前: 担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 他職種の職能と権限について「看護関係法規」の教科書を読む。 事後: グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。
7	グループワーク: CP を利用する患者への説明資料の作成 (4)	指定された場面 (治療スケジュール) の患者への説明資料を作成する。	事前: 患者への説明に必要な資料を収集する。 事後: グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。
8	グループワーク: CP を利用する患者への説明資料の作成 (5)	指定された場面 (治療スケジュール) の患者への説明資料を作成する。	事前: 患者への説明に必要な資料を収集する。 事後: グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。
9	グループワーク: CP を一緒に活用する他職種への説明資料の作成 (6)	指定された看護実践について他職種への説明資料を作成する。	事前: 他職種への説明に必要な資料を収集する。 事後: グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。
10	グループワーク: CP を一緒に活用する他職種への説明資料の作成 (7)	指定された看護実践について他職種への説明資料を作成する。	事前: 他職種への説明に必要な資料を収集する。 事後: グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。
11	グループワーク: 発表練習および資料修正 (8)	作成した資料などを活用してロールプレイング発表を練習し、必要に応じて資料を修正する。	事前: 資料をよく読み、グループメンバーの誰でも看護師役を実践できるようにする。 事後: 発表に向けて残った課題を行う。
12	グループワーク: 発表練習および資料修正 (9)	作成した資料などを活用してロールプレイング発表を練習し、必要に応じて資料を修正する。	事前: 資料をよく読み、グループメンバーの誰でも看護師役を実践できるようにする。 事後: 発表に向けて残った課題を行う。
13	発表と討議 (1)	学生主体の運営による発表会	事前: 他のグループの発表に対して質問できるように、発表の疾患や看護について学習する。 事後: レポートの作成

	14	発表と討議 (2)	学生主体の運営による発表会	事前：他のグループの発表に対して質問できるように、発表の疾患や看護について学習する。 事後：レポートの作成
	15	発表と討議 (3)	学生主体の運営による発表会	事前：他のグループの発表に対して質問できるように、発表の疾患や看護について学習する。 事後：レポートの作成
関連科目	これまで履修した専門科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	クリニカルパス概論	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	サイエンティスト社
	2	基礎から学ぶクリニカルパス実践テキスト	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	医学書院
	3	実践チーム医療論 実際と教育プログラム	水本清久ら編著	医歯薬出版
評価方法 (基準)	講義への参加状況、課題への取り組み、プレゼンテーションやレポートの内容を基に総合的に評価する。 講義の参加状況：10% グループワークでの態度 や作成した資料の内容：50% 発表内容及び発表と討議の態度：30% レポート：10%			
学生への メッセージ	現代社会の多様化に伴い医療においても多様な価値観や柔軟な姿勢が必要になっています。皆さんのグループワークを通して実習および卒業後の看護実践に役立てるよう看護師としての専門意識やコミュニケーション力を高められることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階 松本研究室 (28)、小崎研究室 (23)			
備考				

科目名	臨床医療演習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Medical Seminar II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	医療の高度化・複雑化及び医療の質や安全性の向上に伴い、多職種によるチーム医療が様々な臨床で実践されている。その中で、看護学と工学の新たな科学的知見に基づく考えや技術の導入が求められている。本科目では、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎知識を学修し、看護学と工学の融合について考える。
到達目標	1) 人間工学の定義、目的を説明できる 2) 建築環境工学の定義、目的を説明できる 3) 情報科学の定義、目的を説明できる 4) 看護学における工学の役割が理解できる 5) これからの看護学と工学の融合について考察できる
授業方法と留意点	講義と施設の見学を通して、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎を理解しやすいように解説する。施設の見学後はグループワークを行い、学生間で知識の共有ができるよう発表の時間を設ける。講義、施設の見学、グループワークの一連の学習により、看護における工学の役割について理解をうながす。授業の内容および施設の見学日程等によりシラバスの記載順と異なる場合は、別途スケジュールを提示する。
科目学習の効果(資格)	本科目は、看護学と工学の融合した学問の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人間工学の基礎(1)	人間工学の定義	事前学習：人間工学について調べる。 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	人間工学の基礎(2)	臨床における人間工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている人間工学について調べる。 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
3	建築環境工学の基礎(1)	建築環境工学の定義	事前学習：建築環境工学について調べる。 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
4	建築環境工学の基礎(2)	臨床における建築環境工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている建築環境工学について調べる。 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
5	情報科学の基礎(1)	情報科学の定義	事前学習：情報科学について調べる。 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
6	情報科学の基礎(2)	臨床における情報科学の活用について	事前学習：臨床で活用されている情報科学について調べる。 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
7	工学の実際(1)	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：課題プリント 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
8	工学の実際(2)	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：課題プリント 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
9	工学の実際(3)	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：課題プリント 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
10	工学の実際(4)	施設の見学を通して工学の実際を学ぶ	事前学習：課題プリント 事後学習：見学でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
11	看護学における工学の理解(1)	施設の見学を通しての学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合についてグループワークを行う	事前学習：グループワークで使用する資料を収集する。 事後学習：グループワークの資料作成
12	看護学における工学の理解(2)	施設の見学を通しての学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合についてグループワークを行う	事前学習：グループワークの資料作成 事後学習：グループワークの資料作成
13	看護学における工学の理解(3)	施設の見学を通しての学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合についてグループワークを行う	事前学習：グループワークの資料作成 事後学習：グループワークの資料作成
14	看護学と工学のこれから(1)	看護学と工学のこれからについて発表を通して学びを共有する	事前学習：発表原稿を作成する。 事後学習：さらに深く学習したいことについて調べる。
15	看護学と工学のこれから(2)	看護学と工学のこれからについて発表を通して学びを共有する	事前学習：発表原稿を作成する。 事後学習：さらに深く学習したいことについて調べる。

関連科目	これまで履修した専門科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

キャリア形成科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護理工学	真田弘美・森武俊 編	東京大学出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義への参加状況、課題への取り組み、課題レポートやプレゼンテーションの内容を基に総合的に評価する。 講義・施設見学の参加状況：30% グループワークでの取り組みや回答内容：30% 発表・レポート：40%			
学生への メッセージ	学外の施設に見学に行きますので、看護を学ぶ学生としての振る舞いや積極性を求めます。また、授業の後半はグループワークがメインになるのでグループで協力して学びを深めてください。 看護学と工学の融合という新しい学問です。みなさんからの斬新なアイデアが創出されることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階 松本研究室 (28)、小崎研究室 (23)、池田 (16)			
備考				

発行 2018年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室】

